2023 年度 焼津福祉文化共創研究会５周年記念　調査研究事業

私にとって “ご近所”とは
中学生の意識と実態調査報告書

は

初めの一歩
勇気を出して
地域デビュー

わ

若者が
未来の地域を
創ってく

焼津福祉文化共創研究会

2023 年度
焼津福祉文化共創研究会5周年記念　調査研究事業
私にとって“ご近所とは　中学生の意識と実態調査報告書目次

➢ 目　　次

➢ はじめに　中学生の尊い“ご近所”への提言を，これからの地域づくりに活かすには　p.1

➢ 第 1 章　調査の概要　p.2

1. 調査実施意図
2. 調査方法と調査日
3. 調査票の形式及び調査項目
4. 調査対象と調査票の配布及び回収
5. 調査実施機関
6. 調査協働

➢ 第 2 章　サンプル構成・基本属性及びクロス集計　p.5

1.性別　2.学年別　3. 家族構成別　4. 兄弟姉妹別　5. クロス集計

➢ 第 3 章　調査結果　p.7

➢ 第 4 章　調査のまとめ　p.39

➢ 第 5 章　資料編　p.45p.

1. 2023 年度事業経過記録
2. 焼津福祉文化共創研究会　５年の歩み
3. 焼津福祉文化共創研究会 2023 年度活動計画
4. 共創社会実現研究会（調査部会）設置要綱
5. 調査実施要項
6. 調査票
7. 焼津福祉文化共創研究会規約
8. 中学生と「若者発　ご近所福祉かるた」で学ぶ“ご近所福祉”コーナー

★これからの福祉を考えるネットサイト

は　じ　め　に

中学生の尊い“ご近所”への提言を、これからの地域づくりに活かすには

「私は、一体地域をどれくらい知っているのか」「私の地域の福祉の現状は、どうなっているのか」等を、住民主体で学び合うことを目的に、平成28年度から平成30年度までの3年間、港地域づくり推進会(港第14・23自治会)管内において、「地域ささえあい講座」を開講、その後、この講座に関わった有志が、講座から得た尊い地域課題を基に、令和元年度に立ち上げたのが「焼津福祉文化共創研究会」です。 今年度で5年の活動となります。

本会の活動基調は、(1)専門性と市民性の融合 (2)会員だけの求心的・閉鎖的活動から、広く公開型の議論の場の機会を創る (3)地域社会の福祉課題の掘り起し の3つの柱立てを掲げて、活動に取り組んできました。

●1年目(令和元年度)は、改正介護保険制度下、各地域で取り組んでいる「居場所」について、「港地域の“ご近所”を切り拓く、集まる居場所で、地域ぐるみの支え合い」をテーマに「集める居場所ではなく、集まる居場所」を検証しました。

●2年目(令和2年度)は、「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組み、厳しいコロナ禍下で、さらに、身近な地域コミュニティへの関わりの希薄化が浮き彫りになりました。

●3年目(令和3年度)は、「地域の子どもを地域で育む」を検証する目的で、子ども(小学4年生から6年生)対象に、「福祉ってなに？ 244 名の子どもたちに聞きました調査」に取り組み、尊い子どもたちからの回答を大人社会に提言をしました。

●4年目(令和4年度)は、管内の高齢者対象に「ホッとする、安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組み、315名の高齢者からの回答を基に検証し、これからの地域づくりの提言としました。

そして、5年目の今年度は、「地域のニーズ把握から、“福祉文化”としての地域のご近所を描く」を活動テーマに、これまで地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族やご近所福祉(支え合い)の多様化とともに、その基盤が不透明化し、加えて、厳しいコロナ禍下にあって、住民相互の支え合いや、若者と日常的に交流できる地域環境には至っていない中、ようやく、ここにきて、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、地域社会に関心を抱き、近い将来、地域の担い手として期待をしたい中学生対象(管内2つの中学校の中学1年生から3年生)に、身近な地域社会に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加の必要性を呼び掛け、世代間交流が出来る、これからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」に取り組みました。

この調査研究事業に取り組むに当たり、焼津市立小川中学校、焼津市立港中学校の全面的なご理解とご支援をいただくとともに、小川地区コミュニティ推進会(小川第11・12・13自治会)、港地域づくり推進会(港第14・23自治会)、さわやかクラブ連合会やいづ、焼津市民生委員児童委員協議会のご理解をいただき、協働団体:静岡福祉文化を考える会との連携のもと、「共創社会実現研究会(調査部会)」を立ち上げ、事業の円滑な取り組みに努めてまいりました。

当初、本会として、調査回答を200名としていましたが、おかげをもちまして、476名の尊い生徒からの回答(意見)を大人社会への提言として考察することが出来ました。

ここに、ご理解とご支援をいただきました、各中学校をはじめ、関係団体に対しまして、厚くお礼申し上げます。

この事業は、市民の尊い「赤い羽根共同募金」による助成事業により、取り組むことが出来ました。

市民の皆様に、心よりお礼申し上げます。

学校・地縁組織(自治会 ・町内会)・志縁組織(目的・使命感を持った活動集団)等による「協働」の取り組みにより、これからの地域づくりに向けて、この調査報告書が参考になれば幸いです。

なお、この「調査報告書」は、本会結成5周年記念誌として、発行いたしましたことを申し添えます。

2024(令和6)年 2月24日

焼津福祉文化共創研究会

第１章　調査の概要

1. 調査実施意図

本会は、「活動目標：地域が抱えている生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために努力をする」「活動基調：(1)専門性と市民性の融合(2)公開型活動の取り組み(3)住民主体の活動」をもとに、これまでの活動のプロセスを重視し、「地縁組織」「志縁組織」との協働による、地域課題を共有していく取り組みをしている。

本会は、結成以来４年間、尊い市民からの「赤い羽根共同募金」による「 赤い羽根共同募金助成事業」の交付決定をいただき、「調査研究事業」の活動の実績をもつ。

＊２０１９年度：地域ぐるみの居場所検証　（大人対象　55 団体把握）
＊２０２０年度：居場所を取り巻く“ご近所福祉”検証　（大人対象　345 名回答）
＊２０２１年度：子どもから大人社会への提言　（小学生４～６年生対象 244 名回答）
＊２０２２年度: ご近所のささえあいの仕組みづくり検証　（高齢者対象 315 名回答）

５年目の今年度も、「 赤い羽根共同募金助成事業」の交付決定をいただき、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査」検証事業に取り組んだ。

「地域のニーズ把握から、“福祉文化としての地域のご近所を描く”」の 2023 年度の本会活動テーマをもとに、これまで、地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉(支え合い)の多様化とともに、その基盤が不透明化、加えて、厳しいコロナ禍下にあって、一方では、制度や公助による意図的な支援が当たり前な社会環境にある中、住民主体の地域の支え合いや、若者との日常的な交流環境には至っていない。　ここにきて、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきた時期に、地域社会に関心を抱き、近い将来、地域の担い手として期待をする中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加の必要性を呼びかけるとともに、世代間交流できる、これからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で本事業に取り組んだ。

この事業を実施するにあたり、「協働団体：静岡福祉文化を考える会 」とともに、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議(調査個票作成、調査集計・分析、調査結果考察、調査報告書編集、調査公表検討等)の議論を深めるとともに、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題や、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言するための議論をする目的で「共創社会実現研究会」設置した。

管内２つの中学校「焼津市立小川中学校」「焼津市立港中学校」との協議を積み重ね、生徒の主体的な調査活動への協力をお願いした。　地縁組織の「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」への協力も呼び掛けた。関連団体の「さわやかクラブ連合会やいづ 」「焼津市民生委員児童委員協議会」にも、ご理解と側面的ご理解を文書でお願いをした。

2. 調査方法と調査日

(1) 調査票・項目の検討

6 月 28 日　「助成交付決定書」届く。

7 月　8 日　7 月定例研究会で、「共創社会実現研究会（調査部会）」(協働団体：静岡福祉文化を考える会）を設置し、「第 1 回研究会（調査部会)」を開催　「本事業計画」「調査実施要項」「調査票」作成等を協議。その後、管内 2 つの中学校との協議。

7 月 15 日「第 2 回共創社会実現研究会（調査部会)」開催　「調査実施要項」「調査票」原案確認。2 つの中学校に「調査票（原案)」に対する意見をいただく。検討協議を積み重ね「予備調査」実施し、「調査票」を完成する。

8 月 19 日「第 3 回共創社会実現研究会（調査部会)」開催。「調査票」印刷工程に移行。

(2) 調査依頼（実施期間）

8月24日　２つの中学校に、正式調査協力依頼文書をもって「調査票」(各校生徒数分を届けた。　調査時点を９月１日とし，回収まとめを９月30日と伝えた。　併せて、地縁組織の「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」へこれまでの経過報告を実施した。　同様に、関連団体の「さわやかクラブ連合会やいづ 」「焼津市民生委員児童委員協議会」に、文書で経過報告をする。

(3) 回収・入力（単純集計）期間

9月 9日　「第4回共創社会実現研究会（調査部会)」開催

9月19日　小川中学校より、調査票回答281枚届く。

9月29日　港中学校より、調査票回答195枚届く。

＊２つの中学校から計476枚届く。当初の回収目標200枚を大幅に上回る回収結果となった。

＊事前に検討した「入力フォーマット」を確認する。

10月 1日　4名の会員により入力作業を開始。

10月14日　「第5回共創社会実現研究会（調査部会)」開催
事業経過報告及び入力作業の進捗状況を確認。
2つの中学校からの調査票の回収が予想以上であったことから、本会の考察・コメントをつけない各校の「調査結果概要」(単純集計と予め協議したクロス集計データ)を、各校及び地縁組織及び事務局にも資料提供することを確認。

10月16日　小川中学校及び小川地区コミュニティ推進会及び事務局へ「小川中学校281名回答調査結果概要」(全部で8冊作成）を届ける。

10月25日　476枚入力作業を完了。

10月28日　港中学校及び港地域づくり推進会及び事務局へ「港中学校200名回答調査結果概要」(全部で7冊作成）を届ける。

10月30日　単純集計及びクロス集計資料を会員に配布し、各会員による考察作業に入る。

11月 5日　各会員からの考察意見を取りまとめる作業に入る。

11月11日　「第6回共創社会実現研究会（調査部会)」開催
各会員からの考察意見をもとに、本会としての考察作業に取り組む。(～11/30)

12月 1日　本日より「調査報告書」執筆・編集作業に入る。(～12/30)

12月16日　「第7回共創社会実現研究会（調査部会)」開催
「調査報告書」執筆・編集作業の進捗状況報告と「調査報告研修会」検討

1月05日　印刷作業に入る。

1月10日　印刷製本仕上げる。

1月13日　「第8回共創社会実現研究会（調査部会)」開催
「調査報告書」の完成確認と「調査報告研修会」の具体的な展開協議

(4) 公表・報告

7月　3日 以降、「焼津福祉文化共創研究会通信第47号～第53号」で、本事業の取り組み及び調査結果を情報提供する。　また、関連各種会議や，関係機関・団体等の各種研修会において、考察内容を報告した。

2月 3日 「調査報告研修会：地域を変える　中学生の“ご近所福祉”への提言とは」開催

2月 4日　「調査報告書」配布計画に基づき配布

2月 10日 「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業実施報告書」提出

3. 調査票の形式及び調査項目

(1) 調査票の形式

A3版，両面2ページ，35項目の設問

(2) 調査項目

No.	調　査　項　目	設問 No.	設問数
1	基本属性	設問 1.（問 1.～問 5.）	5
2	生活状況（生徒自身）に関すること	設問 2.～設問 10.	9
3	家庭・家族に関すること	設問 11.～設問 15.	5
4	地域社会・地域活動に関すること	設問 16.～設問 29.	14
5	地域社会における福祉実体験に関すること	設問 30.～設問 34.	5
6	地域社会への期待・提言（自由意見）	設問 35.	1

○調査票の組み立てについては，2021 年度「福祉ってなに？244 名の子どもたちに聞きました調査」（小学 4 年生～6 年生対象）の「調査票」から，今回の調査実施の趣旨に基づく，「設問」として，考察できる内容（現中学１～2 年生）として，「16 の設問」（45%）を採用した。　新たな設問として，「18 の設問」を組み立てた。

4. 調査対象と調査票の配布及び回収

(1) 対象　管内 2 つの中学校の生徒（1～3 年生）を対象に約 200 名の回収を目標に実施。

(2) 配布及び回収状況

2 つの中学校との事前協議により，生徒数分の調査票を、本会より学校に届け、生徒の自発的な調査協力を学校側にお願いして実施。

その結果、2 中学校合わせて 476 名（全体の約８１％）から回答をいただいた。

5. 調査実施機関　焼津福祉文化共創研究会

6. 調査協働　静岡福祉文化を考える会

「静岡福祉文化を考える会」との密接な連携とともに，「共創社会実現研究会（調査部会）」を設置し、単に調査実施の議論だけではなく，本事業全体の活動テーマに基づき，きめの細かい議論を積み重ね、進行管理体制を明確にして取り組んだ。

2023 年度「地域共生社会調査研究部会」の開催状況は下記の通り。

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	7月　8日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識、課題整理
第2回	7月　15日(土)18:30 北川原公会堂	調査実施計画協議(調査実施要項・調査個票)
第3回	8月　19日(土)18:30 北川原公会堂	・調査票配布検討、調査実施上の課題反響、調査集計作業
第4回	9月　9日(土)18:30 北川原公会堂	調査回収状況、調査集計作業、協働の課題
第5回	10 月14日(土)18:30 北川原公会堂	調査集計作業進捗状況確認
第6回	11月11日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察について検討
第7回	12 月16日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書編集作業と地域づくりの課題考察、報告研修会計画
第8回	1 月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書確認、報告研修会の具体化
第9回	2 月　3日(土)10:00 石津コミセン	調査報告研修の展開確認、調査報告書配布及び実施報告書作成
第 10 回	2月24日(土)18:30 北川原公会堂	研究会総括(成果)　市社協への報告確認

7. 調査協力　焼津市立小川中学校　焼津市立港中学校
小川地区コミュニティ推進会　港地域づくり推進会
焼津市民生委員児童委員協議会
さわやかクラブ連合会やいづ

第２章　サンプル構成・基本属性

この章では，本調査の基本となる「サンプル構成」，「基本属性」をまとめた。

本会が結成した 2019 年から 2022 年度の 4 年間取り組んできた調査活動をもとに、引き続き広く取り組まれている「基本調査」，「世論調査」，「動向調査」等で活用している項目を参考にした。

「基本属性」については，(1)性別　(2)学年別　(3)家族構成別　(4)兄弟姉妹別　の 4 項目とした。

- ◆ このたびの調査は，小川・港両中学校のご理解とご支援をいただき、生徒の自主的調査への協力により、全生徒の約８１％の **476 名**から、尊い意見をいただくことが出来た。
- ◆ 設問 1. の問 1. ～問 4. の項目の回答において，一部重複回答と無回答があり，回答状況が 476 名に達していない、または、それ以上の集計項目があった。
  本会としては，この点を安易に，調査実施機関の立場で処理することなく，中学生の回答選択肢を尊重し，個々の集計実数をもって表示した。
- ◆ パーセンテージは，小数点以下の扱いをせず，整数表示としている。

1. 性別

(1) 男性 259 名 (55%)　　(2) 女性 212 名 (45%)

- ✓ 性別では，本会として，均等に調査票を配布していないが，今回は、男性 55%，女性 45%と比較すると，若干女性は少ないが，大きな差がない範囲内で，本事業を考察することができた。

2. 学年別

(1) 1 年生 176 名 (37%)　(2) 2 年生 134 名 (28%)　(3) 3 年生 163 名 (34%)

- ✓ 今回の調査では，結果的には，１年生の回答が一番多く、次に３年生、２年生の順であった。
- ✓ 学年別からは、大きな開きがない回答結果であった。

3. 家族構成別

(1) 祖父母と一緒に暮らしている　142 名 (30%)
(2) 親と子供だけで暮らしている　322 名 (69%)
(3) その他　5 名 (1%)

- ✓ 回答結果から,「親と子供だけで暮らしている」69%と多く､「祖父母と一緒に暮らしている」 30%の回答から、生活環境は、2.3 倍と都市型家族構成となっている。
- ✓ 2021 年度に実施した「児童対象調査」とほぼ同じ割合である。

	2021年度(児童対象調査)	2023年度(中学生対象調査)
①祖父母と一緒に暮らしている	32%	30%
②親と子どもだけで暮らしている	68%	69%
③その他	1%	1%

4. 兄弟姉妹別

(1)1 人　60 名 (13%)　(2)2 人　216 名 (46%)　(3)3 人　136 名 (29%)　(4) 4 人以上　58 名 (12%)

- ✓ 回答結果から,「2 人」46%と多く、次に「3 人」29%､「1 人」13%､「4 人以上」12%の順。
- ✓ 2021 年度に実施した「児童対象調査」とほぼ同じ割合である。

	2021年度(児童対象調査)	2023年度(中学生対象調査)
①1 人	12%	13%
②2 人	46%	46%
③3 人	30%	29%
④4 人以上	13%	12%

- ✓ 兄弟姉妹状況は、家族構成別とともに、家庭・家族関係と地域社会（ご近所）との関係性をより深く考察出来る。

2023年度　赤い羽根みんなのしあわせ助成事業焼津福祉文化共創研究会調査研究事業
「私にとって “ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」調査項目とクロス集計

今回の調査の考察については、「各設問」と「基本属性」を下記のクロス集計をもとに考察した。
2021年度小学生(4～6年生)対象「福祉ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査」と同じ設問を比較考察した。

設問№	基本属性 区分　設問内容	1性別	2学年	3家族構成	4兄弟姉妹
2	**A 生活状況(設問2－10　9問)** 今，趣味や特技がありますか	●	●		●
3	設問02.で「①ある」と答えた人 あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いますか	●	●		●
4	今の生活に満足していますか	●	●	●	●
5	今悩んでいることや心配なこと，困っていることはありますか	●	●	●	●
6	自分のことで困ったとき,主に，誰に話したり相談しますか	●	●	●	●
7	「ホッとする，安心した居場所」はありますか	●	●	●	
8	設問07.で「①ある」と答えた人に聞きます	●	●	●	
9	心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか	●	●		●
10	友だちが困っていたり，悩んでいたりしたらどうしますか	●	●	●	●
11	**B 家庭・家族に関すること （設問11-15　5問 ）** 家族と話をしますか。	●	●	●	●
12	設問11.で「①よく話をする」，「②たまに話をする」と答えた人に聞きます　どんな話をしますか	●	●	●	●
13	設問11.で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます	●	●	●	●
14	家の手伝いをしますか。	●	●	●	●
15	毎日家族と楽しく過ごしていますか	●	●	●	●
16	**C 地域社会・地域活動のこと(設問16-設問29　14問)** 自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか	●	●	●	
17	自分の住んでいる地域の人々との交流について，どのようにお考えですか	●	●	●	
18	地域は，「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか	●	●	●	
19	地域でどのようなことを心掛けていますか	●	●	●	
20	他人のために何かをしたいと思いますか	●	●	●	
21	近所の人に挨拶をしていますか	●	●	●	●
22	地域(自治会・町内会)が行うイベントによく参加していますか	●	●	●	●
23	設問　22.で「①よく参加している」，「②ある程度している」と答えた人に聞きます	●	●	●	●
24	設問　22.で「③あまり参加していない」，「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます	●	●	●	●
25	あなたが住んでいる地域は，良い地域だと思いますか	●	●	●	
26	設問25.で「①とても良い」「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか	●	●	●	
27	設問25.で「③あまり良くない」「④よくない」と答えた人に聞きます	●	●	●	
28	地域(自治会・町内会等)の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか	●	●	●	●
29	身近な地域の情報をどこから得ていますか	●	●	●	●
30	**D 地域社会における福祉実体験に関すること** **(設問30～　設問34　5問　)** 身近な地域社会の日常的な生活の中で，高齢者や障がいのある人とのふれあい交流やボランティア活動をしたことがありますか(学校教育以外で)	●	●	●	●
31	高齢者の方や障がい者の方が，身近な地域で生活していく上で，必要と思われる支援・サービスについて	●	●		
32	今後参加してみたい地域活動について	●	●		
33	地域参加活動に対するイメージは，どのようなものですか	●	●		
34	「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか	●	●	●	●
35	**E 地域社会への期待・提言（設問35　1問)** ともに助け合う地域づくりに向けての，積極的な地域参加や，これからの地域社会への期待・提言(自由意見)	●	●	●	

第３章　調査結果

第３章では、「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」について、３５の設問項目の調査票により、焼津市内の「小川地区コミュニティ推進会」及び「港地域づくり推進会」のご理解をいただき、管内の焼津市立小川中学校と焼津市立港中学校の全面的なご理解とご協力のもと、1 年生から 3 年生の中学生を対象に、調査を実施した。　本事業に取り組むにあたり、学校との事前の協議において、生徒の自主的な調査への協力の呼びかけをお願いするとともに、学校に過度な負担をかけないことを申し出て、現状を踏まえ、考察するに必要とする調査票の回収目標を２００枚とした。

調査時点を 9 月 1 日とし、9 月 30 日を目途に回収をお願いした結果、予想を大きく上回る 476 名（８１%）の生徒からの回答をいただいた。　この回答データを、「焼津福祉文化共創研究会」及び協働団体の「静岡福祉文化を考える会」内に「共創社会実現研究会（調査部会）」を設置し，期間内に 10 回開催し、入力作業、単純集計と、「性別」「学年別」「地域別」「家族構成別」「兄弟姉妹別」のクロス集計作業をし、第２章 サンプル/基本属性をもとに、３５の設問項目の調査結果を次の「６つの領域」に分けて考察した。

なお、本会では、２０２１年度に、「福祉ってなに？　２４４名の子どもたちに聞きました調査事業」に取り組んだ。この調査事業の「調査個票」に取り上げた設問のうち、１５の設問(◆印)を今回実施した「調査事業」の「調査個票」に組み入れ、２年後の意識と実態の動向を比較検証することとした。

(1) 基本属性(設問1の問 01～問 04 までの 4 問)

問 01「性別」 問 02「学年別」 問 03「家族構成別」　問 04「兄弟姉妹別」

(2) 生活状況（生徒）に関すること(設問 2～設問 10 までの9つの設問)

設問 02　あなたは，今、趣味や特技がありますか。

設問 03　設問 02. で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いますか。

設問 04　あなたは、今の生活に満足していますか。

設問 05　あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありますか。

（◆-1）設問 06　あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。

設問 07　あなたには、「ホッとする、安心した居場所」はありますか。

設問 08　設問 07. で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを 3 つまでお答えください。

設問 09　あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。

（◆-2）設問 10　あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたりしたらどうしますか。

(3) 家庭・家族に関すること(設問 11～設問 15 までの5つの設問)

（◆-3）設問 11　あなたは、家族と話をしますか。

（◆-4）設問 12　設問 11. で「①よく話をする」「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを 3 つまでお答えください。

（◆-5）設問 13　設問 11. で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを 3 つまでお答えください。

（◆-6）設問 14　あなたは、家の手伝いをしますか。

（◆-7）設問 15　あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。

(4) 地域社会・地域活動に関すること(設問16～設問 29 までの14 の設問)

設問 16　あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか。

設問 17　あなたは、自分の住んでいる地域の人々との交流について，どのようにお考えですか。

設問 18　あなたの地域は、「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。

（◆-8）設問 19　あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを 3 つまでお答えください。

設問 20　あなたは、他人のために何かをしたいと思いますか。

設問 21　あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。

（◆-9）設問 22　あなたは、地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。

設問 23　設問 22. で「①よく参加している」「②ある程度している」と答えた人に聞きます。主なものを 3 つまでお答えください。

設問 24　設問 22. で「③あまり参加していない」「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。主なものを 2 つまでお答えください。

（◆-10）設問 25　あなたが住んでいる地域は, 良い地域だと思いますか。

（◆-11）設問 26　設問 25. で「①とても良い」「②良い」と答えた人に聞きます。
どんな点が良いか, 主なものを 3 つまでお答えください。

（◆-12）設問 27　設問 25. で「③あまり良くない」「④よくない」と答えた人に聞きます。
どんな点が良くないか, 主なものを 3 つまでお答えください。

（◆-13）設問 28　あなたは, 地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか。

（◆-14）設問 29　あなたは, 身近な地域の情報をどこから得ていますか。
主なものを 3 つまでお答えください。

(5) 地域社会における福祉実体験に関すること（設問 30～設問 34 までの5つの設問）

（◆-15）設問 30　あなたは、身近な地域社会の日常的な生活の中で，高齢者や障がいのある人とのふれあい交流やボランティア活動をしたことがありますか（学校教育以外で）。

設問 31　あなたは。高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していく上で、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを 3 つまでお答えください。

設問 32　あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。

設問 33　あなたの、地域参加活動に対するイメージは，どのようなものですか。
主なものを 3 つまでお答え下さい。

（◆-16）設問 34　あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。

(6) 地域社会への期待。提言（設問 35 の1つの設問）

設問 35　ともに助け合う地域づくりに向けて、積極的な地域参加や，これからの地域社会への期待・提言（自由意見）について，箇条書きでお答えください

１．基本属性　（設問１の問０１～問０４　までの４問）

ここでは、設問1の問1から問4の「基本属性」についてまとめた。

					行計	項合計	項目内比(小川・港)
設問01	問01	性別	男性	①	259		55%
			女性	②	212	471	45%
	問02	学年	1年生	①	176		37%
			2年生	②	134		28%
			3年生	③	163	473	34%
	問03	家族について	祖父母と一緒に暮らしている	①	142		30%
			親と子どもだけで暮らしている	②	322		69%
			その他	③	5	469	1%
	問04	何人兄弟姉妹ですか	1人	①	60		13%
			2人	②	216		46%
			3人	③	136		29%
			4人以上	④	58	470	12%

(1) 性別について

＊男性259名（55%）、女性212名（45%）と、やや男性の回答が10%多いが、ほぼ同じ回答であった。 この回答から、男女別の考察はより具体的な結果をみることができる。

(2) 学年別について

＊(1)1年生 176名（37%） (2)2年生 134名（28%） (3)3年生 163名（34%）で、1 年生（176 名・37%）の回答が一番多く、次に 3 年生（163 名・34%）、そして、2 年生（134 名・28%）あったが学年別考察も大きな開きはなく考察可能となった。

(3) 家族構成別について

＊回答の多い順では、「親と子どもだけで暮らしている」 322名（69%） 「おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らしている」 142名（30%） 「その他 」 5名 （1%）。

＊回答結果から、都市型家族構成の地域環境傾向にある。

＊核家族化が進んでいる今日、「祖父母と一緒に暮らしている」142名（30%）は、家族機能の安心感が伺える。ご近所とのつながりも維持できる環境にある。

管内の地域環境から、いかに地域全体で、中学生との交流、青少年健全育成に努めることが出来るかの地域課題があげられる。

(4)兄弟姉妹別について

＊兄弟姉妹の回答では、一番多い回答は「2人」で216名（46%）、次に「3人」136名（29%）、次に、「1人」60名（13%）、「4人以上」58名（12%）の回答結果であった。

２．生活状況（中学生）に関すること（設問２～設問５までの４つの設問）

ここでは、35の設問項目のうち、「生活状況に関すること」について、

設問02 あなたは、今、趣味や特技がありますか。

設問03 設問02で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いますか。

設問04 あなたは、今の生活に満足していますか。

設問05 あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありますか。

設問06 あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。 （◆−1）

設問07 あなたには、「ホッとする、安心した居場所」はありますか。

設問08 設問07で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

設問09 あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。

設問10 あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたりしたらどうしますか。 （◆−2）

の９つの設問の回答結果をまとめた。

設問 02 あなたは、今、趣味や特技がありますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問02	あなたは、今、趣味や特技がありますか。	ある	196	77%	156	74%	352	76%
		ない	59	23%	55	26%	114	24%
		小計	255		211		466	

この設問では、大人に向かう成長期にある中学生は、多感でどんなことにも関心を示す年頃である。

生活を楽しくするであろう趣味や特技の有無を聞いた結果、全体では「持っている」７６％で中学生活を楽しめているとみる。男女別では７７％と男性が女性の７４％よりやや多い状況。しかし、「持っていない」２４％の回答である。学年別では「持っている」、３年生７９％、１年生７６％、２年生７２％。

			人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問02	あなたは，今，趣味や特技がありますか。	ある	131	76%	96	72%	126	79%
		ない	42	24%	38	28%	34	21%
		小計	173		134		160	

これを兄弟別にみると、「持っている」１人８１％、２人７７％、３人７４％、４人以上６８％と１人が「持っている」が一番多く、兄弟が多くなるほど「持っている」が少ない。

			人数	1人	人数	2人	人数	3人	人数	4人以上
設問02	あなたは，今，趣味や特技がありますか。	ある	48	81%	165	77%	100	74%	39	68%
		ない	11	19%	49	23%	35	26%	18	32%
		小計	59		214		135		57	

設問 03　設問 02 で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問03	設問02で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いますか。	大いに思う	20	10%	12	8%	32	9%
		機会があれば活かそうと思	57	29%	54	36%	111	32%
		あまり思わない	46	24%	44	29%	90	26%
		まったく思わない	33	17%	22	14%	55	16%
		わからない	38	20%	20	13%	58	17%
		小計	194		152		346	

こうした、趣味・特技を、地域との繋がりを持つために、地域活動に活かそうと考えているかを聞いた結果、「大いに活かしたいと思う」「機会があれば活かそうと思う」を合わせると全体では４１％が、地域の呼びかけによっては、活かそうと回答している。やや、男性の方が積極的な回答である。約６割は、「地域活動」に活かす回答ではない。ここから、生徒の地域社会の理解（現状認識）への大人社会のアプローチと、こうした趣味・特技を活かせる地域社会を大人社会がいかに働きかけていくかの課題の一面が伺える。「趣味・特技を地域に活かす」回答を学年別にみると１年生５０％、３年生４０％、２年生３４％で、２年生は控えめな回答である。兄弟姉妹別では２人４３％、３人４２％、１人・４人以上各３８％である。

ここで、中学生が回答した「趣味・特技」の内容を、下記のように一覧表にまとめた。
学年別にまとめてみると、３年生男性８３件、１年生男性７８件、１年生女性６８件、３年生女性６６件、２年生女性４９件、２年生男性４６件と、１年生、３年生、２年生の順に多い回答内容をいただいた。

このように、中学生から、実に幅広い趣味・特技の回答をいただき、中学生の生活の一端を理解することが出来る。回答内容から、傾向として、男性は、「スポーツ領域」、女性は、「文化領域」が伺えた。

※枠内：内容/回答件数/全体%

回答順位 / 学年/男女別	1	2	3	4	5
1年生男性(78)	スポーツ /31/40%	ゲーム /20/26%	その他 /17/22%	草取り/2/3%　釣り/2/3%　読書/2/3%　勉強/2/3%　料理/2/3%	
1年生女性(68)	絵画・イラスト /17/25%	スポーツ /13/19%	その他 /7/10%	音楽鑑賞/6/9% 楽器演奏/6/9% 料理・調理/6/9%	ゲーム/4/6% 読書/4/6% 歌/3/4%手芸/2/3%
2年生男性(46)	スポーツ /27/59%	その他 /13/28%	ゲーム/2/4%　読書/2/4%　ラジコン/2/4%		
2年生女性(49)	スポーツ /13/27%	絵画 /9/18%	その他 /7/14%	楽器演奏 /5/10%	音楽鑑賞/4/8% 料理・調理/4/8% ダンス/3/6% ゲーム/2/4% 手芸/2/4%

3 年生男性(83)	スポーツ /29/35%	ゲーム /16/19%	その他 /13/16%	読書/5/6% パソコン/4/5% サイクリング/3/4% 料理/3/4%	歌/2/2% 音楽鑑賞/2/2% 楽器演奏/2/2% ダンス/2/2% 勉強/2/2%
3 年生女性(65)	その他 /13/20%	音楽鑑賞/10/15% 絵画・イラスト/10/15% スポーツ/10/15%	楽器演奏 /8/12%	読書 /4/6%	ゲーム/3/5% ダンス/3/5% 裁縫・手芸/2/3% 料理/2/3%

●その他の回答内容

※1 年生男性：BMX（特定な自転車での競技）、生き物飼育・採取、歌を歌うこと、お絵かき、けん玉、声のでかさを活かした挨拶、スケボースプラトゥーン３、スマホやネットリテラシー、雑学、世界地図を読むこと、ダンス、貯金と猫の世話、縄飛び、早い拍手、ピアノ、マンガ、無線

※1 年生女性：アニメやマンガを読むこと、習字、植物の写真撮影、舞踏、縄跳び、ネイル、レンジでキーホルダー創り、人と話すこと、読み聞かせ

※2 年生男性：アニメ、楽器演奏、体を動かす、機械系プログラミング、切り絵、体力、物づくり、動画制作、動画鑑賞、友人と遊ぶこと、ブレイクダンス、ペン回し

※2 年生女性：アイドルを見る、おしゃべり、グッツ集め、コスプレ、サバゲー、習字、読書、レジン

※3 年生男性：BMX,絵画、海外サッカー見ること、工作、裁縫、電車に乗って旅をする、一人時間、漫画、ユーチューブを見る、ヨーヨー、ラップ、レゴで組み立て、失敗を成功につなげること

※3 年生女性：アニメ、インテリアについて調べる事、映画鑑賞、駅伝を見る、おしゃべり、歌唱、動画鑑賞、コミュニケーション力作曲、習字、即応性あり、パソコン、フェルト人形を作ること、ボランティア活動

設問 04　あなたは、あなたは、今の生活に満足していますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問04	あなたは、今の生活に満足していますか。	大いに満足している	66	25%	41	19%	107	23%
		満足している	138	53%	129	61%	267	57%
		やや不満足である	37	14%	21	10%	58	12%
		大いに不満足である	4	2%	4	2%	8	2%
		わからない	14	5%	16	8%	30	6%
		小計	259		211		470	

ここでは、中学生の今の生活の満足度を聞いた。生活面での満足度は、「大いに満足している」「満足している」で、80％と高い回答である。生活基盤が豊かな家庭が多いととれる。

具体的には、「経済的（小遣い）」「住宅事情」「健康面」「食事面」「学校生活」「友人関係」等、中学生の総合的な生活環境からの満足度と受け止めたい。しかし、20％は、今の生活に満足しない環境にいることを受け止めたい。家族構成別では、大きな開きはない。兄弟姉妹別では、満足度の高い順に、1 人91％、2人79％、3人78％、4人以上73％と、兄弟姉妹が多くなるにしたがい、満足度は上がらない。

			人数	1人	人数	2人	人数	3人	人数	4人以上
設問04	あなたは、今の生活に満足していますか。	大いに満足している	14	23%	47	22%	29	21%	16	28%
		満足している	41	68%	124	57%	77	57%	26	45%
		やや不満足である	3	5%	28	13%	17	13%	10	17%
		大いに不満足である	0	0%	7	3%	0	0%	0	0%
		わからない	2	3%	10	5%	12	9%	6	10%
		小計	60		216		135		58	

設問 05　あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問05	あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていることはありますか。主なものを3つまでお答えください。	家族・家庭のこと	20	4%	20	5%	40	5%
		兄弟姉妹のこと	3	1%	11	3%	14	2%
		学校の勉強のこと	103	22%	99	24%	202	23%
		友達関係のこと	22	5%	34	8%	56	6%
		進学のこと	84	18%	61	15%	145	17%
		将来のこと	82	18%	58	14%	140	16%
		自分自身のこと	41	9%	64	16%	105	12%
		その他	5	1%	4	1%	9	1%
		困っていない	98	21%	58	14%	156	18%
		小計	458		409		867	

回答生徒の約８０%は、悩みがあると回答している。いまの生活に、満足している生徒にも悩みがあると回答している。全体的に、回答の多い順の悩み、「学校の勉強のこと」２３%、「困っていない」１８%、「進学のこと」１７%、「将来のこと」１６%、「自分自身のこと」１２%、「友だち関係のこと」７%、「家庭・家族のこと」５%、「兄弟姉妹のこと」２%、「その他」１%と、主には「学校の勉強のこと」「進学のこと」「将来のこと」があがっている。

これを、男女別にみると、「進路のこと」「将来のこと」「困っていない」は、男性の方が回答が多い。「自分自身のこと」「友だち関係のこと」「家庭家族のこと」は、女性の方が回答が多い。

学年別に、回答の多い順には、1年生は、「困っていない」３３%、「学校の勉強のこと」１８%、「将来のこと」１５%、「自分自身のこと」１１%、「進学のこと」９%、「友だち関係」８%、「家庭家族のこと」４%、「兄弟姉妹のこと」２%、「その他」１%。

２年生では、「学校の勉強のこと」２２%、「困っていない」１７%、「将来のこと」１６%、「進学のこと」１５%、「自分自身のこと」１４%、「家庭家族のこと」７%、「友だち関係」５%、「兄弟姉妹のこと」２%、「その他」１%。　３年生では、「学校の勉強のこと」２７%、「進学のこと」２４%、「将来のこと」１７%、「自分自身のこと」13%、「困っていない」７%、「家庭家族のこと」３%、「兄弟姉妹のこと」１%、「その他」１%。　「困っていない」回答は学年が上がるにしたがって少ない。

共通する回答は、「学校の勉強のこと」は、どの学年も高い回答結果である。

家族構成別、兄弟姉妹別では、「学校の勉強のこと」「進学のこと」「将来のこと」等、それぞれほぼ同じ回答状況であった。

			人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問05	あなたには，今悩んでいることや心配なこと，困っていることはありますか。主なものを3つまでお答えください。	家族・家庭のこと	11	4%	17	7%	12	3%
		兄弟姉妹のこと	6	2%	5	2%	3	1%
		学校の勉強のこと	49	18%	59	24%	94	27%
		友達関係のこと	21	8%	13	5%	23	7%
		進学のこと	24	9%	37	15%	84	24%
		将来のこと	40	15%	41	16%	60	17%
		自分自身のこと	29	11%	34	14%	44	13%
		その他	4	1%	2	1%	4	1%
		困っていない	90	33%	42	17%	25	7%
		小計	274		250		349	

設問 06　あなたには、自分のことで困ったときは主に、誰に話したり相談したりしますか。主なものを３つまでお答えください（◆–1）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問06	あなたには，自分のことで困ったときは主に，誰に話したり相談したりしますか。主なものを3つまでお答えください。	友人	121	27%	128	33%	249	30%
		父親	70	15%	27	7%	97	12%
		母親	117	26%	107	28%	224	27%
		学校の先生	25	5%	24	6%	49	6%
		祖父母	17	4%	14	4%	31	4%
		親戚の人	3	1%	5	1%	8	1%
		兄弟姉妹	19	4%	34	9%	53	6%
		その他に人	2	0%	3	1%	5	1%
		誰にも相談しない	46	10%	26	7%	72	9%
		困っていない	36	8%	19	5%	55	7%
		小計	456		387		843	

全体的な回答結果から、回答の多い順に、「友人」３０%、「母親」２７%、「父親」１２%、「誰にも相談しない」９%、「困っていない」７%、「学校の先生」「兄弟姉妹」各６%、「祖父母」４%、「親戚の人」「その他の人」各１%。困りごとを、友人に相談することは、大人社会から見ると、少々気にもなる状況にはある。相談の内容にもよるが、日常生活の中で、中学生同士で解決し合う関係の維持は、一方では大切にしていかなければならない。困っていることを打ち明ける相談相手は事柄によって選んでいる年齢に達している感じもする。抱えている問題について、人間関係を大事にしながら、

相談相手を見つけている感じでもある。家族の中で、語れる環境をつくることが求められている中で、「父親」の存在が見え隠れしている。「母親」２７％に対して、「父親」１２％と家族の中では、話しやすいのは母親である印象が強い。学年別、兄弟姉妹、家族構成別では、全体の回答結果とほぼ同じ。

「誰にも相談しない」９％は、相談する必要性が無いのか、相談する人がいないのかを配慮していくことが必要である。

◆今回の調査結果においては、2年前の児童（小学4年生～6年生対象）「福祉ってなに？　２４４名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
① 友人	２０％	２９％ ↗
② 父親	１６％	１１％ ↘
③ 母親	３５％	２６％ ↘
④ 学校の先生	７％	６％ ↘
⑤ 祖父母	６％	４％ ↘
⑥ 親戚の人	１％	１％ →
⑦ 兄弟姉妹	８％	６％ ↘
⑧ その他の人	１％	１％ →
⑨ 誰にも相談しない	２％	９％ ↗
⑩ 困っていない	４％	７％ ↗

※成長とともに、家族（父親・母親・兄弟姉妹・祖父母）内での相談よりも、友人への相談の傾向が伺える。また、「誰にも相談しない」傾向も増えている。

設問 07　あなたには、「ホッとする、安心した居場所」はありますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問07	あなたには，「ホッとする，安心した居場所」はありますか。	ある	215	81%	180	85%	395	83%
		ない	10	4%	5	2%	15	3%
		わからない	41	15%	26	12%	67	14%
		小計	266		211		477	

人間には、「人的環境」「自然的環境」「物的環境」「空間的環境」の「４つの環境」があるといわれている。中学生の日常の生活環境の中で、落ち着く環境はどこかを聞いてみた。

全体的回答では、「ある」８３％、「ない」３％、「わからない」１４％。

男女別回答結果は、女性の「ある」８５％に対して、男性は８１％と低い。

ホッとする居場所の「ない・わからない」回答に対して、大人社会が、日頃から「ホッとする居場所」に心掛ける必要があると感じる。

回答結果では、学年別、家族構成別ともに、全体的回答と同じ回答傾向である。

設問 04 の「今の生活に満足」８０％の回答結果に近い回答傾向である。

設問 08　設問 07 で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問08	設問07.で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。	自分の部屋	136	34%	121	33%	257	33%
		家庭	92	23%	83	23%	175	23%
		部活やサークル	26	6%	17	5%	43	6%
		学校	29	7%	18	5%	47	6%
		友達といる場所	79	20%	80	22%	159	21%
		学習塾	9	2%	7	2%	16	2%
		近所の家	0	0%	3	1%	3	0%
		公共施設（公民館・図書館	5	1%	6	2%	11	1%
		SNS	16	4%	23	6%	39	5%
		その他	13	3%	6	2%	19	2%
		小計	405		364		769	

全体的な回答結果で、一番多い回答が「自分の部屋」３３％、次に「家庭」２３％、次は「友だちといる場所」２１％で、「部活やサークル」「学校」各６％、「SNS」５％、「学習塾」「その他」各２％、「公共施設」（公民館・図書館）１％の回答である。

「自分の部屋」「家庭」「友だち」と続くことは、青年期を迎える生徒には当然と捉え、人間関係づくりの助走となる。次に、「学校」「部活」「サークル」と、人に興味を持つ年代へと広がっていく。

「自分の部屋」に閉じこもってしまうことがないように、常に、「家庭」とのつながりを大人社会は心掛けたい。「SNS」５％の居場所は、これからの時代性を表している。

女性は、男性よりも「友だちといる場所」の回答は多い。学年別で、目立つのは、進学に備えた時期なのか、3年生は、「自分の部屋」１００％の回答。１・２年生は、全体の回答傾向である。

家族構成別では、大きな開きはない。

設問 09　あなたには、心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問09	あなたには，心を開いて話せる友人は、何人くらいいますか。	1人～2人	55	22%	209	90%	264	54%
		3人～4人	70	28%	16	7%	86	18%
		5人以上	104	41%	7	3%	111	23%
		いない	25	10%	0	0%	25	5%
		小計	254		232		486	

全体的な回答結果では、「1 人から 2 人」が５４％と一番多い回答である。

男女別では、男性は「5 人以上」４１％と最も多い回答。女性は「1 人～2 人」が９０％と、集団的つながりの男性に対して、女性は、個人的なつながりと大きな開きがみられた。

学年別で、一番多い回答は、1 年生「5 人以上」４４％、2 年生も、「5 人以上」４０％、3 年生は「3 人～4 人」３６％である。

兄弟姉妹別では、1 人は、ほぼ均等的付き合いであるが、2 人以上は「5 人以上」の心開く友人を回答している。

設問 10　あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたりしたらどうしますか。（◆-2)

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問10	あなたは，友だちが困っていたり，悩んでいたりしたらどうしますか。	話を聞く	209	82%	195	92%	404	87%
		別の友だちや大人などに相	16	6%	5	2%	21	5%
		何もしない	7	3%	3	1%	10	2%
		その他	0	0%	0	0%	0	0%
		わからない	22	9%	8	4%	30	6%
		小計	254		211		465	

全体的な回答結果では、「話を聞く」８７％で、一番多い。次に「わからない」６％、「別の友だちや大人たちに相談する」５％、「なにもしない」２％。男女別では、「話を聞く」は、男性８２％よりも、女性の方が９２％と積極的に友だちに関わろうとする回答である。「わからない」の男性９％に対して、女性４％からも、女性の積極性が伺える。学年別では「話を聞く」2 年生９０％と、友だちへの関わりは積極的であり、次に 3 年生８６％、1 年生８５％の回答である。家族構成別では、「親と子どもで暮らしている」中学生の方が８９％と、「祖父母と一緒に暮らしている」中学生の８２％より、積極的な関わりの回答結果である。

兄弟姉妹別では、兄弟姉妹が多くなるにしたがい、友だちへの心を開いた関わりが多い回答結果である。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生～6 年生対象）「福祉ってなに？　２４４名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

※児童の回答から、中学生になると、しっかりと相手を受け止めようとする回答結果から「自分自身で相手の話を聞く」回答が約５％高くなっている。

「何もしない」回答も減少し、更には、児童の回答では「わからない」が、今回の調査結果からは、約５％も減少し、積極的な関わりをもとうとする回答結果となっている。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
① 話を聞く	８２％	８７％ ↗
② 別の友だちや大人などに相談する	４％	４％ →
③ 何もしない	３％	２％ ↘
④ その他	１％	０％ ↘
⑤ わからない	１１％	６％ ↘

生活状況（中学生）に関する回答結果から見えたもの

1．大人に向かう、成長期の中学生に、生活を楽しくする「趣味・特技」の有無の回答とともに、これからの地域社会への関わりに、活かすことが出来るかの回答を求めた。
中学生の約 76%は、実に、幅広い領域の「趣味・特技」をもっていると回答があった。男性の方が、「スポーツ領域」で積極的な回答であった。女性は「文化領域」の内容であった。一人っ子でも、生活を楽しむための努力をしている。
地域社会を十分把握しきれていない年代からすると、地域社会とのつながりを持つ回答が4割で、まだ6割は、意識の中にはない回答であった。

2．今の生活の満足度は、「満足である」回答が 8 割あり、生活基盤が豊かな家庭環境にあると伺えた。

3．満足な生活環境にあって、今、中学生の悩みについての回答は、「学校の勉強のこと」「進学のこと」「将来のこと」「自分自身のこと」「友達関係」等があげられている中で、「困っていない」回答が 2 割あった。
学年が進むに従い、当然ではあるが、「学校の勉強のこと」「進学のこと」「将来のこと」が高い回答となっている。「学校の勉強のこと」は、共通した悩みである。

4．自分のことで、困った時の相談相手は、成長とともに、家族よりも、友人関係につながっている。
なかでも、相談相手の友人関係の広がりは大きい。
家族の中は、常に、母親が相談相手の中心になっている回答結果である。
2 年前の児童対象の調査結果からも、父親の存在感が見え隠れしている。
悩みの内容にもよるが、人間関係を大切にしながら、家庭の中で、語れる環境に心掛け、父親の出番ができる工夫もしていきたい。父親の復権については、社会の大きな変化とともに、これまで、ずっと求められてた課題でもある。

5．中学生の「ホッとする安心した居場所」は「ある」の全体的な回答が 8 割であった。しかし、これを男女別にみると、男性の孤立傾向が伺える。具体的な居場所の回答では、一番多い回答が「自分の部屋」、次に「家庭」「友達のいる場所」であった。家庭内で、孤立することなく、常に家庭内の環境を工夫し、大人社会が、常に身近な地域とつなぐ努力も求められる。

6．かなり、中学生になると、家族から友人関係へと人間関係が広がっている。こうした中で、女性は、少人数の人間関係を保持する回答であるが、男性は、集団的な交友関係をもとうとする傾向が調査結果から伺える。常に、家庭環境を整えていく中で、望ましい交友関係に発展することが期待されている。

7．友人の悩みを、どのように受け止めることが出来るかの回答では、児童対象の調査結果より、「話を聞く」87%は、児童対象の回答より、5%高い回答結果である。
また「何もしない」「わからない」も減少傾向の回答結果であり、はるかに社会的役割を持った対応に大きく変化していることがわかる。
男女別回答で、顕著な回答結果となっているのは、女性は、「話を聞く」回答が 92%と高いが、男性は 82%で、コミュニケーション面での大きな開きが伺える。
その結果、男性は、「ほかの友だちや大人につなげる」回答となる傾向が伺える回答になっている。

３．家庭・家族に関すること（設問 11～設問 15 までの５つの設問）

ここでは、35の設問項目のうち、「家庭・家族に関すること」に関して、

設問 11　あなたは、家族と話をしますか。（◆-3）

設問 12　設問 11 で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを3つまでお答えください。

設問 13　設問 11 で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。（◆-4）

設問 14　あなたは、家の手伝いをしますか。（◆-5）

設問 15　あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。（◆-6）

の５つの設問の回答結果をまとめた。

設問 11　あなたは、家族と話をしますか。（◆-3）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問11	あなたは、家族と話をしますか。	よく話をする	196	77%	173	82%	369	79%
		たまに話をする	50	20%	36	17%	86	18%
		ほとんど話をしない	8	3%	2	1%	10	2%
		小計	254		211		465	

家族との会話について、全体的な回答結果から、「よく話をする」79%、「たまに話をする」18%と、「話をする」回答が 97%と、家族とのコミュニケーションがあり、語れる家族家庭環境にはあるが、「たまに話をする」18%から、さらに、大人社会の歩み寄りの工夫が必要と感じる。男女別では、男性 77%に対して女性 82%と、女性の方が、会話の機会が多い。学年別では、3 年生になると、会話の機会が少ない傾向にある。 家族構成別では、大きな開きはないが、やや、親子別では、祖父母同居別よりも、会話が多い傾向がある。兄弟姉妹別では、多くなるに従い、会話の機会は多い傾向がみられる。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学4年生～6年生対象）「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
① よく話をする	88%	79% ↘
② たまに話をする	11%	19% ↗
③ ほとんど話をしない	1%	2% ↗

※成長とともに、家族との会話は減少傾向にある。

設問 12　設問 11 で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを３つまでお答えください。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問12	設問11.で「①よく話をする」、「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。主なものを3つまでお答えください。	学校であったこと	177	30%	169	33%	346	31%
		テレビ番組や雑誌などのこ、	92	16%	78	15%	170	15%
		趣味や遊びのこと	121	20%	89	17%	210	19%
		社会の出来事	35	6%	13	3%	48	4%
		親や祖父母のこと	7	1%	6	1%	13	1%
		家族のこと	18	3%	30	6%	48	4%
		家族の健康・介護等のこと	2	0%	2	0%	4	0%
		近所の出来事	6	1%	4	1%	10	1%
		自分の悩み	15	3%	20	4%	35	3%
		将来のこと（進路）	33	6%	20	4%	53	5%
		友人・知人のこと	49	8%	59	12%	108	10%
		SNS	23	4%	18	4%	41	4%
		その他	15	3%	3	1%	18	2%
		小計	593		511		1104	

「家族とよく話をする」「たまには話をする」回答者から、どのような内容の話かの全体的な回答結果の多い順にあげると、「学校であったこと」31%、「趣味や遊びのこと」19%、「テレビや雑誌などのこと」15%、「友人・知人のこと」10%、「将来（進路）のこと」5%、「社会の出来事」「家族のこと」「SNS」各4%、「自分の悩み」3%、社

会の流れの中で、家族内での話題に「SNS」が浮かび上がっている。何気ない、家族との会話により、社会に向けた広がりを期待したい。

男女別では、大きな開きはないが、「友人・知人のこと」は、女性の方が多い回答である。

学年別では、やはり3年生は「将来のこと（進路）」が他の学年より3倍ほど多い。

家族構成別では、大きな変化はない。兄弟姉妹別で、目立った回答は、「趣味や遊びのこと」は、兄弟が多くなるほど話題が多い。

設問 13　設問 11 で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを３つまでお答えください。（◆-4）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問13	設問11.で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。	勉強が忙しくて，家族と話	2	13%	0	0%	2	11%
		話したくない	5	33%	1	25%	6	32%
		何を話していいのかわから	5	33%	2	50%	7	37%
		習いごと（部活）が忙しく	2	13%	0	0%	2	11%
		その他	1	7%	1	25%	2	11%
		小計	15		4		19	

「家族とほとんど話をしない」2％（約 10 名）の生徒の回答から、「何を話していいのかわからない」37％、「話したくない」32％、「勉強が忙しくて、家族と話したくない」「習いごと（部活）が忙しくて話す時間が無い」「その他」各11％。学年別では、1 年生は「何を話していいかわからない」、2 年生は、理由は分散しているが、3 年生は、「話したくない」の回答が目立つ。兄弟姉妹別では、理由が分散している。家族構成別では、親と子どもだけの環境では、祖父母と暮らしている環境よりも、「話したくない」の回答が上回っている。この回答結果から、常に、家庭家族環境に置いて、大人社会が自由に語れる環境を保証する心掛けが求められている。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生～6 年生対象）「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果（この時も2％）と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
①　勉強が忙しくて、家族と話す時間が無い	0%	11% ↗
②　話したくない	0%	32% ↗
③　何を話していいのかわからない	100%	37% ↘
④　習いごと（部活）が忙しくて話す時間が無い	0%	11% ↗
⑤　その他	0%	11% ↗

※小学生、中学生ともに、「家族とほとんど話をしない」2％の回答結果であった。これらを比較すると、中学生が家族と話をしない理由が分散していることが伺える。

設問 14　あなたは、家の手伝いをしますか。（◆-6）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問14	あなたは，家の手伝いをしますか。	ほぼ毎日手伝っている	69	27%	47	22%	116	25%
		ときどき手伝っている	100	39%	105	50%	205	44%
		言われた時だけ手伝う	67	26%	50	24%	117	25%
		ほとんど手伝わない	19	7%	9	4%	28	6%
		小計	255		211		466	

この設問は、とにかく「勉強」「部活」等に時間を当てている中学生の立場と、大人社会は、共働きの社会的状況の中で、「手伝い」を家庭生活の中で位置づけているかを問いかけた。

全体的な回答結果からは、「毎日手伝っている」２５％、「ときどき手伝っている」４４％と、「手伝い」が家庭環境の中に位置づけられている（約 7 割）ことが把握できた。「ほとんど手伝わない」６％は、家庭環境に要因するようにも伺える。

男女別の回答結果では、「ほぼ毎日手伝っている」「ときどき手伝っている」を合わせると、男性６６％に対して、女性７２％と、女性の方が「手伝い」に積極的である回答である。

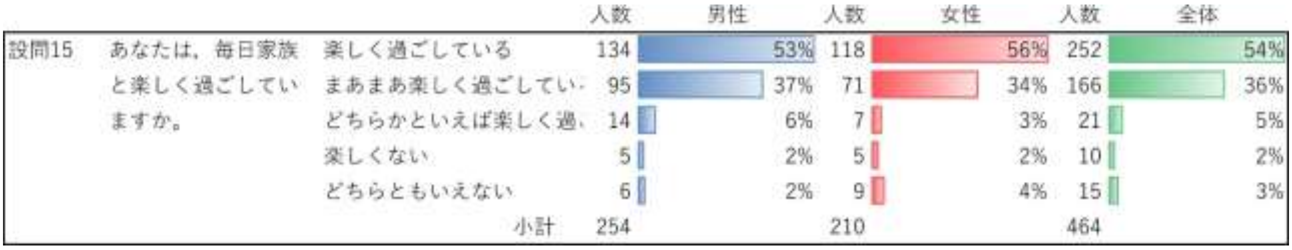
学年別では、「手伝いをする」２年生７３％、３年生６８％、１年生６６％順の回答で、３年生は、家

庭環境に、前向きな受け止めをし、歩み寄りが伺える回答結果であった。
家族構成では、「親と子どもだけで暮らしている」環境の中学生は、親の就労状況を読み取り、「手伝い」を認識している回答と受け止めることが出来る。
　兄弟姉妹別では、２人が手伝いをする回答が多い。次に１人・４人以上、３人の順。
　◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生〜6 年生対象）「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
①　ほぼ毎日手伝っている	３５％	２５％　↘
②　ときどき手伝っている	４２％	４４％　↗
③　いわれた時だけ手伝う	２０％	２５％　↗
④　ほとんど手伝わない	３％	６％　↗

※小学生から中学生に向かうに従い、生活環境から「手伝い」の位置づけが大きく変化をしている。

設問 15　あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。（◆-7）



　中学生の生活基盤である「家庭環境」についての問いに対して、全体的な回答結果は「楽しい」５４%、「まあまあ楽しい」３６%と「楽しい」家庭環境である回答は９０%で、管内の中学生の家庭環境の明るさを読み取ることができる。「どちらかといえば楽しく過ごしていない」「楽しくない」「どちらともいえない」１０%は、今後に向けて、大人社会に対する課題とも受け止められる。
　「楽しくない」２%は、前述（設問 11）の「家族とほとんど話さない」２%と符合する回答状況である。男女別では、「楽しく過ごしている」男性５３%、女性５６%であるが、「まあまあ楽しく過ごしている」男性３７%、女性３４%で、「楽しく過ごしている」と大きな開きはない回答結果である。
　学年別では、「楽しい」１年生５７%、2 年生５６%、3 年生４８%と、学年が上がるに従い「楽しい」回答が減少している。このことは、成長期とともに、生活環境の違い（進学等）からの傾向も伺える。
　家族構成別では、親子のみの生活環境に「楽しい」が読み取れる。
　兄弟姉妹別では、１人５８%、２人５４%、３人５５%、４人以上５１%と、兄弟姉妹が多くなると、やや「楽しい」家庭環境が減少傾向の回答結果である。
　◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生〜6 年生対象）「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
①　楽しく過ごしている	７２％	５４％　↘
②　まあまあ楽しく過ごしている	２２％	３６％　↗
③　どちらかといえば、楽しく過ごしていない	２％	５％　↗
④　楽しくない	０％	２％　↗
⑤　どちらともいえない	３％	３％　→

※全体的な比較では、やや、成長とともに「楽しい」家庭環境に変化が生じている。
　大人社会に近づく、中学生の成長過程と受け止めることが出来るように感じる。

家庭・家族に関する回答結果から見えたもの

1. 家庭・家族との会話は良好な環境を維持し、楽しい、語れる家庭環境にあることが理解できた。
   主な会話の内容は、「学校であったこと」「趣味や遊びのこと」「テレビや雑誌などのこと」が多く回答されていた。何気ない会話の出来る語れる環境から、成長に伴う、内面的な話し合いが出来る環境維持の工夫が求められる。更に大人社会の歩みは、男性に対して、成長とともにより工夫が必要と感じる。家族構成別では、小学生とは異なり、親子での暮らしの方が、祖父母同居よりも会話が多い傾向が伺えた。
2. 大人社会の共働き時代における家庭環境の中で、「手伝い」はどのような存在かを問い質した結果、「前向きに手伝いをする」70%の回答であった。小学生の時から、成長とともに、家庭環境の中に、「手伝い」の位置づけは、薄くなっている傾向にもある。家族・家庭の認識と関わりにより、中学生の貢献度が生み出されることを期待したい。
   ここでも、女性の積極的な取り組みが伺えた。会話とともに、男性への働きかけをしていく環境を維持していきたい。

４． 地域社会・地域活動に関すること（設問 16～設問 29 までの 14 の設問）

ここでは、35の設問項目のうち、「地域社会・地域活動に関すること」について、

設問 16　あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか。
設問 17　あなたは，自分の住んでいる地域の人々との交流について、どのようにお考えですか
設問 18　あなたの地域は、「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか
設問 19　あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。（◆−7）
設問 20　あなたは、他人のために何かをしたいと思いますか。
設問 21　あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。
設問 22　あなたは、地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。（◆−8）
設問 23　設問 22 で「①よく参加している」、「②ある程度参加している」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。
設問 24　設問 22 で「③あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人に聞きます。主なものを2つまでお答えください。
設問 25　あなたの住んでいる地域は、良い地域だと思いますか。（◆−9）
設問 26　設問 25 で「①とても良い」、「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか、主なものを3つまでお答えください。（◆−10）
設問 27　設問 25 で「③あまり良くない」、「④良くない」と答えた人に聞きます。どんな点が良くないか主なものを3つまでお答えください。（◆−11）
設問 28　あなたは、地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼びかけがあれば参加しますか。（◆−12）
設問 29　あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。（◆-13）

の14の設問の回答結果をまとめた。

設問 16 あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問16	あなたは、自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」	知っている	25	10%	35	17%	60	13%
		知らない	222	90%	168	83%	390	87%
		小計	247		203		450	

防災訓練等有事の際や地区別行事等では、よく、会場において、地区住民の所属を明示することがある。家庭内で、日頃から、家族が所属している地区の名称を確認しているか、果たして中学生は、どの程度認識しているかを問う設問項目である。全体的な回答結果では、「知らない」８７％であった。男性１０％よりも、女性１７％と、女性の方が認識度は高い回答であった。それでも、約１割の中学生は認識していた。

学年別では、１年生９％、２年生１２％、３年生１９％と、学年が上がるほど理解している回答結果である。家族構成別では、「知らない」は、ほぼ同じ回答結果である。日頃から「祖父母」の地域話題が、中学生には伝わっていないようにも感じた。

大人社会が、日常生活の中で、中学生に地域を語り、地域環境を伝える課題がある。

設問 17　あなたは、自分の住んでいる地域の人々との交流について、どのようにお考えですか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問17	あなたは，自分の住んでいる地域の人々との交流について，どのようにお考えですか。	地域の人々との交流は大切	87	35%	79	37%	166	36%
		地域の人々との交流はどち	128	51%	118	56%	246	53%
		あまり大切だとは思わない	26	10%	14	7%	40	9%
		まったく大切だとは思わな	8	3%	0	0%	8	2%
		小計	249		211		460	

全体的な回答結果は、「地域の人々との交流は大切である」３６％、「地域の人々との交流はどちらかと言えば大切である」５３％で、「地域の人々との交流は大切である」８９％の回答である。

回答結果から、地域の一員としての自覚を感じ、「地域愛」につながることを期待したい。

男女別では、女性９３％は、男性８６％よりも高い認識をもっている。約１割の中学生の回答は「地域の人々との交流」を大切である意識ではない回答。

学年別では、学年が上がるに従い、地域の人々との交流の大切さの認識は低い回答である。

家族構成別では、親子の暮らし９０％の方が、祖父母との暮らし８７％より、地域の人々との交流の大切さの認識はやや高い。

設問 18　あなたの地域は、「高齢者一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問18	あなたの地域は，「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。	強く思っている	42	16%	24	11%	66	14%
		少し思っている	133	52%	104	49%	237	51%
		あまり思ってはいない	42	16%	52	25%	94	20%
		まったく思っていない	3	1%	2	1%	5	1%
		わからない	35	14%	30	14%	65	14%
		小計	255		212		467	

			人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問18	あなたの地域は，「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。	強く思っている	22	13%	23	17%	21	13%
		少し思っている	95	55%	74	56%	70	43%
		あまり思ってはいない	33	19%	17	13%	44	27%
		まったく思っていない	2	1%	0	0%	3	2%
		わからない	21	12%	19	14%	25	15%
		小計	173		133		163	

			人数	祖父母と一緒に暮らしている	人数	親と子どもだけで暮らしている	人数	その他
設問18	あなたの地域は，「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。	強く思っている	22	16%	43	13%	0	0%
		少し思っている	73	52%	163	51%	1	25%
		あまり思ってはいない	27	19%	65	20%	2	50%
		まったく思っていない	2	1%	3	1%	0	0%
		わからない	16	11%	47	15%	1	25%
		小計	140		321		4	

超高齢者社会の今、高齢者を取り巻く課題が浮き彫りになっている中、中学生の意識を求めると、全体的な回答では、「強く思っている」１４％、「少し思っている」５１％と、高齢者等一人でも安心

して暮らせる地域と６５％が回答しているが、「思っていない」回答が３５％である。まだまだ、高齢者を取り巻く地域への課題を提示した回答でもある。

男女別では、女性６０％の方が、男性６８％よりも、地域社会に向けた課題を提起した回答である。学年別では、３年生は、安心した地域の回答が５６％と、課題提起をより強めた回答である。

家族構成別では、祖父母と暮らしている現状からの回答は、安心した地域６８％と、親子で暮らしている中学生６４％よりも高い回答である。対地域への問題提起よりも、身近な、現実の家庭環境からの回答とも受け止められる。

設問 19　あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを３つまでお答えください。（◆-7）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問19	あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。	電車やバスの中で席を譲る	87	19%	68	19%	155	19%
		点字ブロックの上に自転車	69	15%	76	21%	145	17%
		体の不自由な人に道路を譲	47	10%	31	8%	78	9%
		困っている人に声をかける	62	13%	48	13%	110	13%
		自分から進んであいさつを	129	28%	100	27%	229	27%
		わからない	39	8%	31	8%	70	8%
		特に何もしない	30	6%	13	4%	43	5%
		その他	4	1%	0	0%	4	0%
		小計	467		367		834	

			人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
設問19	あなたは、地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。	電車やバスの中で席を譲	61	19%	36	16%	59	21%
		点字ブロックの上に自転	57	17%	37	17%	53	18%
		体の不自由な人に道路を	30	9%	16	7%	32	11%
		困っている人に声をかけ	35	11%	32	14%	43	15%
		自分から進んであいさつ	102	31%	64	29%	63	22%
		わからない	26	8%	23	10%	21	7%
		特に何もしない	15	5%	14	6%	14	5%
		その他	2	1%	0	0%	2	1%
		小計	328		222		287	

日頃、身近な地域で、中学生は、どのようなことに心掛けているかを問い質した。

全体の回答結果では、「自分から進んであいさつをする」２７％で一番多い回答である。男女別では、ほぼ同じ回答結果。学年別では、「自分から進んであいさつをする」は、学年が上がるに従い消極的な回答である。挨拶、声掛け等の広がりは、コミュニティの中では大切なことであり、明るい住み良い地域を期待したい。次に、「電車やバスの中で席を譲る」１９％、「点字ブロックの上に自転車を置かない」１７％、「困っている人に声をかける」１３％、「体の不自由な人に道路を譲る」９％、「わからない」８％、「特に何もしない」９％の回答順であった。「わからない」、「特に何もしない」層に対しては、中学生同士の日頃の生活の中で話し合いをしながら、地域の課題を考える機会が出来る事を期待したい。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生～6 年生対象）「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
①　電車やバスの中で席を譲る	７３％	１９％　↘
②　点字ブロックの上に自転車を置かない	１４％	１８％　↗
③　体の不自由な人に声をかける	８％	９％　↗
④　困っている人に声をかける	１３％	１３％　→
⑤　自分から進んであいさつをする	４２％	２７％　↘
⑥　わからない	１０％	８％　↘
⑦　特に何もしない	４％	５％　↗
⑧　その他	２％	０％　↘

※成長とともに、恥ずかしさや人を見る目も加わり、「自分から進んであいさつをする」回答は、大き

な開きがある。

設問 20　あなたは、他人のために何かをしたいと思いますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問20	あなたは，他人のために何かをしたいと思いますか。	そう思う	157	62%	159	76%	316	68%
		そう思わない	10	4%	4	2%	14	3%
		どちらともいえない	58	23%	40	19%	98	21%
		わからない	30	12%	7	3%	37	8%
		小計	255		210		465	

地域社会への貢献度について問い質した結果、全体的な回答結果では、「そう思う」６８％、「そう思わない」３％、「どちらともいえない」２１％、「わからない」８％の結果だった。

約３割は、意思表示が出来かねる回答、地域の動きに関心を持つことを期待したい。設問 03「趣味や特技を地域に活かす」回答は約４割であった。地域の現状を理解したうえで、積極的な地域貢献を期待したい。男女別回答では、女性の方が７６％と、男性の６２％を大きく上回る回答。

			人数	１年生	人数	２年生	人数	３年生
設問20	あなたは，他人のために何かをしたいと思いますか。	そう思う	131	76%	88	67%	99	61%
		そう思わない	5	3%	3	2%	7	4%
		どちらともいえない	23	13%	31	23%	44	27%
		わからない	14	8%	10	8%	13	8%
		小計	173		132		163	

学年別回答結果では、「そう思う」１年生７６％、２年生６７％、３年生６１％、「どちらともいえない」１年生１３％、２年生２３％、３年生２３％と、成長するとともに、現実の社会を認識しながら、慎重に回答しているように感じる。

設問 21　あなたは、近所の人に挨拶をしていますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問21	あなたは，近所の人に挨拶をしていますか。	自分から進んでしている	139	55%	103	49%	242	52%
		相手がしたときはする	102	40%	100	48%	202	44%
		しない	11	4%	4	2%	15	3%
		その他	2	1%	3	1%	5	1%
		小計	254		210		464	

全体的な回答結果では、「自分から進んでしている」52%、「相手がしたときはする」44%、「しない」3%、「その他」1%。中学生として、積極的に関わりをもとうと努力している反面、大人社会の働きかけの状況で関わりをもとうとしている。

			人数	１年生	人数	２年生	人数	３年生
設問21	あなたは，近所の人に挨拶をしていますか。	自分から進んでしている	106	62%	65	50%	70	43%
		相手がしたときはする	60	35%	59	45%	86	53%
		しない	3	2%	6	5%	6	4%
		その他	3	2%	1	1%	1	1%
		小計	172		131		163	

学年が上がるに従って、積極的な一面が消えていくことが伺える。いずれにしても、身近な顔の見える関係の地域においては、大人社会の中学生への働きかけの課題が見える。

設問 22　あなたは、地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。（◆-8）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問22	あなたは，地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。	よく参加している	15	6%	18	9%	33	7%
		ある程度している	98	38%	78	37%	176	38%
		あまり参加していない	99	39%	87	42%	186	40%
		まったく参加していない	43	17%	26	12%	69	15%
		小計	255		209		464	

身近な地域への関わりの全体的な回答結果は、「あまり参加していない」40%が多く、次に「ある程度参加している」38%、「まったく参加していない」15%、「よく参加している」7%で、「参加している」回答が45%、「参加していない」55%で、中学生の地域行事等への参加は消極的な回答結果である。

設問 16「あなたは、自分の住んでいる地域の自治会・町内会・組の名称を知っていますか。」に関連付けた考察として、中学生には、地域の動きが十分に受け止められていない状況も伺える。

男女別、学年別、家族構成別、兄弟姉妹の各回答結果も、全体の回答傾向と同じように伺える。

こうした回答結果から、身近な地域社会の動きを、日頃から、家庭・家族の中で話題を広げて、共有していく環境を期待したい。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生～6 年生対象）「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
① よく参加している	36%	7% ↘
② ある程度している	42%	38% ↘
③ あまり参加していない	16%	40% ↗
④ まったく参加していない	7%	15% ↗

設問 23　設問 22 で「①よく参加している」、「②ある程度している」と答えた人に聞きます。主なものを 3 つまでお答えください。

設問23	設問22.で「①よく参加している」，「②ある程度している」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。	人数	男性	人数	女性	人数	全体
	環境・美化活動	25	12%	18	10%	43	11%
	資源回収活動	10	5%	4	2%	14	4%
	青少年活動（子ども会支援	5	2%	4	2%	9	2%
	地域のスポーツ大会	13	6%	9	5%	22	6%
	地域のお祭り	67	32%	65	36%	132	34%
	防災訓練	83	39%	76	42%	159	41%
	福祉イベントの手伝い（居	4	2%	1	1%	5	1%
	研修会・講座の手伝い	1	0%	0	0%	1	0%
	学習支援	2	1%	2	1%	4	1%
	その他	1	0%	0	0%	1	0%
	小計	211		179		390	

「地域イベントに参加している」45%（209名）の全体的な回答を多い順にあげると、
①防災訓練41%、②地域のお祭り34%、③環境美化活動11%、④地域のスポーツ大会6%、
⑤資源回収活動4%、⑥青少年活動（子供会支援等）2%、⑦福祉イベントの手伝い1%、⑧学習支援1%。

男女別、学年別、家族別、兄弟姉妹別ともに、全体的と同じ回答状況。

日頃から、地域全体で参加を呼び掛けている「防災訓練」「地域のお祭り」「環境美化活動」等への参加回答が多い。

設問 24　設問 22 で「③あまり参加していない」、「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。主なものを 2 つまでお答えください。

設問24	設問22.で「③あまり参加していない」，「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。主なものを2つまでお答えください。	人数	1年生	人数	2年生	人数	3年生
	時間が無い	29	20%	22	17%	33	21%
	興味がわかない	44	31%	33	25%	41	26%
	身近な情報がない	14	10%	16	12%	14	9%
	参加のきっかけがない	21	15%	18	14%	23	14%
	参加したいと思わない	20	14%	17	13%	33	21%
	自分にはあわない	5	3%	4	3%	6	4%
	一緒に参加できる仲間が	8	6%	19	15%	9	6%
	その他	3	2%	2	2%	1	1%
	小計	144		131		160	

「地域のイベントに参加をしない」５５％（２５５名）の参加しない理由の全体的な回答を多い順にあげると、①「興味がわかない」２７％、②「時間が無い」１９％、③「参加したいとは思わない」１６％、④「参加のきっかけがない」１４％、⑤「身近な情報がない」１０％、⑥「一緒に参加

する仲間がいない」８％、⑦「自分には合わない」３％。

あげられた回答内容から、地域（自治会組織）と家庭・家族間をいかにつなぐか、また、中学生を含めた大人社会も積極的に参加できる地域行事のあり方を工夫すること、幅広い世代が参加できる地域行事を広報啓発し、更には中学生からの意見を反映できる地域行事の企画運営については、これからの地域づくりの課題の一つでもある。男女別、学年別、家族構成別、兄弟姉妹別等の領域の各回答結果は、全体的な回答と同じ傾向であった。

設問 25　あなたが住んでいる地域は、良い地域だと思いますか。（◆-9）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問25	あなたが住んでいる地域は，良い地域だと思いますか。	とても良い	80	32%	43	20%	123	27%
		良い	156	62%	152	72%	308	67%
		あまり良くない	15	6%	14	7%	29	6%
		よくない	2	1%	1	0%	3	1%
		小計	253		210		463	

ここでは、管内の地域について、それぞれの地域の良さを問い質した。全体的な回答結果では、「とても良い」27%、「良い」67%と、「良い地域」との回答は94%と高い。「あまり良くない」6%、「良くない」1%であった。

中学生にとって、管内の地域は、「良い地域」と回答していることについて、常に、大人社会が地域社会を維持し、努力している一面も伺える。また、中学生にとっては、成長段階における貴重な社会体験の学び合いの機会にもなっている。しかし、厳しいコロナ禍下にあって、これまでの調査「ご近所福祉その意識と実態調査」結果では、大人社会の地域コミュニティへの希薄化が浮き彫りになっている。中学生が望む「地域の良さ」を大人社会は努力し、福祉を育む地域づくりに向けて、積極的に取り組むことが求められる。

地域の状況が「わからない」回答については、常に、大人社会が地域とのつながりを持ち、中学生に積極的に地域を知る機会を提供することが大切である。学年別では、年代とともに、「良い地域」の回答もやや厳しい。家族構成別では、祖父母とともに暮らしている中学生は、良い地域の回答が少し高い。男女別では、全体的回答とほぼ同じ回答結果であった。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生～6 年生対象）「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
①　とても良い	41%	26% ↘
②　良い	45%	66% ↗
③　あまり良くない	1%	7% ↗
④　よくない	1%	1% →
⑤　わからない	12%	項目設定なし

※全体的な比較では、「良い地域」と受け止めているが、やや、成長とともに、実社会に向けた受け止め方に変化がみられる。

設問 26　設問 25 で「①とても良い」、「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか、主なものを 3 つまでお答えください。（◆-10）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問26	設問25.で「①とても良い」，「②良い」と答えた人に聞きます。どんな点が良いか，主なものを3つまでお答えください。	自然が多い	59	11%	33	8%	92	10%
		ご近所の付き合いがよい	78	14%	84	21%	162	17%
		犯罪が少ない	119	22%	68	17%	187	20%
		交通事故が少ない	43	8%	30	8%	73	8%
		静かな地域	88	16%	65	16%	153	16%
		地域の行事が多い	19	4%	12	3%	31	3%
		交通の便が良い	18	3%	5	1%	23	2%
		公園等がある	110	20%	99	25%	209	22%
		その他	4	1%	2	1%	6	1%
		小計	538		398		936	

ここでは、設問 25 に関連して、「地域の良さ」を回答した具体的な内容である。
全体的な回答で多い順にあげると、「公園がある」22%、「犯罪が少ない」20%、「近所の人が優しい」17%、「静かな場所」16%、「自然が多い」10%、「交通事故が少ない」8%、「地域の行事が多い」3%、「交通の便が良い」2%、「その他」1%。
管内は長年の土地区画整理事業により発展し、新興住宅地化している状況が、こうした中学生対象の調査結果からも伺える。男女別回答は、全体的な回答に同じ傾向。今回の調査テーマである「ご近所」に関しては、4番目に高い回答が寄せられている。
◆今回の調査結果においては、2 年前の児童(小学 4 年生～6 年生対象)「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度(児童対象)	2023 年度(中学生対象)
① 自然が多い	12%	10% ↘
② ご近所の付き合いがよい	27%	17% ↘
③ 犯罪が少ない	14%	20% ↗
④ 交通事故が少ない	8%	8% →
⑤ 静かな地域	11%	16% ↗
⑥ 地域の行事が多い	3%	3% →
⑦ 交通の便が良い	2%	2% →
⑧ 公園等がある(遊ぶ場所がある)	21%	22% ↗
⑨ その他	2%	1% ↘

※成長とともに、地域を見る目に少し変化が伺える

設問 27　設問 25 で「③あまり良くない」、「④良くない」と答えた人に聞きます。どんな点が良くないか、主なものを 3 つまでお答えください。(◆-11)

設問 25 に関連して、「住んでいる地域が良くない」と回答した７%（３２名）の回答内容を全体的にみると、「近所の人との交流がない」３１%と高い。「その他」２２%、「騒音がうるさい」１８%、「交通事故が多い」「地域の行事が少ない」各８%、「交通の便が悪い」６%、「公園等がない」４%、「自然が少ない」「犯罪が多い」各２%。男女別では、それぞれ「近所の人との交流がない」が一番にあげられている。
◆今回の調査結果においては、2 年前の児童(小学 4 年生～6 年生対象)「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度(児童対象)	2023 年度(中学生対象)
①　自然が少ない	８%	４% ↘
②　近所の人と交流が無い	８%	２９% ↗
③　犯罪が多い	０%	４% ↗
④　交通事故が多い	８%	９% ↗
⑤　騒音がうるさい	８%	１８% ↗
⑥　地域の行事が少ない	８%	７% ↘
⑦　交通の便が悪い	８%	５% ↘
⑧　公園等がない	３１%	４% ↘
⑨　その他	２３%	２０% ↘

※小学生の回答結果では、「公園がない」３１％で一番高い回答であったが、中学生の回答の中で、一番高い回答は、「近所の人と交流がない」２９％であった。

中学生では、地域社会における人間関係に目を向けていることが伺える。

設問 28　あなたは、地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問28	あなたは，地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか。	ぜひ参加したい	14	5%	19	9%	33	7%
		出来る範囲で参加したい	154	60%	141	67%	295	63%
		参加したくない	53	21%	22	10%	75	16%
		わからない	36	14%	28	13%	64	14%
		小計	257		210		467	

中学生が、身近な地域社会をどのように捉え、どのように関わりを持ち、地域参加しようとしているかを問い質す。今回の調査活動の重点的設問項目の一つである。

厳しいコロナ禍下、閉鎖的な地域環境により、地域社会全体の活動範囲が制約され、積極的な地域活動が阻止されてきた中でこれからの地域参加について、開放的な地域環境を期待し、積極的な地域参加を望んでいるかの全体的な回答結果では、「地域参加」を「ぜひ参加したい」と回答した中学生は27%。「できる範囲で参加したい」回答は63%で、「参加の意向」は70%であった。男性の65%に対して女性は76%と、女性の方が、強く地域参加の機会を求めている傾向にあえり、前向きな回答である。「参加をしない」回答は30%である。

学年別では、1年生、2年生よりも、やや3年生は控えめな回答結果ではある。家族構成別、兄弟姉妹別等の回答結果は、ほぼ全体の回答と同じ傾向である。

これまで、厳しい地域社会状況からの回答結果と受け止めるとともに地域社会のもう一つ考察していきたい一面として、「地域の行事の魅力」を取り上げていきたい。中学生の持ち味や、関心を持つ行事であるかの評価・見直し等、再検討も課題としたい。大人社会中心に取り組んできた地域の行事から、広く中学生等の気持ちを組み入れた行事の工夫を大人社会が心掛けているかの課題を提起していきたい。世代を超えた交流できる地域行事、また、若い世代主体・運営による地域行事の工夫は、近い将来につなぎ、若者の地域離れを防ぎ、大人社会との若者社会の融合によるまちづくりにつながり、「福祉意識」が高まる一つになると考える。

このことは、「参加しない」「わからない」30%の回答からも、具体的に考察していく課題でもある。

設問 29　あなたは、身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを３つまでお答えください。（◆-13）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問29	あなたは，身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。	家族	175	28%	164	33%	339	30%
		友だち	130	21%	89	18%	219	20%
		ラジオ・テレビ	72	11%	40	8%	112	10%
		インターネット	102	16%	55	11%	157	14%
		新聞	12	2%	1	0%	13	1%
		市広報誌	2	0%	6	1%	8	1%
		回覧板	39	6%	57	12%	96	9%
		学校	60	10%	42	9%	102	9%
		公民館だより	8	1%	9	2%	17	2%
		スーパー・商店等の掲示板	5	1%	6	1%	11	1%
		自治会・町内会発行広報誌	3	0%	2	0%	5	0%
		口コミ	7	1%	2	0%	9	1%
		チラシ	10	2%	17	3%	27	2%
		その他	3	0%	2	0%	5	0%
		小計	628		492		1120	

この設問も、今回の調査活動の重点的設問項目である。

ネット時代を迎え、果たして、中学生は、身近な地域の情報をどのように得ているか、新たな情報時代に向け

た関心事でもある。

全体的な回答結果では、「家族」30%、「友だち」20%、「ネット」14%、「ラジオ・テレビ」10%、「学校」、「回覧板」各9%、「公民館だより」「チラシ」各3%、「新聞」「市広報誌」「スーパー等掲示板」「自治会・町内会広報誌」「口コミ」各1%の順であった。男女別で、目立った回答では、「ネット」は、男性16%に対して、女性は11%と低い。「回覧板」の回答では、女性の12%に対して男性は6%である。成長とともに、情報入手の状況は大きく変わっている。小学生期よりも「友人」「インターネット」からの情報入手は多いことが伺える。

また、中学生は、「回覧板」を活かしている一面が伺える。祖父母と暮らしている中学生は、親子と暮らす中学生よりも「家族」からの情報が多い回答であった。

「回覧板」の回答があったことは、身近な情報を、中学生も目を通すことが出来る家庭環境を維持していることが伺える。これまで、コミュニティ運営面では、今日依然として重要な情報手段として取り組んでいる「回覧板」は、今後いかにして機能を活かすか、家庭そして地域の大きな課題として取り上げたい。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童(小学 4 年生～6 年生対象)「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度(児童対象)	2023 年度(中学生対象)
① 家族	33%	30% ↘
② 友だち	14%	20% ↗
③ ラジオ・テレビ	15%	10% ↘
④ インターネット	9%	14% ↗
⑤ 新聞	1%	1% →
⑥ 市広報誌	1%	1% →
⑦ 回覧板	6%	9% ↗
⑧ 学校	15%	9% ↘
⑨ 公民館だより	3%	2% ↘
⑩ スーパー・商店等の掲示板	1%	1% →
⑪ 自治会・町内会発行広報誌	1%	0% ↘
⑫ 口コミ	1%	1% →
⑬ チラシ	1%	2% ↗
⑭ その他	0%	0%→

地域社会・地域活動に関する回答結果から見えたもの

1. ここでは、35の設問項目から、「地域社会、地域参加活動に関する」14の設問項目を基に、中学生の「地域社会との関わりの中で、地域活動や取り巻く大人社会への問題提起とする考察をした。
2. コミュニティ組織や運営について、大人社会が、日常生活の中で、日頃から、身近なご近所とのふれあい交流を通じて、中学生に地域を語り、地域環境を伝え所属意識が、自然に認識できる地域環境に努めたい。
3. 超高齢者社会の今日、高齢者や障がい者等、全ての人たちが暮らし合っている地域であることを理解し合う、実践的体験的地域ぐるみの福祉教育の地域環境を維持し、男性も、人々に思いやりの心が培(つちか)える家庭環境に努め身近なことも歩み寄れるように心がけたい
4. 中学生は、地域への貢献したい思いを持っている。この思いは、女性は男性よりも積極的な面が伺える。ここでも、男性も、積極的に、地域の課題を理解し合いながら、大人社会から、常に地域の現状を「見える化」「わかる化」していく中で、大人社会との共通理解に努めたい。
5. ご近所との交流については、中学生は、積極的に関わりを持とうと努力している反面、大人社会に大きく左右されている状況にもある。大人社会が、日常的なご近所との関係を維持し、つなげる工夫が求められる。
6. 今回の調査結果から、中学生は、身近な地域の行事への参加が消極的(55%)である回答であった。このたびの調査の大きな目的は、地域社会は、大いに中学生の地域参加を期待しながらも、現状は、調査

結果からも、小学生から、更に地域との繋がりが薄れている結果である。
その要因を、調査結果からみると、「時間的ゆとりがない（勉強・部活・塾等）」は十分理解してかなければならないが、「地域行事の魅力」の欠如（参加したいとは思わない）がある。また「参加のきっかけ」「参加できる環境」「わかりやすい情報」等、大人社会だけで企画運営する取り組みから、広く若い世代が参画できる環境醸成（かんきょうじょうせい）をつくり上げる根本的な課題が内在する。決して、すぐにこうした取り組みに移行することは困難である。日頃のコミュニティ組織運営の中で語れる環境を広げていく課題としていきたい。
中学生に、地域からの行事の呼びかけの問いかけに「ぜひ参加したい」7%、「できる範囲で参加したい」63%の回答がある。この回答意見を、大人社会は大いに活かせる働きかけを考えていきたい。

7．管内の地域は「良い」との回答が94%あった。この回答結果は、大人社会にとっては安心できる。この地域環境をさらに維持し、住みよい地域づくりを心掛けていきたい。具体的な住みよさは、これまで、土地区画整理事業に取り組んできた地域でもあり、「公園等がある」「犯罪が少ない」「ご近所の付き合いが良い」「静かな地域」の意見が多い。福祉的な面から「ご近所の付き合いが良い」はホッとするが、小学生の回答と比較すると、回答が減少していることは、大人社会の現状の一面が見えているようにも感じる。

8．今や、情報の多様化、複雑化等が進んでいる中で、中学生は、身近な地域の情報入手は、「家族」が一番多い回答であった。この意味から、まず、大人社会が、積極的に地域に関わり、地域の動きを知り、常に地域の情報を細かくわかりやすく、中学生に、日頃の家庭生活の中で話す環境をつくることが求められている。意外と、中学生は、小学生よりも「回覧板」からの情報入手を心得ている。回覧板の必要性の有無が今日、コミュニティ組織の中で議論されているが、改めて、いかにして、継続的に有効活用できるかの課題は大きい。

５．　地域社会における福祉実体験に関すること

（設問 30～設問 34 までの５つの設問）

ここでは、35の設問項目のうち、「地域社会における福祉実体験に関すること」について、

設問 30　あなたは、身近な地域社会の日常的な生活の中で、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流をしたことがありますか（学校教育以外で）。（◆−14）

設問 31　あなたは、高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していくうえで、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを3つまでお答えください。

設問 32　あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。

設問 33　あなたの、地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか。主なものを3つまでお答えください。

設問 34　あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。（◆−15）

の５つの設問の回答結果をまとめた。

設問 30　あなたは、身近な地域社会の日常的な生活の中で、高齢者や障がいのある人とのふれあい交流やボランティア活動をしたことがありますか（学校教育以外で）。（◆−14）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問30	あなたは，身近な地	ある	19	7%	14	7%	33	7%
	域社会の日常的な生	ない	236	93%	197	93%	433	93%
	活の中で，高齢者や	小計	255		211		466	

身近な地域において、生活を通した福祉実体験の機会の場の有無を問い質した。
全体的な回答結果からは、「ある」の回答は７％であった。男女別、家族構成別では、全体的な傾向とほぼ同じ。学年別では、１年生が多少実体験の機会を持っている回答。兄弟姉妹が多い環境では、多少実体験が多い回答。

◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生～6 年生対象）「福祉ってなに？ 244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）
① ある	２７％	７％（３３名） ↓
② ない	７３％	９３％ ↗

※小学生と中学生の比較では、小学生は、学校教育との絡みの中で、意図的な実体験件数が含まれている。中学生の回答は、生徒そのものの中で回答している。時間的な制約や、大人社会に向けた成長過程における人間関係の距離感からか、大幅に減少の回答となっている。

「日常生活の中で、福祉体験がある」と回答した７％（３３名）の中学生の具体的な内容を整理すると

内容 学年・男女別	活　動　内　容
１年生　男性	遊び相手、海岸のゴミ拾い、介護の手伝い、草取り、手伝い、荷物の移動、話し相手
１年生　女性	家族に障がい者がいるため、地域との交流のつなぎをしている、ふれあいサロンで交流、ゴミ拾い、普段から挨拶したり、近所との付き合いに心掛けている
２年生　男性	母が勤める特別養護老人ホームでふれあい交流している、障がい者とのふれあい交流、子どもたちと一緒に遊ぶ、ゴミ拾い、親戚の家族に障害の方がいるので交流している
２年生　女性	子どもたちと一緒に遊ぶ、ゴミ拾い、親戚の家族に障害の方がいるので交流している
３年生　男性	高齢者とのふれあい交流、疑似体験、地域の人たちと交流
３年生　女性	地域の介護事業所でのふれあい交流、草取り、高齢者とのふれあい交流、認知症予防講座受講、ミニディサービスの手伝い
学年不明男性	港マラソン大会の手伝い、商店街の七夕まつり行事の手伝い

明確に回答した中学生の活動内容を見ると、「身内福祉」「ご近所福祉」にしっかりと取り組んでいる。「活動をしていない」と回答した中学生にも、上記の活動内容を少なからず体験している地域環境にあるようにも伺える。

設問 31　あなたは、高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していく上で、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを３つまでお答えください。

この設問項目は、２０２０年度実施した大人対象と同じ設問項目である。実社会において、取り上げられている福祉課題に対して、どのように受け止めているかを問い質した。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問31	あなたは、高齢者の方や障がい者の方が、身近な地域で生活していく上で、必要と思われる支援・サービスについて、主なものを3つまでお答えください。	見守り・声かけ（安否確認）	154	23%	114	21%	268	22%
		移動支援	72	11%	40	7%	112	9%
		買い物支援	46	7%	30	5%	76	6%
		配食	26	4%	14	3%	40	3%
		子育て支援	15	2%	9	2%	24	2%
		ゴミ出し	19	3%	12	2%	31	3%
		調理	14	2%	5	1%	19	2%
		定期的なふれあいサロン（I	28	4%	43	8%	71	6%
		掃除（草取り）	24	4%	13	2%	37	3%
		災害時の手助け	61	9%	72	13%	133	11%
		話し相手	71	11%	71	13%	142	12%
		趣味・特技の援助	15	2%	17	3%	32	3%
		簡単な介助・介護	100	15%	89	16%	189	16%
		洗濯	4	1%	3	1%	7	1%
		ペットの世話	5	1%	6	1%	11	1%
		お墓の掃除	6	1%	6	1%	12	1%
		簡単な修理	2	0%	4	1%	6	0%
		その他	3	0%	1	0%	4	0%
		小計	665		549		1214	

◆今回の調査結果においては、４年前に大人対象に「ご近所福祉その意識と実態調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。

No.	内　　容	2020 年度（大人対象）	2023 年度（中学生対象）
1	見守り・声掛け（安否確認）	２７％　①	２２％　①　↘
2	移動支援	６％　⑤	９％　⑤　↗
3	買い物支援	９％　③	６％　⑥　↘
4	配食	５％　⑦	３％　⑧　↘
5	子育て支援	５％　⑦	２％　⑩　↘
6	ゴミ出し	４％　⑩	３％　⑧　↘
7	調理	０％	２％　⑬　↗
8	定期的なふれあいサロン（居場所）	５％　⑦	６％　⑥　↗
9	掃除（草取り）	３％　⑪	３％　⑩　→
10	災害時の手助け	１７％　②	１１％　④　↘
11	話し相手	７％　④	１２％　③　↗
12	趣味・特技の援助	２％　⑫	２％　⑩　→
13	簡単な介助・介護	６％　⑤	１６％　②　↗
14	洗濯	０％	１％　⑭　↗
15	ペットの世話	１％　⑭	１％　⑭　→
16	お墓の掃除	０％	１％　⑭　↗
17	簡単な修理	２％　⑫	０％　↘
18	その他	１％　⑭	０％　↘

全体的な回答結果で、多い順では、「見守り・声掛け（安否確認)」「簡単な介助・介護」「話し相手」「災害時の手助け」「買い物支援」「定期的なふれあいサロン（居場所)」「ゴミ出し」「配食」等があげられる。

大人対象の調査結果を見ると、「見守り・声掛け（安否確認)」「災害時の手助け」「買い物支援」「話し相手」「簡単な介助・介護」「移動支援」「定期的なふれあいサロン（居場所)」「配食」「子育て支援」「ゴミ出し」等があげられている。この回答結果から、中学生の回答と比較してみると、ほぼ大人の回答と同じ状況であることがわかり、大人社会の現状をしっかりととらえているように感じる。男女別、学年別の結果も、ほぼ、全体的な回答結果に同じであるが、３年生は「話し相手」を１・２年生よりも多く回答している。

設問 32　あなたが、今後参加してみたい地域活動をお答えください。

これまでの設問項目結果から、大人社会への成長期にあって、中学生を取り巻く社会的な環境の中ではあるが、地域社会のさまざまな課題を認識し、また、中学生自身の社会的な立場や個人的な持ち味、趣味・特技等をいかに、地域社会に向けて有効に活かすことが出来るかを問い質す設問項目として位置付けた。

全体的な回答結果から、前の設問項目 22 で、「地域行事に、まったく参加していない」回答が１５％あることをふまえると、「参加したくない（関心がない)」１４％は、判断できる範囲である。

ここでは、約８６％が、前向きな回答をした内容の多い順にあげると、「特にないが、きっかけがあれば参加したい」２６％で一番多い回答である。前の設問項目 03「趣味や特技を地域に活動に活かしたいと思うかの」の回答で「機会があれば、活かそうと思う」３２％との関連性も伺えるような回答結果である。

ここから、将来に向けた、地域の活性化を考えると、大人社会は、常に若い年代層に向けて、地域の課題解決や、地域づくりに向けて、日頃から、「地域の見える化」「わかる化」を心掛けて、誰もが地域参加しやすい環境に努め、若年代層からの提案を積極的に取り入れるコミュニティ組織運営を心掛けていきたいものである。

前の設問項目 25・26・27 の「地域の良さ」にも、こうした回答結果は関連性を持っていると感じる。中学生の持つ「趣味・特技」からも、見えているのは「文化・芸術・スポーツに関する活動」２３％は納得する回答である。そのほか、大人社会が日頃から、地域住民に呼びかけている「防災（災害)」１０％、「地域

社会・安全に関する活動」「環境保全・自然保護に関する活動」各５％、「まちづくり（コミュニティ活動）４％を回答している。男女別、学年別の回答も、全体的な回答結果とほぼ同じ傾向である。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問32	あなたが，今後参加してみたい地域活動をお答えください。	まちづくり（コミュニティ）	9	3%	12	5%	21	4%
		地域安全・安心に関する活	16	6%	11	5%	27	5%
		青少年健全育成活動	1	0%	1	0%	2	0%
		文化・芸術・スポーツに関	76	27%	45	19%	121	23%
		生涯学習に関する活動	2	1%	1	0%	3	1%
		高齢者福祉に関する活動	6	2%	4	2%	10	2%
		障害福祉に関する活動	4	1%	6	3%	10	2%
		児童福祉に関する活動	1	0%	7	3%	8	2%
		地域福祉に関する活動	2	1%	0	0%	2	0%
		保健医療に関する活動	1	0%	5	2%	6	1%
		国際理解・交流に関する活	5	2%	4	2%	9	2%
		環境保全・自然保護に関す	17	6%	7	3%	24	5%
		男女共同参画に関する活動	5	2%	6	3%	11	2%
		防災（災害）等に関する活	29	10%	23	10%	52	10%
		特にないがきっかけがあれ	64	22%	75	32%	139	27%
		参加したくない（関心もな	48	17%	25	11%	73	14%
		その他	0	0%	1	0%	1	0%
		小計	286		233		519	

設問 33　あなたの、地域参加活動に対するイメージは、どのようなものですか。
主なものを３つまでお答えください。

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問33	あなたの，地域参加活動に対するイメージは，どのようなものですか。主なものを3つまでお答え下さい。	時間に余裕がある人が行う	61	12%	32	8%	93	10%
		思いやりがあるもの	122	23%	94	23%	216	23%
		おせっかいなもの	9	2%	4	1%	13	1%
		偽善的	8	2%	1	0%	9	1%
		自らを成長させる	40	8%	37	9%	77	8%
		楽しい	37	7%	38	9%	75	8%
		自ら進んで行う	48	9%	45	11%	93	10%
		責任が重い	12	2%	7	2%	19	2%
		生きがいになる	11	2%	3	1%	14	1%
		社会にとって必要	49	9%	36	9%	85	9%
		人手をおぎなう	12	2%	5	1%	17	2%
		まちづくり	57	11%	67	16%	124	13%
		仲間づくり	23	4%	23	6%	46	5%
		わからない	36	7%	24	6%	60	6%
		小計	525		416		941	

地域づくり、地域共生社会、地域の活性化、地域の再構築、常に「住民主体」「共助」「自助」が叫ばれている今日、地域づくりやコミュニティのあり方の基本となる考え方を中学生に問い質した。

回答の多い順に、「思いやりのあるもの」２３％、「まちづくり」１３％、「自ら進んで行う」「時間に余裕がある人が行う」各１０％、「社会にとって必要」９％、「自らを成長させる」「楽しい」各８％、「わからない」６％「仲間づくり」５％、「人手を補う」「責任が重い」各２％、「おせっかいなもの」「生きがいになる」各１％。

全体的には、前向きな考え方として受け止めていくことが出来る。中学生が、大人社会に向けて成長する過程の理解（受け止め方）と認識したい。

「時間に余裕のある人が行う」は、女性８％に対して、男性は１２％、「まちづくり」は、男性１１％に対して、女性は１６％、と高い回答で、こうした認識においても、女性の地域社会への思いの認識は高いと受け止めることが出来る。

学年別では、「自ら進んで行う」受け止めは、１年生８％、２年生９％、３年生１２％と学年が上がるに従い、自主的な認識に変わっていく結果であった。「楽しい」は、学年が進むに従い、責任を伴う

意識からか、回答が低い。「社会にとって必要」は、どの学年も同じ回答率である。

設問 34　あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。（◆-15）

			人数	男性	人数	女性	人数	全体
設問34	あなたは、「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。	内容を理解している	95	38%	94	45%	189	41%
		内容を調べたことがある	28	11%	18	9%	46	10%
		言葉だけは知っている	122	48%	93	45%	215	47%
		知らない	8	3%	2	1%	10	2%
		小計	253		207		460	

　地域社会において、長い歴史の中で、広く助け合い運動として「赤い羽根共同募金」は、福祉活動として根づいている。「学校募金」「職域募金」「戸別募金」とそれぞれの領域で、呼びかけられている活動について、中学生の段階で、改めて設問項目として問い質した。全体的な回答結果では、「言葉だけは知っている」４７％、「内容を理解している」４１％、「内容を調べたことがある」１０％で「知っている」回答は９８％で、小学生対象の調査結果よりも、「知っている」回答は１０％以上高い回答であった。
　男女別、全体的な回答とほぼ同じ回答内容であった。学年別では、３年生の関心度がやや低い回答。
◆今回の調査結果においては、2 年前の児童（小学 4 年生～6 年生対象）「福祉ってなに？　244名の子どもたちに聞きました調査」の同じ設問回答結果と比較したものである。
　なお、この設問項目は、中学生対象の調査票には、「知っている」回答項目を細分し回答を求めた。

	2021 年度（児童対象）	2023 年度（中学生対象）	
①　内容を理解している	①　知っている　８７％	４１％	９８％　↗
②　内容を調べたことがある		１０％	
③　言葉だけは知っている		４７％	
④　知らない	②　知らない　　１３％	２％（１１名）　↘	

　本会は、この４年間、市民からの尊い赤い羽根共同募金により助成をいただき、よりよい地域づくりをめざして、積極的に地域活動に取り組んできた。今回は、中学生対象の「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」で重点的調査設問項目として「赤い羽根共同募金」について問い質し、2021 年度の児童対象調査との比較考察をした。この「赤い羽根共同募金」の回答結果を通じて、更に大人社会に向けた課題提起をしたい。
　身近な「戸別募金」を通じて、家族や家庭内で赤い羽根共同募金の仕組みを話題にしていくこともできる。しかしながら、今日では、地域によっては、その都度、個別に「赤い羽根共同募金」を集める社会状況にはなっていない。「戸別募金」は、自治会・町内会では、時期が来れば、各世帯から徴収した町内会費をもって一括して、まとめて処理する時代にもなり、本当の意味で、募金活動の展開とされていないため、表面化していない一面がある。また、「職域募金」を通じて、家庭内でも話題にしたいところである。「学校募金」は、中学生の日頃の小遣いからの協力も話題となる。これまでの、長い歴史の中で、学校教育だけに委ねることなく、こうした、身近な地域において地域ぐるみで、日常の家庭生活の中で家族ぐるみで「赤い羽根共同募金」を根づかせ、市民が主体となった福祉活動の意義を、単に理論だけの学びから、社会の仕組み・営みの中で、実践的に学び合うことは重要なことである。

地域社会における福祉実体験に関する回答結果から見えたもの

1．今回の調査の目的は、中学生の地域参加を期待している大人社会に対して、中学生は、身近な地域における福祉体験活動の実情を把握するため、「福祉ふれあい交流・ボランティア活動の有無」を問い質した。回答結果から、93％が「ない」回答であった。決して、意図的なものではなく、日頃の生活環境の中で、もっと、身近に「身内福祉」「ご近所福祉」とともに、「手伝い」の範囲を広げた、自由に、そして、自然に福祉実体験が出来る環境醸成（じょうせい）に努めたい。
2．大人社会に向かって、成長している中学生は、今、地域社会が抱えている福祉課題をどのように受け止めているか、4年前に実施した大人対象意識調査結果と比較しながら考察すると、「見守り・声掛け（安否確

認）」「買い物支援」「話し相手」「簡単な介助・介護」「移動支援」「定期的なふれあいサロン（居場所）」「配食」「子育て支援」「ゴミ出し」等があげられている。この回答結果から、中学生の回答は、ほぼ大人の回答と同じ状況であることがわかり、超高齢社会への対応の大人社会の現状をしっかりと受け止めている。更に、地域や家庭において、身近な福祉課題の現状がしっかりと受け止められる等に心掛けたい。

3. 地域が抱えている、福祉課題に対して中学生が参加してみたい活動分野は、「趣味・特技」の延長線上での「文化・芸術・スポーツ活動」が23%と多く回答している。こうした、中学生がもつ地域への貢献素材をいかに大人社会が引き出すか、また、「機会があれば参加する」27%の中学生や、「参加したくない」14%の中学生に対して、コミュニティ活動を、常に「見える化」「わかる化」する地域社会全体の課題もある。地域活動を後回しすることなく、誰もが地域参加できる環境づくりに努めていくことを、更に、大人社会と一緒に関われる環境を心掛けたい。こうした調査を通じて、中学生の地域参加の必要性を感じ取っている。地域づくりは決して、誰かがやってくれる認識から、みんなで参画する、創る、関われる地域環境に向けた働きかけも大切であることを相互理解していきたい。

4. 身近な「募金活動」として、「赤い羽根共同募金」について、問い質した結果、「知っている」98%、「知らない」2%の回答結果は、小学生からの回答結果「知らない」13%とはと11%の大きな開きがあった。これまでの、長い歴史の中で、学校教育だけに委ねることなく、身近な地域において地域ぐるみで、日常の家庭生活の中で、家族ぐるみで、「赤い羽根共同募金」を根づかせ、市民が主体となった福祉活動の意義を、単に理論だけの学びから、社会の仕組み・営みの中で、実践的に学び合うことは重要なことでもある。

6. 地域社会への期待・提言（設問35の１つの設問）

設問 35　ともに助け合う地域づくりに向けての、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言（自由意見）について、箇条書きでお答えください。

ここでは、設問35の「ともに、助け合う地域づくりに向けた、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言」の問いかけに、283件の（意見）回答をいただいた。

学年別、男女別にまとめた。　※(　)内数字は、それぞれの区分で、同じ意見としてまとめた。

「学年別」では、1年生137件、2年生61件、3年生81件、その他4件で、1年生からの意見が一番多く、次に3年生、2年生であった。

「男女別」では、男性の意見は141件、女性の意見は138件、その他4件で、ほぼ同じ件数の意見であったが、僅かではあったが、男性の意見が多かった。

総体的には、1年生女性70件で一番多く、2番目は、1年生男性67件、3年生女性41件、3年生男性40件、2年生男性34件、2年生女性27件であった。

◇1年生男性(67)

1. これからは、積極的に参加していきたい(15)
2. 助け合う心、思いやりの心(3)
3. お互いに挨拶をする
4. 大手メーカーの数を制限
5. お年寄りや障がいで困っている人と交流する機会などを期待したい(3)
6. 街灯をふやしてほしい
7. 環境保全、自然保護に関する活動をふやしていこう
8. 行事の名前を聞いて「楽しそう」、「行ってみたい」と思えるようになること(2)
9. 車椅子の人にやさしいスロープ、手すりを増やす(4)
10. 交通事故を防ぐために、ミラーをつけた方がいいと思った
11. 交通の便が良くなってほしい
12. 高齢者などへの支援強化(5)
13. もっと地域活動を多くしてほしい(3)
14. 地域行事について、わかりやすい広報活動が必要(2)
15. 声掛けや挨拶をする

16. 最新技術を積極的に導入する
17. 防災・地震対策（2）
18. 時代についていけるように努力する
19. 自分たちでよりよい社会をつくっていきましょう（2）
20. 障がい者や健常者でも、悩みがある人達が集まることのできる公共施設があったらいい
21. 商業拡大（地域の活性化）
22. 楽しく地域づくりをする（6）
23. 地域行事の質を上げる（2）
24. 地域のことが全然分からないので、これから知っていきたい
25. 空き家問題の解消
26. 一人ひとりの意識で変わってくる（2）
27. 防災活動やふれあい・思いやりの活動をもっと入れたらいいと思う
28. みんながしあわせになる地域（2）

◇１年生女性（７０）

1. 挨拶が多くなるようにしたい
2. 今のままでもいい
3. これからは、積極的に地域活動に参加したい（14）
4. 色々な人が、一緒に参加したくなるような地域活動を計画し、参加を呼び掛ける（2）
5. お互いが、思いやる心で、助け合える地域になってほしい（5）
6. 家族に、地域の事を、いろいろと聞いてみたい
7. 地域の環境美化に努め、ゴミを出さない（2）
8. 近所の付き合いが少ないからイベント的なものがあったらいいと思う
9. 今回の調査などをしていくことによって、町が明るくなっていくと思う
10. 高齢者に対する支援を増やすこと（2）
11. 高齢者や障害のある人に、もっと生活しやすい町にするといい（8）
12. 地域参加で、住みよい地域づくりに心掛けたい（4）
13. 自分から挨拶をしていきたい
14. 世代間交流を多くする地域行事を開催する
15. 大人も子供も、楽しめる地域活動を期待している（2）
16. 誰もが安心して暮らせる町を期待する
17. 段差をなくす街づくり
18. 地域活動は、私たちの生活のため、私たちが社会人になるまでに、必要なことを覚えておくため私たちが楽しむため、仲間を増やすためだと思う。だから、地域活動は大切、地域活動があったら参加したい
19. 地域参加に出来るだけ参加できるように日時を、開催日を休日に増やしてほしい
20. 地域の活動にできる限り参加したら、地域の人たち同士の仲が深まると思う（4）
21. もっと声掛けをすれば、地域行事に参加してくれる人が増えると思う（3）
22. 年の差が大きい人たちでも、地域行事参加で、ふれあえる場が増える（3）
23. 偏見をなくす
24. 防災訓練に、積極的に参加する（3）
25. ボランティア活動をふやす
26. 地域活動は、自らを成長させる
27. 未成年の人が髪を染めているのはふさわしくない
28. もうちょっと、沢山信号機があったら助かるかも（家の近くで毎年のように車の事故がおきている）
29. もっと大きい夏祭りをやりたい
30. もっと気軽に参加できることがあったらいい

◇２年生男性（３４）

1. 挨拶の言葉が少ない
2. あまり参加したくない
3. 家の近所では、家族しか高齢者の面倒を見ていないが、もっと近所同士で見守りたい
4. イベントをもっと増やしてほしい
5. 大人たちは、地域づくりに頑張ってほしい
6. 音楽で地域の人達を楽しませたい

7. 街灯が少ない所あり、もっと増やしてほしい
8. きっかけがあったら参加したい
9. 高齢者との関わり合いを増やしたい
10. 地域のことをわかりやすく説明してほしい
11. 災害時、地域皆で助け合いをする
12. 地域行事は、参加しやすい日時の設定
13. 時間のある時に地域活動に参加したい
14. 自分から気づいたりして助けたりする
15. 障害のある人やみんなが、楽しく出来る地域活動をしてほしい
16. 地域活動が多種類であり内容が気になる
17. 地域がより良くなるために交流をしていきたい
18. 地域づくりに向け、活躍したい
19. 地域での集まりをつくる
20. 地域の人と、楽しいふれあい交流をする
21. 地域や町の状況を理解しておかなければならない
22. 特に、子供でも誰でも、参加するような楽しめるイベント内容だと良い(2)
23. 人と人とのコミュニケーションが必要
24. 平等に、多くの方と接し合える地域活動を増やしたい
25. ポイ捨てをなくす
26. 防災訓練の実施による救命(期待)
27. 自ら進んで行事などに参加することが地域の盛り上げには大切だ
28. 皆が明るい地域社会になりたい
29. 未来をよくするため今を大切にする
30. 皆で頑張ろう
31. 皆で協力し助け合っていく
32. ライブハウスを地下に作ってほしい

◇２年生女性（２７）

1. 挨拶を明るくする
2. 挨拶を通して、地域の人達と交流ができると良い(5)
3. 色々な行事に積極的に参加したい(2)
4. いろいろな人がのんびりできるような場所をつくってほしい
5. 気軽に参加できるイベントを多く
6. きっかけがあれば参加したい(2)
7. 困っている人がいたら声をかける
8. 性別での区別を無くしたい
9. 性別を問わない社会
10. 地域の行事をもっと増やし交流の機会を増やしたい(4)
11. 地域の人達の間で壁をつくらない
12. 地域の人と協力して災害時でも安心して避難できるようにしたい
13. 月一で防災訓練や草取りをする
14. なるべく、いろいろな地域活動をして、トラブルを防ぐ
15. 防災訓練に絶対いく
16. 皆が暮らしやすい地域
17. 若い夫婦の子育てを、地域ぐるみでサポートできるようになればいい
18. 私の地域には、地域行事が少ないので、もっといろいろな行事を企画してほしい

◇３年生男性（４０）

1. アーバンスポーツへの理解をしてほしい
2. 自分から積極的に挨拶をする(2)
3. お年寄りや障がい者の人の支援をしていく
4. 街灯を増やす
5. 環境の良い地域にしたい(2)
6. 高齢者だけでなく、若者にとっても生活しやすい地域づくりを考えてほしい
7. 高齢者の人や障がい者の人も、楽しく過ごせたらいいと思う

8. 高齢者も安心できる道路整備をしてほしい
9. 子どもの出生率が1．7％になるように子育てし易い地域になってほしい
10. 信号機を増やす
11. スポーツ行事をたくさん開催したほうがいい
12. 世代を超えて、みんなで楽しく暮らせる地域をめざす（4）
13. 積極的な地域参加は、自分のためになると思う（2）
14. 全員が楽しく行事に参加できる地域（5）
15. 助け合い、活気のあふれる地域社会に期待
16. 地域活動参加を大いに広く呼びかけていくこと
17. 地域活動は、自発的に行うことだと思う
18. 地域活動を応援しています
19. 地域性を発揮した地域活動がほしい
20. 地域の人と仲良く安全に暮らしたい
21. 中学生も、多くの人（老若男女誰でも）が楽しめる参加したくなる地域行事の計画（4）
22. どこの地域も、仲良く連携すること
23. ふれあい交流的行事があれば、参加者同士が仲良くなり、助け合いの環境になる（2）
24. もっと、近所同士が関わりを持ってほしい
25. 焼津市は田舎だからこそ、市民との関わりをもっと深めていきたい
26. 若い人たちが、安心安全に暮らせる地域であってほしい

◇３年生女性（４１）

1. LGBT に対する配慮をもう少ししてほしい
2. 挨拶をし、なるべく会話して、いろいろな話が出来る地域にしてほしい（2）
3. 多くの住民が参加できる環境をつくること
4. 多くの人がボランティアへ参加する
5. お互いに、負担のかからない活動に取り組む
6. 大人だけの意見で、地域の事を決めてしまわないで、いろいろな年代の人の意見を聞いて地域の行事を開催してほしい
7. 大人も子供も安心できる地域であってほしい
8. 環境整備作業（草刈）に参加して、地域をきれいにする
9. 近所の枠を超えて、お互いに協力して、家庭のような存在をつくることが大切だと思う
10. 子どもから大人までが参加できる地域行事があれば、地域のコミュニケーションが広がる（5）
11. 困っている人がいたら自分から進んで行動する
12. さまざまな行事を行ってほしい（3）
13. 自分から進んで近所の人に挨拶をする
14. 障がい者の方に対する援助を増やしてほしい
15. 税金を下げてほしい
16. 性別や年齢に関係なく、誰とでも安心して話せる地域を心掛ける
17. 積極的に地域活動に参加して自分を成長させる（4）
18. 地域に、いろいろな支援、サービスがあると、高齢者や障がい者の人はすごく助かると思うので、いいなと思った
19. 誰でも、すぐに参加しやすい公民館のような場所で、体を動かす簡単なゲームやストレッチが出来る機会をつくる（2）
20. 地域活動なども、もっと広がれば近所さんとも仲良くなれていいと思う
21. 地域づくりに参加することは、自分や家族のためにもなるので積極的に参加すべきである
22. 地域の動きをわかりやすくしてほしい
23. 地域の活動に自分から参加するようにしたいと思った
24. 中学生が参加したくなる地域行事を計画する（4）
25. 中学生になってから、地域活動に参加していない、努力して近所の方とも関わりをもつように努力したい
26. 何事も、積極的でないといけないことに気付いた
27. 私も含めて、もっと若い人が参加できる地域であるべき

◇学年・性別不詳（４）

1. 今こそ、地域のつながりをより深めていくべきだと思う
2. 近所の環境が悪いので見回りがほしい
3. ご近所さんで、こうしたアンケートをやって、意見を出し合うのもいいと感じた
4. 不審者のことが、身近なところで起こっているので、気をつけたい

中学生の自由回答から－これからの身近な地域への期待・提言－

「設問 35 ともに助け合う地域づくりに向けた、積極的な地域参加や、これからの地域社会への期待・提言」の全体的な自由回答意見から、**「中学生自身が気づいたこと」「身近な地域社会への思い」「大人社会への提言」**の3つの項目で、主な意見を集約した。

1．中学生自身が気づいたこと

(1) これから、積極的に地域活動に参加したい
(2) 声掛けや挨拶をする
(3) 地域のことが、全然わからないので、これから知っていきたい
(4) 家族に、地域のことを、いろいろと聞いてみたい
(5) 地域活動は、私たちの生活のため、私たちが社会人になるまでに、必要なことを覚えておくため、私たちが楽しむため、仲間を増やすためだと思う。だから、地域活動は大切、地域活動があったら参加したい
(6) 地域参加で、住み良い地域づくりに心掛けたい
(7) 防災訓練に、積極的に参加する
(8) 挨拶の言葉を増やす
(9) 音楽で地域の人達を楽しませたい
(10) 自分から気づいたりして助けたりする
(11) 地域がより良くなるために交流をしていきたい
(12) 地域づくりに向けて、活躍したい
(13) 地域や町の状況を理解しておかなければならない
(14) 自ら進んで行事などに参加する事が地域の盛り上がりには大切だ
(15) きっかけがあれば参加したい
(16) 防災訓練に絶対いく
(17) 自分から積極的に挨拶をする（2）
(18) お年寄りや障がい者の人の支援をしていく
(19) 積極的な地域参加は、自分のためになると思う
(20) 地域活動を応援しています
(21) 地域の人と仲良く安全に暮らしたい
(22) 焼津市は田舎だからこそ、市民との関わりをもっと深めていきたい
(23) 自分から進んで近所の人に挨拶をする
(24) 積極的に地域活動に参加して自分を成長させる
(25) 地域づくりに参加することは、自分や家族のためにもなるので積極的に参加したい
(26) 中学生になってから、地域活動に参加していない
努力して、日頃から、近所の方とも関わりをもつように努力したい
(27) 何事も、積極的でないといけないことに気付いた
(28) 地域参加のきっかけがあったら参加したい
(29) ポイ捨てをなくす
(30) 困っている人がいたら、自分から進んで行動する

２． 身近な地域社会への思い

(1) お互いに挨拶をする
(2) お年寄りや障害で困っている人を交流する機会などを期待したい（高齢者支援の強化）
(3) 一人ひとりの意識で変わってくる
(4) みんながしあわせになる地域
(5) 近所との普段の付き合いと交流を深める行事
(6) 今回の調査などをしていくことによって、町が明るくなっていくと思う
(7) 地域の活動にできるかぎり参加したら、地域の人たち同士の仲が深まると思う
(8) もっと声かけをすれば、地域行事に参加してくれる人が増えると思う
(9) 偏見をなくす
(10) もっと気軽に参加できることがあったらいい
(11) 普段から、地域での集まりをつくる
(12) 人と人とのコミュニケーションが必要
(13) 皆で頑張ろう
(14) 挨拶を通して、地域の人達と交流ができると良い
(15) なるべく、いろいろな地域活動をして、地域内のトラブルを防ぐ
(16) 私の地域には、地域行事が少ないので、もっといろいろな行事を企画してほしい
(17) アーバンスポーツへの理解をしてほしい
(18) 子どもの出生率が１．７％になるように子育てし易い地域になってほしい
(19) 若い人たちが、安心安全に暮らせる地域であってほしい
(20) 近所の枠を超えて、お互いに協力して、家族のような存在をつくることがいいと思う
(21) 地域活動が、もっと広がれば近所さんとも仲良くなれていいと思う
(22) 今こそ、地域のつながりをより深めていくべきだと思う
(23) 近所の環境が悪いので見回りがほしい

３． 大人社会への提言として

(1) 安全・安心のまちづくりへの期待（道路整備/信号機、カーブミラー、街灯増設/スロープ・手すり設置）
(2) 地域みんなが楽しく参加できる行事の企画運営（開催の時期、活動内容を増やす）
(3) 地域行事を多くして、住民の地域活動参加の機会を多くする
(4) 大人たちは、地域づくりに頑張ってほしい
(5) 地域のことを分かりやすく説明してほしい
(6) ライブハウスを地下に作ってほしい
(7) 若い夫婦の子育てを、地域ぐるみでサポートできるようになればいい
(8) スポーツ行事をたくさん開催したほうがいい
(9) 税金をさげてほしい
(10) LGBTQ に対する配慮をもう少ししてほしい
(11) お互いに、負担のかからない活動に取り組む
(12) 大人だけの意見で、地域のことを決めてしまわないで、いろいろな年代の人の意見を聞いて地域の行事を開催してほしい
(13) 障がい者の方に対する援助を増やしてほしい
(14) 地域に、いろいろな支援、サービスがあると、高齢者や障がい者の人はすごく助かると思うので、いいなと思った
(15) 誰でも、自由に、すぐに参加しやすい、体を動かす簡単なゲームやストレッチが出来る機会を公民館のような場所で実施する
(16) 地域の動きを、わかりやすく説明してほしい
(17) ご近所さんで、こうしたアンケートをやって、意見を出し合うのもいい
(18) 空き家問題の解消

第４章　調査のまとめ

1. 結成から５年、管内の地域課題の掘り起しの「プロセス」の意義

本会の活動原点を振り返ると，平成２８年度から平成３０年度まで３年間にわたり、「共助・近助の地域を再構築することができるか」をテーマに、「港地域ささえあい講座」（港第１４・２３自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を住民主体で開講し、この講座から浮き彫りになった「10 の地域課題」を、更に掘り下げ、身近な地域における活動を目的に本会を立ち上げた。　改めて、「１０の地域課題」を挙げると、

(1)　語れる地域環境の醸成
(2)　“地縁団体”と“志縁団体”の「融合」による地域づくり
(3)　“専門性”と“市民性”の「協働」による地域づくり
(4)　当事者等の支援を探る
(5)　管内のささえあいの仕組みづくり
(6)　総合的地域支援組織の構築
(7)　地域を「見える化」する取り組み
(8)　制度施策を理解する地域福祉教育の推進
(9)　ご近所福祉の復活（日頃のささえあいの環境づくり）
(10)　世代を超えた「地域総合型学習」の仕組みづくり

そして、活動の目的を「さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に関わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために取り組む」とし、次の、「3 つの活動基調」を掲げた。

活動基調 1.　さまざまな分野で活動する人が，専門分野と世代を超えて交流を図る。
活動基調 2.　会員だけの求心的・閉鎖的集いではなく，広く市民に開かれた活動をする。
活動基調 3.　既存のコミュニティ・福祉組織活動から取り残された問題や新しく発生した問題を大切にし，常に市民生活に密着した活動をする。

これまで、結成以来，「調査研究活動」，「地域総合型公開学習活動」，「見える化・わかる化活動」と大きく３つの柱立てで、５年間展開してきた。

【1 年目（2019 年度）】

●活動テーマ【港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】

約 5,400 世帯をもって構成されている「港地域づくり推進会」（港第 14・23 自治会）管内において，今日まで，地域や個々の人々のつながりの中で，気兼ねなく集まり，会話を交わし，ふれあい交流し，普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ 55 の既存の各種団体・グループを把握し，「集める居場所から集まる居場所」を課題提起した。

【2 年目（2020 年度）】

●活動テーマ【港地域のご近所を切り拓くパート２ー協働による地域課題解決を探る】

管内関係団体や住民に機会があるごとに情報を提供し，改めてこうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し，積極的に地域参加する機会を呼掛け，「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組み，地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

【3 年目（2021 年度）】

●活動テーマ【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】

これまで、大人社会を対象に取り組んできた本会の活動から、地域住民相互のつながりやささえあいが弱くなり，地域コミュニティへの関わりの希薄化の傾向にある地域において、次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」が，確実に管内地域に醸成されているか，加え

て，厳しいコロナ禍の続く今日にあって，子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうかを問い質すこととした。身近な生活圏域において，地域の大人社会と向き合う子どもたちを対象にご近所や同居する高齢者（認知症高齢者含），障がい児者等への思いやり等について把握し，子どもたちを取り巻く地域環境の課題を改善・解決し「共生社会」をめざした，地域社会（大人社会）に提言することを目的に取り組んだ。

この調査に取り組むにあたり，管内自治会・町内会をはじめ，民生委員児童委員協議会，管内２つの小学校，子ども会関係者の全面的な支援をいただき成果を上げた。

【4 年目（2022 年度）】

●活動テーマ【港地域をつなぐ･ささえあう“ご近所福祉”を創る】

相変わらず、長引く厳しいコロナ禍で，尊い地域コミュニティは，さらに希薄化が増し，「共助」，「自助」がますます退行傾向にある。こうした社会環境の中で暮らす，高齢者の現状を把握し，コロナ明けの地域（ご近所）のささえあいの仕組みづくりを問い質し，地域社会が果たす課題をまとめ，広く管内の住民に提言した。

「地域を知る」ことから本会の活動は始まり，「地域の課題」を把握し，浮き彫りにした「地域課題」を地域社会に問題提起をする中で，「地域ぐるみの居場所の検証」から「ご近所福祉の検証」そして「子どもを取り巻く地域環境の検証」と取り組み，さらに「高齢者から地域づくりを検証」につなげてきた。

そして、５年目の今年度は、これまで、取り組んでこなかった「若者層」とりわけ、中学生対象に、地域社会への関心度や、地域貢献度を把握するとともに、大人社会へと成長している現状の中で、活動３年目に取り組んだ児童対象調査結果との比較や、これまで、大人対象調査結果との比較も含めて、これからの地域の担い手が、大人社会に向けて、どのような問題提起するのかを検証する取り組みをした。

【5 年目（2023 年度）】

●活動テーマ【港地域のニーズ把握から“福祉文化”としての港地域のご近所を描く】

これまで、大人社会中心の地域課題の掘り起し中心に、高齢者や児童にも目を向けた活動から、５年目にして、初めて、若者とりわけ中学生対象に、これまで地域社会では，中学生の地域参加を大いに期待しながらも，地域コミュニティの希薄化，家庭・家族機能やご近所福祉（支え合い）の多様化とともに，その基盤が不透明化，加えて，一方では，制度や公助による意図的な支援が当たり前な社会環境の中、長引く、厳しいコロナ禍下にあって，，住民主体の地域の支え合いや，若者との日常的な交流環境には至っていない状況にある。

ようやく，地域社会に明るい兆しが見えてきた時期に，地域社会に関心を抱き，近い将来地域の担い手として期待をする中学生を対象に，身近な地域に対する意識と実態を把握し，若者の地域参加の必要性を呼びかけ，世代間交流できる，これからの地域づくりに向けて，大人社会に提言する取り組みをした。

2. 厳しい地域環境の中で、地域活動は、「協働」の重要性を再認識した

この５年間、地域活動を展開するに当たり、常に、認識してきたのは、「協働」であった。

今回の中学生対象の調査研究事業は、これまで以上に、活動の展開の厳しさ･難しさを予測していた。　本会会員のみで、活動テーマに基づく福祉文化実践活動をしたとしても、所詮、地域には広がることなく自己満足でしかない。　対象を中学生とした今年度の調査研究事業を、いかに、地縁組織に働きかけ、協力を求めることが出来るか、更には、本会のような小さな志縁組織の活動目的を理解していただき、活動を共有し、地域全体の取り組みとしていくか、予想もつかない大きな課題を持ちながらの出発点であった。

しかし、これまでの本会の活動のプロセスから、いくつかの教訓を認識していた。

これまで，関係団体等に委ねることが多くあったが，今回の調査では，学校を取り巻く地域社会の現状を知ること、地域の教育力とは何か、地域社会に暮らす中学生の理解をしていかなければならないことを念頭に、「教育と福祉の融合」を検証する、自らの地域社会への歩みよりの努力をすることからの第一歩でもあった。

日頃から，「市民性と専門性の融合」を提唱している本会としては，市民の立場の活動であ

り、「理論と実践の融合」も含めた、意義ある調査研究活動となるように、学校領域への働きかけ、コミュニティ組織、地縁組織や関係団体等との情報の共有化に向けて努力していくことを心掛けた。

3. いかに、「教育と福祉の融合」が出来るかの実践展開

「生活圏域における小地域の機能」として、

① 問題解決の機能
・地域住民が知恵を出し合い、また地域にある資源を有効に活用し、小地域の中で問題を解決する力（機能）がある

② 福祉教育の機能
・地域のこれまでの生活を語り継ぎながら、思いやり・支え合いの心を育む力（機能）

③ お互い様の支え合いの機能
・地域におけるそれぞれの家庭・家族の信頼関係のもとで、支え合いの慣習を維持しあう力（機能）

④ 専門性と市民性を融合する機能
・全て、地域で、問題を完結する地域活動から、専門的領域の人材・機関を巻き込んで、いきながら、つなぐ・協働・調整の力（機能）

⑤ 広く地域に発信する機能
・地域ぐるみで取り組まれた、地域実践活動を、常に、地域発で発信していくことにより、「共生社会」を構築する力（機能）

こうした、５つの機能を有している小地域が、何かと行政や専門領域、学校領域に丸投げしてしまう傾向にもある。　よく、口にする「地域の子どもを地域で育む」ことが、現状の地域社会の中で、どの程度実践されているか、今回の試みは、学校教育と地域社会との連携による「協働」の関係により、地域の問題解決に向けて、中学生から尊い意見を、学校教育のご理解のもとにいただくことが出来た。

今、学校教育領域では、「コミュニティスクール事業」に取り組まれていると伺っている。

当初、この調査を実施するに当たり、こうした領域との連携の下で取り組めることが出来ないか、模索した経緯がある。

こうして、調査結果を考察することが出来た時点では、今後、関連事業に、大いに活かしていただくように呼びかけていきたい。

地域の福祉課題を学習する仕組みづくりは、今や「地域福祉教育の推進」として、各方面にその必要性を発信しているが、地域社会自体が抱えている諸問題を、単に、学校教育に委ねることよりも、日常生活の中で、まずは、身近な家庭環境（身内福祉）に、常に関心を持ちながら、ご近所同士の支え合い（ご近所福祉）へとつなぎ、地域を家庭化（地域福祉）へと発展していく呼びかけを今後につなげたい。

4. 「共創社会実現」に向けた小さな取組で地域課題を探る

福祉は実践そのものであり、お互いに知恵を出し合いながら、「共創社会」に向けた取り組みにつなげていきたい。　日々の活動を地域にどのように発信していったらいいのか，この課題も大きい。本会では、結成と同時に、「焼津市ボランティア連絡協議会」に加盟し、焼津市のボランティア活動の更なる発展を願い、本会の活動を通して検証してきたことを中心に情報発信する目的で「焼津福祉文化共創研究会通信」を発行してきた。

既に、結成と同時に、毎月１回発行してきた「本会通信」は、ここまでで第５５号となった。

議論を深めていく中で、福祉領域だけの情報発信では、地域の課題を共有できないと認識して、もっと、積極的に、他領域との関係づくりをしていくことが必要であるとの見解を基に、今回の中学生対象調査研究事業に取り組むにあたり、情報発信領域を広げ、紙媒体以外に、メールによる情報発信や、ブログの開設とともに、常時活動内容を見える化するようにアップし、

地域社会に向けた問題提起の領域を広げた。　その結果、今回の調査研究事業の経過報告や活動紹介により、アクセス件数は大幅に増えた。主な「本会通信」配布・送信先は、下記の通り。

ＰＣメール送信先	配布及び郵送
1. 静岡県行政各課（地域福祉課/静岡県民生委員児童委員関連部署地域振興課）	1. 会員（１０）
2. 焼津市行政各課（地域福祉課・市民協働課・広報課・地域包括ケア推進課）	2. 焼津市ボランテイア連絡協議会加盟団体（１７）
3. 静岡県・焼津市各社会福祉協議会	3. 静岡福祉文化を考える会役員（２０）
4. 静岡県コミュ二ティづくり推進協議会	4. 港地域づくり推進会
5. 公益財団法人さわやか福祉財団	5. 港第１４自治会（１７）
6. 公益財団法人愛恵福祉支援財団	6. 港第２３自治会（１９）
7. 公益財団法人あしたの日本を創る協会	7. 小川小学校
8. ふじのくに未来財団	8. 小川中学校
9. 静岡福祉文化を考える会役員	9. 港小学校
10. 管内福祉施設連絡会（１３介護事業所）	10. 港中学校
11. 管内外活動グループ・個人(１０)	11. 県立焼津青少年の家
12 管内中学校（2）	12. 小川地区コミュニティ推進会
13. マスコミ各社	13. さわやかクラブ連合会やいづ
14. 県内ＮＰＯ法人（2）	14. 小川公民館
15. 港地域づくり推進会(港第１４自治会長)	15. 港公民館
	計　９０枚

5. 語り合える地域環境をいかに創るか

本会結成以来、「語れる環境なくして、問題解決の第一歩はない。」を強調してきた。

地域から孤立・孤独化している地域住民への問題解決への関わりの第一歩は、これまでの福祉文化実践活動の検証から明らかになっていることは、「さりげない見守り・声掛け」「常日頃からの、ご近所同士の会話・挨拶」が大きく上げられている。

今回の中学生対象調査「私にとって“ご近所”とは　その意識と実態調査」では、これまで取り組んできた、児童対象、高齢者対象、大人対象のそれぞれの調査検証からも、明らかになった「普段の生活の中でのご近所の声掛け」が、地域課題解決に大きな要因となっていた。

今回は、これまでの一連の検証更に確認する上で、これまでの調査に関連した設問項目をもって、回答を求めた。家庭環境・地域環境も含めて「語れる環境」が大きく浮かび上がっている。

6. 中学生の主体的な調査活動参加は、基本属性からも読み取れる

今回の調査は、学校教育との全面的なご理解とご支援により、事前の協議においては、中学生の自主的な調査への参加を呼びかけていただき、当初、抱えていた大きな問題は、一転して、予想を大幅に上回る中学生の尊い意見が届いた。

(1) 男女別回答結果は、大人社会における福祉活動等への関心度合いは、女性６割、男性４割の中で、今回の調査では、男性５５％、女性４５％の回答結果であった。これからの地域づくりの理想的割合であり、男性の意見も十分考察につなげられる回答であった。

(2) 学年別回答結果は、１年生３７％、２年生２８％、３年生３４％であった。
大人社会との比較で表現すれば、若い世代ほど、地域には関心が薄い傾向が伺えるが、今回の学年別では、２年生の回答結果はやや低いが、全体的には、バランスのとれた回答であった。

(3) 家族構成別の回答結果から、ご近所を同様に認識しているか、祖父母の存在はどうか、といった側面を考察することを目的に設問した。　また、もう一面として、今日「核家族化」の時代とも言われている中で、管内の家族構成状況は、祖父母と一緒に暮らしている回答が３０％あり、都市型家族構成の地域環境ではあるが、安定している傾向であることがわかった。

(4) 兄弟姉妹別の回答結果から、管内では、複数兄弟姉妹の家庭が８７％であったことから、家族機能も維持されていることが確認できた。

7. ４７６名の中学生から、大人社会への１５ の提言

(1) 中学生は、文化・芸術・スポーツ等の多彩な趣味・特技を持つ中学生が多いことがわかった。そして、こうした自分の持ち味を地域活動の場で活かしてみたい、機会があれば、参加したい意向を約４割持っている。　大人社会に向かって成長する中学生の自己表現が出来る身近な地域環境づくりに向けて、地域参加の糸口（きっかけ）をつくる機会を、常に、コミュニティ組織運営において心掛けたい。

(2) いまの生活環境に満足をしている中学生であり、ホッとする居場所（家庭・自分の部屋）も心得ている。そして、家族とも楽しく生活している環境だと回答のある中で、悩みごとを８割の中学生は持っている回答（学校の勉強のこと、将来のこと、進学のこと）から、家庭環境においては、日頃から、語れる環境に努めていく。

(3) 大人への成長過程で、抱えている悩みを相談できる相手は、家族から友人へと大きく変化をしている。その中でも、父親の存在が見え隠れしている傾向も伺える。語れる環境づくりは、まずは家庭・家族からを心掛けていく。

(4) 友人に相談する、友人といる場所が居場所である回答からも、今の中学生は、友人関係は幅が広く、お互いに話せる環境は維持できていると受け止められる。こうした「語れる環境」を大人社会は歩み寄る中で、地域社会を見る目を養うことが出来る工夫が求められる。社会の大きな変化の中で、大人社会は共働きの社会となっている。こうした、大人社会を取り巻く家庭環境にあって、「家事労働（手伝い）」の位置づけは、小学生と比較すれば減少はしているが、その役割分担は意識している回答である。

(5) 本来、家庭機能として「産み育てる環境」「保護的機能」「福祉的機能」「教育的機能」経済的機能」「情緒安定機能」の６つの柱立てがあるといわれているが、今後こうした機能は大きく変化することが予測される中で、家事労働の位置づけは、日常生活の中で、自然に位置づけていき、社会性や連帯性を育む家庭環境を維持したい。

(6) コミュニティ組織運営の認識や理解は、今日、大人社会における大きな課題にもなっているだけに、地域社会における、身近な地縁組織への所属意識を中学生に求めても、「知らない」回答が大半である。　日頃からの近隣社会の共助のあり方について、大人社会から、まず、意識を高め合い、中学生を地域社会につなげる工夫をしていきたい。

(7) 誰もが、安心して暮らせる地域であると回答した中学生が６割、まだまだお互いに努力をしていく必要の回答が４割である。
こうした回答を踏まえて、中学生が心掛けていることの一つに、自分から進んであいさつをするの回答が約３割ある。
難しい取り組みではない、普段の生活の中で取り組める行動でもある。他人のために、出来ることはやるという意思表示の回答が約７割あることを踏まえて、大人社会は、中学生に積極的に地域とつながりが出来るように、その出番を提供していきたい。

(8) 時間的制約のある中学生は、それでも約４割は、地域の行事等に参加をしている回答である。参加していない中学生からは、情報が届いていない、参加の仲間がいれば参加する、自分に合った、楽しい行事を期待する回答に、さらに、中学生の地域参加の期待もできる。地域行事等への参加の動向は、出来る限り参加したい７０％の回答結果から、中学生の持ち味が発揮でき、大人社会だけの企画運営から、中学生等、若年層の意見を積極的に取り入れてほしいという要望する意見を組み入れた場合に、地域社会への関心は高まり、それぞれの領域での負担が軽減され、地域の活性化に一歩前進する予測もできる。こうした提案を実現していく上で、「トータルコーディネート機能」を誰が発揮するかの課題がある。

(9) 住みよい地域であるとの回答が９２％あった。大人社会にとっては、大いに救われる回答結果である。小学生の回答から６％増となっている。

管内の地域事情としては､長年の大区画整理事業により､ハード面からのまちづくりにより、地域全体の環境が大きく変わり､「公園の整備」「防犯防災対策」等が改善されたことが回答結果からも伺える。

福祉視点からは、ご近所づきあいが良いも多い回答であり引き続き、大人社会が大いに努力していく領域でもある。地域性から、ご近所づきあいが悪いと回答している地域の中学生もいる。

(10) 今や､情報の多様化､複雑化等が進んでいる中で､中学生は､身近な地域の情報入手は､「家族」が一番多い回答であった。 この意味から､まず､大人社会が､積極的に地域に関わり､地域の動きを知り､常に地域の情報を細かく､わかりやすく､中学生に､日頃の家庭生活の中で話す環境をつくることが求められている。

IT時代の中で､意外と､中学生は､小学生よりも｢回覧板｣からの情報入手を心得ている｡身近な地域社会では､これまで長い間､今日まで､回覧板の機能を維持している｡回覧板の必要性の有無が今日､コミュニティ組織の中で議論されている中で､改めて､いかにして､継続的に有効活用できるかの課題は大きい。

(11) 中学生は､地域に貢献したい思いを持っている｡この思いは､女性は男性よりも積極的な面が伺える。 男性も､積極的に､地域の課題を理解する努力をしながらも､大人社会は､常に､地域の現状を中学生に｢見える化｣｢わかる化｣し､共通理解に努めたい。

(12) 身近な地域社会の中で、ほとんどの中学生は、日常的なふれあい交流や実体験の機会をしていない回答が９３％あった。

しかし、体験があったと回答した中学生７％の内容は、「身内福祉;家族に障害者がいる、親戚の障害者の方と交流」「ご近所福祉:地区のふれあいサロンで地域の高齢者と交流した、ご近所の付き合いを心掛けている」の範囲内の自然的な内容を回答している。

まだまだ｢福祉｣を構えた受け止め方で､難しいと感じる地域環境でもあるようにも伺える。

こうした面から、意識改革をし、誰もが、関われる福祉観を働きかけていく地域づくりを心掛けたい。

(13) 中学生から、身近な地域社会で誰もが安心していく上で、必要な支援やサービスの回答は、「見守り・声掛け（安否確認)」「災害時の手伝い」「買い物支援」「話し相手」「簡単な介助・介護」「移動支援」「定期的なふれあいサロン」「配食」等､」大人社会に求めた回答とほぼ同じ内容の回答であった。　また、地域参加活動のイメージは､「思いやりのあるもの」「まちづくり」「自ら進んで行う」「社会にとって必要」と前向きな回答結果で、地域の現状をしっかりと受け止め、支え合う社会を望んでいることが伺える。

(14) 福祉活動として長い歴史をもつ「赤い羽根共同募金」の理解は、成長過程で、小学生の理解度よりも高い９８％の回答であった。　直接かかっている「学校募金」をはじめ、 地域における「戸別募金」「職域募金」等の意義を、更に理解することを期待したい。

(15) 「ともに、助け合う地域づくりへの提言」(自由意見）では、中学生から、２８３件の意見をいただいた。　この具体的な意見から､「大人社会に向けた提言」として取りまとめると、

①若者にもわかる、地域活動の動きを知りたい。(地域活動の「見える化」「わかる化」)

②若者の意見を地域活動に活かせる機会を考えてほしい。(誰もが参画する地域づくり)

③若者も気軽に、地域の行事に参加出来る呼掛けを期待したい。(気軽に参加できる環境)

④ご近所で、いつでも、地域のことが話せるようにして、住民が地域に関心をもつ努力。

⑤地域の情報提供の工夫。(広報啓発の開拓)

第５章　資料編

１．事業経過記録（協働団体:静岡福祉文化を考える会関連活動含）

No.1

月　日	活　　　動　　　内　　　容
3/18	「３月(第４８回)定例研究会」開催(事業総括、収支決算、次年度計画協議)
3/25	「第２１６回静岡福祉文化を考える会委員会」開催(事業総括、収支決算、次年度計画協議) 港第１４自治会町内会長会議にて、2022 年度本会活動報告とお礼及び 2023 年度活動説明
3/30	2023 年度個人ボランティア保険加入手続き(７名) 2023 年度活動計画に基づく具体的な検討(５周年記念誌作成、助成事業申請検討)
4/08	静岡市Ｖ連絡協議会総会開催(「静岡福祉文化を考える会」が加盟している) 静岡市在住会員が出席し、本会との連携(協働)で、活動維持に努めている経緯を説明
4/09	港第 14 自治会第 12 町内会の 2023 年度定例総会において、本会の「北川原公会堂」使用状況報告し、引き続き協力をお願いする
4/10	「焼津福祉文化共創研究会通信４４号」発行（原則，毎月１回発行，A4 版，両面印刷）

ＰＣメール送信先	配布及び郵送
1. 静岡県行政各課 （地域福祉課/静岡県民生委員児童委員関連部署 地域振興課） 2. 焼津市行政各課 （地域福祉課・市民協働課・広報課・地域包括ケア推進課） 3. 静岡県社会福祉協議会 4. 焼津市社会福祉協議会 5. 静岡県コミュニティづくり推進協議会 6. 公益財団法人さわやか福祉財団 7. 公益財団法人愛恵福祉支援財団 8. 公益財団法人あしたの日本を創る協会 9. ふじのくに未来財団 10. 静岡福祉文化を考える会役員 11. 管内福祉施設連絡会（１３介護事業所） 12. 管内外活動グループ・個人（１０） 13 管内中学校（２） 14. マスコミ各社 15. 県内ＮＰＯ法人（２） 16. 港地域づくり推進会(港第１４自治会長)	1. 会員（１０） 2. 焼津市ボランテイア連絡協議会加盟団体（１７） 3. 静岡福祉文化を考える会役員（２０） 4. 港地域づくり推進会 5. 港第１４自治会（１７） 6. 港第２３自治会（１９） 7. 小川小学校 8. 小川中学校 9. 港小学校 10. 港中学校 11. 県立焼津青少年の家 12. 小川地区コミュニティ推進会 13. さわやかクラブ連合会やいづ 14. 小川公民館 15. 港公民館 計　９０枚

4/15	2023 年度　４月(通算４９回)定例研究会開催 2023 年度焼津市ボランティア連絡協議会総会及び代表者会開催
4/17	あしたの日本を創る協会へ、本会の活動状況をメールで送信
4/22	2023 年度　静岡福祉文化を考える会　「第 49 回委員会」「第１回公開型研修会」開催
4/27	焼津市社会福祉協議会へ「助成事業」に関する問い合わせ
4/26	静岡福祉文化を考える会　「OUR LIFE146 号」発行　メール送信及び配布
5/02	2023 年度調査研究事業検討作業 ①焼津福祉文化共創研究会　➡「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」８万円 ②静岡福祉文化を考える会　➡「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」２０万円
5/07	「本会通信第４５号」編集発行　関係機関・団体等にメール送信作業
5/10	静岡県社会福祉協議会に、静岡福祉文化を考える会助成事業申込書提出(持参)
5/14	協働団体:「静岡福祉文化を考える会」の 2024 年度事業として、本会も連携して取り組む事業として、「静岡県共同募金会・2024 年度活動助成事業/若者発ご近所福祉かるた増刷とかるた活用事例集作成助成」申込みに関する印刷業者と協議 ＊シブヤ印刷工芸社　　「若者発　ご近所福祉かるた」100 セット見積書（398,000 円） ＊セイコー社　　　　　「かるた活用事例集」見積書(90,000 円)
5/20	５月（第５０回）定例研究会開催

月　日	活　　　動　　　内　　　容
5/21	協働団体：静岡福祉文化を考える会の「かるた増刷及びかるた活用事例集作成事業」に関する2024年度活動助成事業申込書を静岡県共同募金会に提出（持参）
5/22	労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団(東京本部)来焼 ドキメント映画「医師　中村哲　仕事働くということ」焼津市及び藤枝市における上映に関する意見交換
5/25	令和５年度　赤い羽根共同募金助成事業としての調査研究事業基本計画及び予算(案)作成作業
5/27	日本財団CANPANに、予算書、決算書、活動計画、活動報告、貸借対照表等アップ作業実施
5/30	焼津市社会福祉協議会へ「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」８万円申請書提出（持参）
5/30	小川中学校校長様・港中学校校長様に、「調査研究事業」への協力依頼文書送付(協議のお願い)
5/31	焼津市Ｖ連加盟グループ（１７G）に、「研究会通信第４６号」「映画上映会チラシ」配布
6/01	「本会通信第46号」発行、配布作業、郵送、メール送信作業等終了
6/07	焼津市社会福祉協議会より、6/16 14:55「赤い羽根助成事業」プレゼン開催通知有 2022年度助成団体「公益財団法人愛恵福祉支援財団」より、2022年度静岡福祉文化を考える会「調査報告書」を財団の広報啓発に活用する旨の連絡あり
6/10	労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団(東京本部)へ、映画上映会チラシ（100枚）関係方面に配布及び郵送、一部メール送信実施の報告
6/16	焼津市社会福祉協議会「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」プレゼン出席
6/17	６月（第５１回）定例研究会開催　　　焼津市Ｖ連研修旅行(1名参加し、他グループと交流)
6/18	「公益財団法人愛恵福祉支援財団」へ、4月以降の「調査報告書」の有効活用状況について経過報告をするとともに、協働団体・本会の活動状況を併せて紹介する
6/22	「私にとってご近所とは　中学生の意識と実態調査」実施要項・調査項目検討作業を開始する
6/24	協働団体:静岡福祉文化を考える会「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」内定通知有
6/25	港第14自治会町内会長会議で、ワーカーズコープ主催「映画上映会」チラシ配布
6/27	協働団体:静岡福祉文化を考える会「静岡県社協ふれあい基金助成事業」申請書類提出
6/28	焼津市社会福祉協議会より「赤い羽根助成交付決定書」届く（助成金額8万円、自己財源2万円)
7/01	「本会通信第４７号」発行　各関係機関・団体、実践者等にメール送信及び配布作業実施 「ワーカーズコープ連合」主催の映画上映会開催（230名来場）終了後関係者と懇談会実施
7/03	焼津市社会福祉協議会へ、「赤い羽根助成交付決定」に基づく「請求書」提出
7/08	7月(第52回)定例研究会、第1回共創社会実現研究会開催 ☆「共創社会実現研究会(調査部会)」設置要綱を基に協議を開始する
7/11	「調査実施要項」「調査票」「共創社会実現研究会(調査部会)設置要綱」出来上がる
7/12	焼津市役所総務課統計担当に、「港地域づくり推進会管内基礎データ」問合せ 小川中学校校長様に、学校訪問事前調整
7/13	港中学校校長様に、学校訪問事前調整 焼津市役所総務課統計担当より、「港地域づくり推進会管内基礎データ」メール送信有 小川中学校を訪問し、校長様と調査研究事業について協議
7/14	港中学校を訪問し、校長様と調査研究事業について協議
7/15	調査研究事業について、当面の展開と予算措置について検討
7/15	さわやかクラブ連合会やいづ会長様、市民協事務局に調査研究事業の経過報告とともに、調査研究事業への協力依頼文書送付
7/15	第2回共創社会実現研究会開催
7/16	港地域づくり推進会会長様と、調査研究事業の説明と協力依頼実施 「港地域づくり推進会管内基礎データ」まとまる 港第23自治会長様・小川地区コミュニティ推進会に協力文書送付
7/20	焼津市社会福祉協議会へ、現在までの調査研究事業の経過報告と助成金振り込みの時期確認
7/21	焼津市石津コミュニティ防災センターへ、2024年2月3日の調査結果報告研修会会場手続き実施
7/22	調査報告書に、中学生対象にした「若者発　ご近所福祉かるた」活用を掲載することを検討
7/22	ワーカーズコープ主催「第1回地域懇談会」に参加　「調査票」印刷作業に関する協議
7/23	「調査結果報告研修会記載要項」(案)「調査報告書」作成企画書(案)作成
7/24	小川中学校校長様より、「調査票」に関する意見をいただく 「調査研究事業」について、「静岡福祉文化を考える会役員」に、状況報告をする

月　日	活　　　動　　　内　　　容
7/28	港中学校校長様より、「調査票」に関する意見をいただく
7/29-7/30	「調査票」の内容について意見調整をし、「調査票」の最終編集作業実施
7/31	「静岡福祉文化を考える会調査事業」に関して、静岡県社会福祉協議会に、ふれあい基金助成事業に関する経過報告をする
8/01	「調査票」の印刷作業実施 「本会通信第 48 号」発行 配布・メール送信作業
8/10	静岡福祉文化を考える会調査研究事業:静岡県域「調査票」の配布及び発送作業に取り組む 静岡福祉文化を考える会　「OUR LIFE１４７号」発行　メール送信及び配布 協働団体:静岡福祉文化を考える会「30 周年記念誌」発行企画書作成及び作業開始
8/19	8月(第53回)定例研究会、第3回共創社会実現研究会開催　マスコミへ情報提供
8/20	「予算内調査報告書作成企画書」「助成事業申請調査報告書作成企画書」作成作業 (株)セイコー社に、「助成事業申請調査報告書作成企画書」に基づく「見積書」相談(予算14万円) 「調査票」クロス集計表作成
8/22	「焼津市民生委員児童委員協議会」「さわやかクラブ連合会やいづ」へ、再度調査事業協力依頼文書送付
8/23	各種事業進捗状況確認作業 沼津市の関連会議において、本会の調査事業を紹介する
8/24	本日までに、「公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業」申し込みに関する書類をそろえる 焼津福祉文化共創研究会調査研究事業:港・小川両中学校に、「調査依頼文書」を添えて、それぞれ生徒数分の「調査票」を届ける
8/25	「港地域づくり推進会」の各自治会に調査実施に関する協力を資料をもってお願いする (併せて、赤い羽根共同募金事業への協力の感謝の意を伝える)
8/31	関係方面に、これまでの活動状況を連絡し、今後の見通しをつける
9/02	「焼津福祉文化共創研究会通信第49号」編集作業開始　本会啓発用パネル製作開始
9/03	「あしたの日本を創る協会」に、本会の活動の取り組み状況を報告
9/04	関係方面との連絡調整　調査入力用「フォーマット」完成し、入力協力会員にデータ送信 関係方面に、本会の「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」の取り組み状況報告
9/09	9月(第54回)定例研究会、第4回共創社会実現研究会開催 「本会通信第49号」発行 関係方面にメール送信及び配布作業
9/10	当面の本会の活動状況の確認と当面の活動の方向性を協議及び資料作成作業
9/13	焼津市社会福祉協議会に、現在までの助成事業の取り組みについて報告
9/19	小川中学校校長様から、調査票 281 枚を受け取る(回答率91%) 小川地区コミュニティ推進会事務局(小川公民館)に、小川中学校から、「調査票」の回答があった旨報告をする　「調査協力礼状文書」送付
9/21	調査入力作業に関する協議
9/26	菊川市・沼津市等の会議において、中学生対象調査活動の取り組み状況を紹介する
9/29	港中学校校長様から、調査票 195 枚を受け取る(回答率約 71%) 「公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業」申し込みデータ内容確認協議 焼津市社会福祉協議会へ、助成事業経過報告実施 港地域づくり推進会会長様に、助成事業経過報告実施
9/30	静岡福祉文化を考える会主催「第 22 回静岡県福祉文化研究セミナー」開催 プログラムの中で、中学生対象調査活動の経過報告を実施
10/01	「本会通信第50号(特集として4P紙面)」発行 関係方面にメール送信、及び配布作業
10/05	これまでの、助成事業に関する、関係方面(学校・市民協・さわやかクラブやいづ)へ協力のお礼文書送付
10/06	焼津市社会福祉協議会へ助成事業経過報告(市社協会長様へ一連の資料送付) 小川・港中学校別調査結果報告書作成検討
10/07	港中学校調査入力作業 2 名体制開始
10/14	10月(第55回)定例研究会、第5回共創社会実現研究会開催
10/15	静岡福祉文化を考える会調査研究事業:静岡県域「調査票」の回収終了し、入力作業に集中する
10/17	愛恵福祉支援財団助成事業申請に関する協議
10/17	小川中学校生徒 281 名分調査結果概要を作成(8 部)し、小川中学校、小川地区コミュニティ推進会・事務局(小川公民館)に届ける
10/21	港公民館まつりへの「本会紹介パネル」展示(～10/22)
10/22	研究会調査入力作業終了　当面の「調査事業」について協議

月　日	活　　　動　　　内　　　容
10/23	港中学校生徒 195 名分調査結果概要を作成(7 部) 2 つの中学校生徒 476 名分調査結果概要を作成(10 部)
10/24	港中学校生徒 195 名分調査結果概要を作成し、港中学校、港地域づくり推進会・事務局(港公民館)に届ける　会員に、両校単純・クロス集計資料配布し、考察意見を「考察シート」に記入し 11/3 回収連絡
10/28	焼津市社会福祉協議会及び静岡県社会福祉協議会に事業経過報告
10/30	愛恵福祉支援財団へ「助成申請」申し込み完了
11/01	「本会通信第51号」発行　関係方面にメール送信及び配布作業
11/03-05	会員より「調査結果考察シート」回収
11/05	静岡福祉文化を考える会「OUR LIFE149 号」編集作業　メール送信、郵送、手渡し等で配布作業実施
11/07	小川中学校校長様に、2/3 調査報告研修会への生徒の参加打診をする
11/08	沼津市会議において、若い世代に働きかけていく議論の中で、本会の調査事業を紹介する
11/11	11月（第56回）定例研究会、第6回共創社会実現研究会開催
11/13	小川・港中学校へ「2 校集計結果資料」「2/3 調査報告研修会チラシ」を届け、研修会生徒参加を打診
11/14	本日より、「調査報告書」に、「若者発　ご近所福祉かるた紹介コーナー」紹介の原稿作成作業開始
11/15	関係方面に、「調査研究事業」の経過報告をする
11/16	港第 14 自治会会長様に、本会が「赤い羽根助成事業で調査研究事業」に取り組んでいるので、自治会広報誌「みなと　いしづ」に、状況を掲載できないか打診
11/17	「本会通信第 52 号」編集作業
11/23	「若者発　ご近所福祉かるた」紹介コーナー」原稿仕上げ　本日より、「調査報告書」作成作業に入る
11/26	2/3　調査報告研修会に関する展開表検討作業(会場確認、チラシ等広報啓発、参加呼びかけ)
11/29	「本会通信第 52 号」 関係方面に、メール送信・配布作業 ＊小川小学校・港小学校に、「中学生対象調査に関連する説明」文書でする
11/30	マスコミ各社に、調査研究事業の経過を報告する
12/10	第 34 回日本福祉文化学会全国大会東京大会(立教大学)開催 ＊参考:　平成14年11月　第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会開催(650名参加)
12/05	関係方面に、調査研究事業の経過報告をする
12/16	12 月（第57 回）定例研究会、第 7 回共創社会実現研究会開催
12/15	「公益財団法人愛恵福祉支援財団助成事業」不採用の連絡あり
12/25	「本会通信第 53 号」編集作業
12/26	「調査報告書」執筆作業終わり、校正作業に入る
12/30	「本会通信第 53 号」 関係方面に、メール送信・配布作業 併せて、「調査報告研修会」（ 2/3 開催）広報啓発
12/30	静岡福祉文化を考える会「OUR LIFE150 号」編集作業　メール送信、郵送、手渡し等で配布作業実施
1/10	「調査報告書」手作り印刷作業開始
1/19	「調査報告書」手作り印刷完了し、丁合作業に取り組む
1/20	1 月（第 58 回）定例研究会、第 8 回共創社会実現研究会開催
1/25	「調査報告研修会」（ 2/3 開催）に向けた、準備作業開始
1/28	マスコミに、「調査報告研修会」（ 2/3 開催）情報提供　関係方面に、再度研修会広報啓発
2/03	2 月（第 59 回）定例研究会、第 9 回共創社会実現研究会、2023 年度調査報告研修会開催
2/09	「本会通信第 54 号」編集発行作業及び関係方面に、メール送信・配布作業
2/17	2023 年度　静岡福祉文化を考える会　「第 50 回委員会」「第 2 回公開型研修会」 開催 （調査報告研修会として開催）
2/24	第 10 回共創社会実現研究会（調査部会）開催 （調査事業総括）
3/10	焼津市社会福祉協議会へ「助成事業実施報告書」提出
3/11	このたびの「調査研究事業」にご協力をいただいた「焼津市立小川中学校」「焼津市立港中学校」「港地域づくり推進会」「小川地区コミュニティ推進会」「焼津市民生委員児童委員協議会」「さわやかクラブ連合会やいづ」及び関係方面に、事業の報告とともに「調査報告書」を送付
3/23	3 月（第 59 回）定例研究会開催（年度事業総括及び 2024 年度事業協議）
3/24	静岡福祉文化を考える会「OUR LIFE151 号」編集作業　メール送信、郵送、手渡し等で配布作業実施
3/30	2023 年度　静岡福祉文化を考える会　「第 51 回委員会」 開催（2023 年度事業総括

焼津福祉文化共創研究会　5年の歩み

● 焼津福祉文化共創研究会の活動の原点

2016 年度～2018 年度まで 3 年間にわたり、いかに「共助・近助の地域を再構築することができるか」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（港第 14・23 自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を開講。市民主体で取り組んだ、尊い実践講座の 3 年間の取り組みの総括から、次の「10 の地域課題」を浮き彫りにした。

① 語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態の仕組みづくり）
②「地縁組織」（お互い様）と「志縁組織」（使命感）の融合による地域づくりの取組み
③「専門性」と「市民性」の融合
（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と地域介護力 UP）
④ 当事者組織化の支援
⑤ 具体的な地域の生活支援策の把握
⑥ 管内のささえあいの仕組みづくり
⑦ 総合的地域支援組織の再構築（トータルコーディネート機能）
⑧ 地域を「見える化」する広報啓発
⑨ 制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
⑩ ご近所福祉の復活

その後、この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民（当時 14 名）が、これまでの講座の成果をさらに地域づくりに活かそうと、「志縁団体」として、2019 年 4 月「焼津福祉文化共創研究会」（福文共）が誕生した。

■ 活動範囲　焼津市港地域づくり推進会管内（港第 14・23 自治会，約 5,400 世帯の中学校区）

2019 年度事業報告（活動1年目）　2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
活動テーマ：港地域のご近所を切り拓く「集まる居場所」で地域ぐるみのささえあいの検証

1. 2019 年度本会活動の着眼項目

(1) 地域社会で真剣に、意図的な「居場所事業」が取り組まれる社会に一変しつつある中で、地域や個々の人々のつながりの中で，気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、自由に取り組まれている各種活動団体やサークル・グループ等が「普段の拠り処」として、日常的・主体的に、「居場所機能」を持つ領域はどのくらいあるのか、その現状を把握し、これからの地域づくりに活かす活動に取り組む。
(2) 新たな地域課題解決に向けて、意図的に組織化され、「居場所」活動に取り組まれている住民主体に議論し合う地域社会づくりを提案する。
(3) 様々な居場所の存在を「見える化」「わかる化」し、中高年特に、男性の積極的な地域参加を促し、地域の自立化として、「地域ぐるみの居場所」を、世代を超えて地域住民に情報提供し、「ささえあう港地域づくり」を働きかける。
(4) 教育と福祉、とりわけ「学校教育」「社会教育」、行政や企業と市民、専門性と市民性、地縁団体と志縁等との『融合』『協働』による『地域ぐるみの支えあいネットワークづくり』を単年度事業で終わらせることなく、継続的な取組みを基に課題解決・改善に向けて取り組む。

2. 会議等

- 関係団体との打ち合わせ会（活動の円滑化）
- 会員による定例研究会（原則毎月第 2 土曜日）
- 本会今年度事業展開のため適宜「調査部会」開催
- ◆ 会議等は，港第 14 自治会内デイサービス百の木石津内研究会事務局内で開催

3. 関係者研修会の開催

2019 年 10 月 28 日、港第 14 自治会第 12 町内会「北川原公会堂」において，静岡県コミュニティづくり推進協議会専門委員及び事務局を迎えて、本会の事業の取り組みを説明するとともに、これからの福祉コミュニティの構築について、自治会・町内会関係者、民生委員、市社協、会員 16 名が出席して意見交換を行った。

4. **冊子「港地域の“ご近所”を切り拓く　ホッとする，つながる・ささえあう“あつまる居場所”をめざして－港地域の団体・グループ紹介集－」の作成**

「港地域づくり推進会」（港中学校区：第 14・23 自治会・約 5,000 世帯）管内における、今日まで意図的に組織化され、取り組まれている「居場所的機能」をはじめ、既存の活動団体・グループ、サークル活動により、地域住民同士がふれあい交流し、「地域の拠り所」の機能を有している現状を、本会会員が 2019 年 8 月 1 日～2019 年 12 月 28 日の約 5 カ月間において調査し、地域住民に、「真の居場所」を問題提起し、これからの地域づくりに活かすための情報提供をした。（A4 版，56 ページ，200 部作製）。

5. **「検証報告書」の作成**

「港地域の団体・グループ紹介集」で把握した「シート」をもとに、さらに参加状況地域住民世代別、領域別、社会参加状況等を分析・考察し、その結果を明らかにし、管内のそれぞれの地域で取り組まれている多種多様な居場所を「港地域ぐるみの居場所」としてさらに「見える化」する作業に発展させて、これからの地域づくりについて提言し、継続的な活動につなげる目的で作成した。（A4 版，84 ページ，200 部作製）

6. **焼津福祉文化共創研究会通信発行**

広く、本事業を関係機関・団体及び地域住民に広報啓発するため、「焼津福祉文化共創研究会通信」を計画的に発行し配布。

今年度は，9 月創刊号から、原則月 1 回発行（100 部）で第 6 号まで発行した。

特に、「協働」を掲げる本会では、メール配信により、関係機関団体に送信した。

7. **今年度の事業に関わった関係人員**

延べ，260 名。

内訳：			
(1)	研究会会員	14 名×8 回	112 名
(2)	団体・グループ協力者	2 名×55 団体	110 名
(3)	調査に関する検討会	2 名×5 回＋10 名	20 名
(4)	関係者研修会		18 名

◆　その他，「研究会通信」による関係機関・団体多数

8. **活動の成果と問題点（課題提起）**

（1）初年度にして、静岡県コミュニティづくり推進協議会及び焼津市共同募金会の助成事業により、これまで、市民主体で取り組んだ尊い実践講座の 3 年間の取り組みの総括から「地域ぐるみの居場所」解決に向けて、『港地域のご近所福祉を拓く　集まる居場所で地域ぐるみのささえあい検証事業』に取り組むことができた。

こうした地域を診断する事業を展開し，改めて地域住民の現状を把握することができた。

（2）今年度取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会があるごとに関連福祉情報を本会から提供し，こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼掛け、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」として働きかけ、本会の活動基調に基づき，広く住民に「集まる居場所」の意義を広め、[地域総合型学習の場] を具体化し、次年度の活動につなげる課題がある。

（3）管内における地域住民が集まり、ふれあい交流している「地域の拠り所」をまとめ，地域全体で共有し、地域の絆を深めることの認識を高める必要性を痛感する。

（4）地域住民一人ひとりが地域参加の機会を持つことにより、社会の問題となってきた中高年の閉じこもり社会を防ぎ、特に、男性の地域参加を促し、積極的に仲間づくりをし，「地域ぐるみの居場所」を啓発する必要性がある。

（5）これまで、長い地域づくりの歩みの中で、世代や領域を超えて、様々な「地域の拠り所」があることを地域全体で再認識する呼びかけの必要性が感じられる。

（6）「集める居場所」から「集まる居場所」（楽しむ・交流する・学び合う）について、地域住民への意識を高めることを積極的に働きかけなければならない。

（7）本事業を通じて，関係機関やグループ等との連携（ネットワーク化）と共に「共創社会実現」をさらに試みる課題がある。

（8）「地域を家庭化する」試みを呼掛け、住民相互のつながりを呼びかける。

（9）身近な地域住民に対して，地域活動に関する関連福祉情報の提供の機会を引き続き努力する。

（10）多様な福祉ニーズが浮上している今日にあって、細やかながら，本会のような「志縁組織」をもって課題解決につなげられるように，「地縁組織」関係者に積極的に働きかけたい。

2020 年度事業報告（活動2年目） 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日
活動テーマ：港地域の福祉課題を「見える化」するご近所福祉の意識と実態を検証

1. 2020 年度本会活動の着眼項目

（1） 世代を超えて［地域課題］をもとに「地域総合型学習」の場づくりに心掛ける
（2） 地域の話題を持ち寄り、「学習化」し、地域社会に課題提起できるように心掛ける
（3） 「地域課題の福祉化」に努め、専門性と市民性の融合を基に、課題解決改善に心掛ける
（4） 「近助」の意義を深め合う議論に心掛ける
（5） 地域のささえあいの仕組みづくりについて、関係機関・団体との「協働」の意義を深め合うとともに、実践活動のプロセス重視を心掛ける

2. 会議・研修会等

（1）定例研究会 … 12 回（2020 年 4 月～2021 年 2 月〔毎月土曜日 19:00～21:30〕）
（2）自治会関係者会議 … 4 回（2020 年 9 月～2020 年 12 月〔毎月 25 日，19:00~20:00〕）
（3）町内会関係者会議 … 5 回（2020 年 9 月～2021 年 1 月〔毎月 10 日〕）
（4）調査研究部会 … 5 回（2020 年 7 月～2021 年 1 月，7/21，8/8，8/30，10/3，11/11）
（5）公開型研修会 … 2 回（11/15，2/28，13:00～16:00）

3. 「一人・家族・地域がつながり合う，これからの“福祉力”を探る－ご近所福祉その意識と実態調査」実施

今回の調査研究活動は、厳しいｺﾛﾅ禍を契機に、これまでのご近所の支え合いから、これからの支え合いについて、「静岡福祉文化を考える会」との協働調査により、全県域と焼津市港地域の地域性をもと、住民の意識と実態を把握し、これからの「港地域のご近所福祉」の在り方について、調査個票の作成検討から考察までのプロセスを住民主体で取り組み、これからの港地域の課題を整理し、その改善・解決に向けた提言を取りまとめることを目的に実施する。

4. 調査報告書「ご近所福祉その意識と実態調査報告書」の作成（A4 版，80 頁，200 部作製）

厳しいコロナ禍を契機に、これまでのご近所の支え合いから、これからの支え合いについて、「静岡福祉文化を考える会」との協働活動により、焼津市港地域の地域性をもとに、住民の意識と実態を把握し、これからの港地域の課題を整理し、その改善・解決に向けた提言を関係方面に報告する目的で作成。

5. 焼津福祉文化共創研究会通信による広報啓発

6. 協働団体（静岡福祉文化を考える会）との「ブログ」をリンク

「静岡福祉文化を考える会」との連携のもと、「日本福祉文化学会 HP」と「焼津福祉文化共創研究会ブログ」のリンクが，2020 年 7 月の日本福祉文化学会理事会で承認され、2020 年 8 月 3 日以降、本会の活動法状況を広く啓発できるようになった。

7. 今年度の事業に関わった人員

延べ，704 名

内訳：	(1) 調査協力者	…	345 名
	(2) 自治会関係者会議（4 回×17 名）	…	68 名
	(3) 町内会関係者会議（5 回×11 名）	…	55 名
	(4) 民生委員児童委員協議会関係者会議（3 回×24 名）	…	72 名
	(5) 公開型研修会参加者（第 1 回 26 名，第 2 回 30 名）	…	56 名
	(6) 調査研究部会（5 回×6 名）	…	30 名
◆	定例研究会参加者（通算 12 回）	…	延べ 110 名

8. 活動の成果

（1）事業の活動状況

本事業は、住民を主体に、「調査個票の作成」「調査の展開」「データ入力」「単純・クロス集計分析」等、会員相互の連携で、手づくりの調査活動に取り組むことができた。

年間計画に基づき、「定例研究会」他に，関連団体との連携，本会内に「調査研究部会」を新たに設置し、事業の円滑化に努めた結果、住民に対して IT（HP，ブログ）による地域問題を発信する広報啓発領域が拡大され、身近な地域問題への関心が高まった。

(2) 調査の回答状況

約 5,000 世帯をもって構成された「港地域づくり推進会」（港第 14・23 自治会）管内における「ご近所福祉その意識と実態調査」事業に取り組んだ。

コロナ禍の厳しい状況下であったが、会員の創意工夫により、360 枚の調査票を配布し、150 枚の回収目標の事業計画であったが、地域住民の関心度は高く、345 枚（回収率 95.8%）の調査票を回収できた。年代別・性別・領域別・居住歴別・家族構成別等、幅広い基本属性をもとに、管内住民の意識と実態を把握することができた。主には、男性 47.8%，女性 51.3%と男性からの積極的な回答が得られた。ほぼ，既婚者，持ち家の住民からの回答であった。年代別では、60 代～70 代は 26%前後、20 代～30 代は 7%前後、40 代～50 代は 13%前後とやや関心が薄い状況が明らかになった。

(3) 調査報告書による改善解決に向けた呼びかけ

広く調査に協力いただいた関係機関・関係者に呼びかけ、「集まる居場所」をもとに,「公開型研修会」を開催し，調査活動の意義とプロセスを通じて、調査結果から浮き彫りになった課題を共有し、改善解決に向けた呼びかけをすることができた。

(4) 「地縁団体」と「志縁団体」との「協働」

管内自治会・町内会、民生委員児童委員協議会等に，調査の協力をいただき，今回の考察結果を情報提供することにより，今後において「地縁団体」と「志縁団体」との「協働」がさらに一歩改善の兆しが見えてきた。

9. 今後に向けた課題

(1) 地縁団体との協働の重要性

「地域を知る」「地域活動の見える化・わかる化」を本事業で、広く地域団体・関係者に働きかけることができた。退任する関係者に，いかに，継続的につなげることができるか，現状では、なかなか難しい側面がある。引続き,「地縁団体」との協働連携を維持し，本会（「志縁」）の活動の取り組みを積極的に啓発し働きかけなければならない。

(2) 若い世代への情報発信

本事業により明らかになった「課題」を、日常生活の中で、改善・解決するための情報提供の仕組みをさらに検討していかなければならない。そのために,「本会ブログ」と管内自治会 HP とをリンクし、若い世代層に、いつでも情報を発信できるように努力したい。

すでに，作業は進んでいる。焼津市社会福祉協議会 HP に，各種団体とリンクする仕組みを明確にすることが望まれる。

(3) 活動結果を、行政や関係団体が理解するための積極的な情報提供と共有努力

2021 年度事業報告（活動3年目） 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

活動テーマ：港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る

1. 2021 年度本会活動の着眼項目

(1) 世代を超えて、「地域ぐるみの居場所」を創る「地域総合型学習」の場
(2) 「ご近所」を地域の話題とし、地域社会の課題提起ができる場
(3) 「専門性と市民性の融合」を基に、「協働」による課題解決改善に取り組む場
(4) 地域住民の「ご近所福祉　その意識と実態調査」結果から、浮き彫りになった議題を議論
(5) 地域のささえあいの仕組みづくりを「理論と実践」活動のプロセスで取り組む場

2. 会議研修等

(1) 定例研究会…12 回開催（原則毎月第 2 土曜日 18:30～21:30）
(2) 自治会関係者会議…延べ 6 回出席（港第 14・23 自治会関係者会議で調査説明報告）
(3) 町内会関係者会議…延べ 7 回出席（関係町内会関係者会議で調査説明報告）
(4) 調査部会…14 回開催（静岡福祉文化を考える会との協働による取り組み）
(5) 管内学校及び子ども会関係者連絡調整…延べ 8 回実施
(6) 港地区民生委員児童委員協議会定例会議出席説明報告…延べ 4 回
(7) 公開型報告研修会…コロナ感染対策の結果，今年度は開催見合わせ（準備完了）。

3. 「“福祉”ってなに？ 244 名の子どもたちに聞きました調査」の実施

地域コミュニティが希薄化している中、次世代を担う子どもたちの「思いやりの心」が確実に醸成されているか、大いに気になるところである。加えて，厳しいコロナ禍の続く今日にあって、子どもたちの福祉に対する意識と実態の現状はどうか、問い質す時期を迎えている。

この度の調査では、身近な生活圏域において、地域の大人社会と向き合う子どもたちを対象にご近所や同居する高齢者（認知症高齢者含)、障がい児者等への思いやり等の調査項目で、意識と

実態を把握し，子どもたちを取り巻く地域環境の課題を改善・解決し，「共生社会」をめざして、地域社会に提言することを目的に取り組む。

4. 「“福祉”ってなに? 244 名の子どもたちに聞きました調査報告書」の発行（A4 版，80 ページ，200 部）

5. 調査研究事業

(1) 「地域ぐるみの居場所」検証事業（継続事業）

2019 年度に実施した検証事業の継続的取り組みとして、55 の団体・グループを更に掘り下げ、更に、管内における「地域ぐるみの居場所」の把握に取り組んだ。

(2) ご近所福祉　その意識と実態調査」事業（継続事業）

2020 年度に実施した調査結果及び考察を、静岡福祉文化を考える会との協働により、さらに議論を深め、地域の実情把握による課題解決に向けて取り組んだ。

(3) 「150 名の子どもたちに聞きます“福祉”ってなに?調査」事業

大人社会の地域コミュニティへの希薄化の今日、港地域づくり推進会管内の小学校 5・6 年生を対象に、生活全般，家庭・家族，地域社会，地域参加等の意識と実態調査を実施し、これからの地域づくりへの提言の一助とする目的で実施。

6. 研修事業

(1) 「ご近所福祉検証学習会」（公開型研修会）の開催（継続事業）

2020 年度に取り組んだ「ご近所福祉その意識と実態調査」について、地域住民とともに、「若者発　ご近所福祉かるた」を教材にして、定例研究会等で随時実施。

助成事業支援団体（県コミ推協，焼津市社協等）、県及び市行政関係方面に研究会通信を通じて情報提供。

(2) 地域をつなぐ協働の努力

管内福祉施設連絡会との地域支援・生活支援に関して、研究会通信を通じて情報提供。

(3) 現場実践研修を協議

「若者発　ご近所福祉かるた」の活用による「近助」の在り方について、定例研究会で議論。

地域コミュニティ組織または福祉事業所・施設等における「近助」の在り方を定例研究会で議論しながら、地域ぐるみのささえあいと地域参加を議論。

(4) 調査研究考察報告

調査研究事業として取り組んだ結果を、研究会通信で関係方面に発信。

7. 広報事業

(1) 本会ブログによる，活動を通じた課題提起（日本福祉文化学会 HP を主体とした，静岡福祉文化を考える会ブログとのリンクによる発信。）
(2) 焼津福祉文化共創研究会通信の発行（No. 19～No. 31，13 回発行）
(3) 積極的なマスコミへの情報提供

8. 協働事業

(1) 管内福祉施設連絡会との協働事業
(2) 静岡福祉文化を考える会との協働事業
(3) 焼津市 V 連絡協議会との協働事業
(4) 各種団体・グループとの協働事業（港地域づくり推進会，港第 14・23 自治会、管内子ども会、管内小学校（2 ヵ所）、民生委員児童委員協議会等）

9. 関係機関・団体等との連携

(1) 静岡県社会福祉協議会，焼津市社会福祉協議会への情報提供・連携
(2) 「静岡福祉文化を考える会」及び「日本福祉文化学会」との情報の共有と活動の協働（「地方発　福祉文化の創造」の実践に基づく）
各種事業の取組についての情報提供
各種事業の実践活動の共有
(3) 関連機関・団体，大学・専門学校への情報提供
焼津市 V 連絡協議会との連携（定期総会出席，定期 V 連代表者会議出席と情報提供）
(4) ふじのくに未来財団への情報提供
(5) 静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供
(6) その他，必要に応じて，関係機関・団体に情報提供

10. 活動を振り返る（成果と課題）

(1)　コミュニティ意識が希薄化している社会で子どもたちは、大人社会に向けてどのように訴えているかを把握することができた。年間計画に基づき、定例研究会は、限られた会員の出席に、今年度は、「調査部会」を明確に位置付け、活動の進行管理をすることができた。

(2)　活動を通じて、「福祉文化」を「見える化」「わかる化」「見せる化」に努め、ブログにその都度考察した資料を UP した。その結果、この 1 年間の活動を県内外に発信することができた。また，講座開講から本会誕生後の 3 年間をまとめた内容を「あしたの日本を創る協会」発行の「まちむら」第 155 号・第 157 号に掲載していただいた。

(3)　特に，調査活動のプロセスでは、関係機関・団体等との協働（専門性と市民性の融合）の在り方を検証することができた。今年度は，子どもを取り巻く地域環境について、これからどのように再構築すべきかを、広く課題提起することができた。

(4)　制約された地域活動において、会員それぞれが、どのように関わることが必要か課題が浮かび上がった。「理論と実践の融合」を掲げている、本会の活動の方向性を改めて認識し、さらに発展していく活動に向けて努力をしたい。

(5)　「地域を知る」そして、そこから浮き彫りになった地域課題を改善し、解決していくための活動はいかにあるべきか、広く地域団体・関係者に働きかけるにあたり，地縁団体の現状で「協働」・「連携」を維持し、本会（「志縁」）の活動の取り組みを積極的に啓発し、地域活動に、ともに参画する地域づくりに向けて、地域市民に積極的に働きかけなければならない。

(6)　計画した地域活動を実現していくためには、活動資金（財源確保）の課題が大きい。
そのためには、地域社会にしっかりと問題提起をしていく提案をしなければならない。
単に，自己満足的な活動に留まっていては発展性がない。約 2 年間、厳しいコロナ禍で，活動が制約される中，活動の原点をもとに，地域課題（テーマ）を掲げていくことが求められる。

2022 年度事業報告（活動4年目）　2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
活動テーマ：ホッとする豊かな地域づくりを拓く“共創社会”実現を探る

1. 2022 年度 本会活動の着眼項目

(1)　世代を超えて、「ご近所福祉の構築維持(居場所)」を創る「地域総合型公開学習」の場
(2)　常に、地域社会に向けた課題提起と協働による活動ができる場
(3)　「専門性と市民性の融合」を基に、「協働」による実践的課題解決改善に取り組む場
　（地縁団体と志縁団体の融合）
(4)　3 年間の「調査結果・考察」から浮き彫りになった課題を議論し合う場（コーディネート資質の向上）
(5)　地域コミュニティの活性化に向けた仕組みづくりを「理論と実践の融合」で継続的活動に取り組む場
(6)　常に，地域社会に積極的に活動が展開できるように「活動財源確保」に努める

2. 会議・研修会等

(1)　定例研修会…12 回開催（原則毎月第 2 土曜日 18:30～21:00）
(2)　地域共生社会調査研究部会…10 回開催（「静岡福祉文化を考える会」との協働の取り組み）
(3)　港地区民生委員児童委員協議会…3 回説明報告出席
(4)　管内自治会関係者会議…3 回説明報告出席
(5)　さわやかクラブ関係者意見交換会…3 回説明報告出席

3. 活動内容

(1)「ホッとする，安心した地域づくりその意識と実態調査」の実施

地域住民相互のつながりやささえあいが弱くなり、地域コミュニティへの関りについて、その意識と実態が希薄化の傾向にあることが浮き彫りになった。長引く厳しいコロナ禍で，尊い地域コミュニティ組織は、さらに希薄化の傾向が見られ，「共助」「自助」がますます退行傾向にある。こうした社会環境の中で暮らす、高齢者の現状を把握するとともに、コロナ明けに、地域（ご近所）のささえあいの仕組みづくりに期待することは何かを問い質し、これから地域社会が果たす課題をまとめ、広く管内の住民に提言することを目的に実施した。

・管内の高齢者…315 名から回答
・調査実施協力者

✓	さわやかクラブ（老人クラブ）役員	20 名	
✓	管内民生委員児童委員	24 名	
✓	管内自治会・町内会・組長役員	36 名	
✓	管内学校関係者	2 名	
✓	管内福祉施設連絡会（介護事業所）	13 名	計 95 名

(2)「地域共生社会調査研究部会」の設置・開催
・開催回数…10 回
・参加者…本活動に関心のある管内外市民，延べ 50 名

(3)「ホッとする，安心した地域づくりその意識と実態調査報告書」の作成と配布
・「調査」を集計・考察・編集作業
・関わった方々…延べ 10 名
・調査報告書配布先
志縁団体（自治会・町内会・組長等役員）・協働団体（民生委員児童委員・さわやかクラブ）・日本福祉文化学会・焼津市行政各部署（地域福祉課・地域包括ケア推進課・広報課・市長）・静岡県及び焼津市社会福祉協議会及び焼津市Ｖ連絡協議会・静岡県関係行政機関（地域福祉課・長寿政策課）・静岡県コミュニティづくり推進協議会・研修会参加者・焼津警察署（管内交番）　　計 200 冊

(4)「協働団体との意見交換会」の開催: 延べ 8 回（138 名）
本事業を円滑に取り組むために、事業実施期間中，「さわやかクラブ（老人クラブ）定例会」（2 回），「自治会関係会議」（3 回），「地区民生委員児童委員協議会会議」（3 回）に出向き，「ご近所の支え合い」をテーマに意見交換をした。

(5)「公開型研修会：地域共生社会を語る」の開催（参加者:35 名）
「調査報告書」をもとに、「事業経過報告」「事業成果」「調査から見えたものはなにか」「住民主体の地域づくりを語る」「実践事例に学ぶ」（外部講師）をプログラムとして 2 月 18 日に開催した。

(6)「ご近所福祉を創る集い」の開催（参加者:延べ 100 名）
事業実施期間中に、3 回（7 月，11 月，2 月）協働団体（静岡福祉文化を考える会）との連携により、若者とともに制作した「若者発　ご近所福祉かるた」を活用して、地域の支え合いについて、小学生から大人社会が参加して、地域ｻﾛﾝ会場を中心，地域総合型・実践的体験的学習に取り組んだ。

(7) 会員レポート研修の取り組み
結成4年目を迎えた 2022 年度から、新たに、「会員を知りあう」目的で、毎月定例研究会において、地域で生活している会員が日ごろ感じていること、また、地域との関わりの中で思うことを、自由に語り、その後、会員相互に意見交換をする機会を持った。 8回開催。
・第1回（4月）「手話との出会い、そして介護福祉の道を歩んできた今、いかに“老い”と向き合うか」
・第2回（5月）「引きこもりがちな息子と実母との家族の事例から、近隣地域における支え合いを問う」
・第3回（6月）「市民と行政・社協との協働による地域課題解決を探る」
・第4回（9月）「67年の人生を振り返りながら、“地域の担い手”に求められるキーワードを語る」
・第5回（10月）「幼児教育30年から、これからの地域との関わり（地域デビュー）への思いを語る」
・第6回（11月）「施設福祉時代(措置制度下)を回想する
福祉は金持ちにはなれない、しかし“人持ち”（人脈）で自分磨きが出来た」
・第7回（12月）「過去の親戚家族における福祉ニーズを振り返る
－公助に頼らず、身内福祉(自助努力)で問題解決できたー　いまの社会に問う」
・第8回（3月）「私の地域参加のプロセスとこれからへの思い－地域出番の声を掛けてくれた“人”がいた!―」

(8)「ホッとする，安心した地域づくり」に向けた広報啓発
本会通信（毎月 150 部発行）、本会ブログにより，本事業の実施状況を中心に関係方面に発信。
①　日本福祉文化学会 HP を主体に、静岡福祉文化を考える会ブログと本会ブログをリンクし，広く活動を通じた課題提起を発信。
②　「焼津福祉文化共創研究会通信」発行（No.32～No.43，12 回発行）
③　マスコミへの積極的な情報提供。

4.協働事業
(1)　「管内福祉施設連絡会」との協働事業
(2)　「静岡福祉文化を考える会」との協働事業
(3)　「焼津市Ｖ連」との協働事業
(4)　「港地域づくり推進会」，「港第 14・23 自治会」，「管内子供会」，「管内 2 つの小学校」，「港地区民生委員児童委員協議会」等各種団体・グループとの協働事業

5.地域の団体等との連携

本事業を実施するにあたり，この一年間活動を通じて連携を維持してきた団体

①静岡県関係行政
（地域福祉課，長寿政策課，地域振興課）
②静岡県関係団体
（静岡県社会福祉協議会，静岡県コミュニティづくり推進協議会，ふじのくに未来財団）
③焼津市関係行政
（焼津市地域福祉課，地域包括ケア推進課）
④焼津市社会福祉協議会
⑤焼津市ボランティア連絡協議会
⑥港中学校区介護事業所福祉施設連絡会
⑦焼津市港地区民生委員児童委員連絡協議会
⑧焼津市南部地域包括支援センター
⑨焼津市港地区さわやかクラブ
⑩管内公民館（港公民館，小川公民館）
⑪管内小学校 2 校，中学校 2 校
⑫管内港地域づくり推進会事務局
⑬管内 2 つの自治会
⑭管内県社会教育施設（県立焼津青少年の家）
⑮焼津警察署・小川交番
⑯管内居場所

6.活動を振り返る（成果と課題）

（1）　今日の地域事情から、計画的な地縁団体の活動や行事は、縮小または中止により、日常的な機能が十分に地域住民には伝わっていない。さらには、地域住民に対する地域の実情を理解する、情報提供の機会も十分に行われていない。こうした中で、高齢者を取り巻く生活状況や、地域社会のこれからのあり方を、特に若い世代に対して関心を持つ糸口を作ることが出来きた。

（2）　本会結成して 4 年間にわたり、「地域ぐるみの居場所検証」「ご近所のささえあい検証」「大人社会に向けた子どもの福祉提言検証」等に取り組み、今回 4 年目の取組として、「地域共生社会検証」の問題提起は、改めて「地域総合型学習の提供」として、管内の高齢者の意見をもとに，世代を超えた交流のあり方や、「公助」「共助」「自助」をそれぞれの立場で学び合う課題提起が出来た。そして、これまでの地域の支え合いを見直し、「地域の支え合いの再構築」を「地域共生社会を語る集い」を開催して問題提起することが出来た。

（3）　年度ごとの福祉課題をテーマに取組んできた「調査」は，今回は、厳しいコロナ禍下で、地域コミュニティの希薄化の中で，孤立しがちな高齢者の状況を把握して，「調査結果」を分析考察し「報告書」としてまとめることが出来た。このたびの取り組みは、管内外の住民に意識改革を働きかけ福祉コミュニティづくりの再構築を生み出す呼び掛けをすることが出来る。

（4）　会員中心に取り組む求心的・閉鎖的活動から、幅広い実践者等と会員により「調査個票の作成」「調査結果の考察及び有効活用方法」を議論するとともに、今日，問題解決は、制度や公助等「専門性」を重視した社会環境になりつつある現状から、コロナ後の地域社会について、高齢者とともに、改めて、私たちを取り巻く地域社会は、生活圏域の様々な福祉課題を、地域の持つ「福祉力」で支え合いの仕組みを構築していくことが必要か、「高齢者の真の自立と世代間の相互理解」等について、さらに，問題提起をしていく課題がある。

（5）　市民主体の福祉コミュニティの再構築について、管内住民と共に「みえる化」「みえる化」した「公開型研修会」の機会を確保し、「地域総合型学習」の取り組みを深め、地域性を鑑みながら、高齢者とともに、住民一人ひとりが担い手としての意識改革の機会を持つことをこれからも、働きかける課題がある。

（6）　広く，管内外の住民に「コロナ後の地域づくりは誰が担うか」（仮称）を特集として、本会広報誌「焼津福祉文化共創研究会通信」（結成以来，現在までに通算 33 号発行，毎月 100 部発行）を通じて、今後においても，広く管内外に啓発するとともに問題提起をしていく。

（7）　改めて、「協働」による地域づくりについては、積極的に「地縁組織」に働きかけていき、さらに「志縁組織」の取り組みを「見える化」，「わかる化」していく努力が求められる。具体的に、5 年目の活動に向けて，本会の活動基調を再確認していくことが必要である。

（8）　今年度は，「公益財団法人さわやか福祉財団地域助け合い基金助成事業」「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」により、計画に基づく活動実績が出来た。「活動財源確保」は、これからも引き続き努力していかなければならない。

2023 年度事業報告（活動5年目）　2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

活動テーマ：港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”

★5 年目の活動テーマの具体化

今年度掲げた活動テーマ「港地域のニーズ把握から“福祉文化としてのご近所を描く”」の意味するところは、これまでの 4 年間を振り返ると,「地域ぐるみの居場所の検証」「ご近所の支え合いの検証」「子どもを取り巻く地域を検証」「高齢者を取り巻く地域の検証」と，全体的に取りまとめると「地域を知る」「地域の現状の把握と課題発見」に取り組んできたことが確認できる。

5 年目の節目である今年度の活動は、これまでの 4 年間の活動から浮き彫りになった「地域の現状及び課題」を整理するとともに、次の段階として、住んで良かったと思える地域づくりの第一歩として、住民一人ひとりが、いかにして地域づくりに関わることが大切か、そして、これまで浮き彫りにした課題を、「地域の資源発掘」として，住民主体で解決していくプロセスを、理論と実践により取り組むことを「活動テーマ」に置き換えて取り組んだ。

具体的には、日常の生活を通して、世代や領域を超えた地域住民と向き合う機会を意図的に作りながら、相互理解を深めることや、「地縁組織」の現状の把握と、「志縁組織」の活動の発掘に努め「学校教育と社会教育」「行政と市民」（専門性と市民性）の「融合」について、さらに、一歩踏み込んだ議論を深めた。　本会の地域活動の在り方を広く管内外に情報発信し，管内で問題解決を完結することなく，地域活動への問題提起を心がけた。

市民主体による地域づくりの具体的な学習方法を問題提起し、これまで活用してきた，地域学習教材としての「若者発　ご近所福祉かるた」を「調査報告書」や「研究会通信」に積極的に掲載し紹介をした。

1. 2023 年度 本会活動の着眼項目

(1)　世代や領域を超えて、「身近な生活環境でのコミュニケーション力発揮の工夫」,「語れる環境」,「地域総合型学習」の醸成に努める。
(2)　常に、これまでの地域課題の整理に努め，地域社会に向けて「課題提起」する場をつくる。
(3)　「地縁組織」と「志縁組織」の「協働による地域づくり」に努める。
(4)　地域課題解決に向けた「行政と市民の協働」の在り方を，日常生活を通じて働きかけていく。
(5)　「地域資源の把握」を,「専門性と市民性の融合」で「見える化・わかる化」に努める。
(6)　活動の維持のための「活動財源確保」に努める。
(7)　「若者の地域参加」と「高齢者の社会的自立（地域参加）」による「地域づくり」への試みを発信。
(8)　地域をトータルにコーディネートする機能を検証する。

2. 会議･研修会等

(1)　定例研修会…12 回開催（原則毎月第 2 土曜日 18:30～21:00）
(2)　協働団体：静岡福祉文化を考える会と「共創社会実現研究会（調査部会)」…10 回開催
(3)　地縁団体「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」へ調査事業協力の呼びかけ
(4)　管内自治会関係者会議で、調査研究事業の経過説明・報告で出席
(5)　さわやかクラブ・焼津市民生委員児童委員協議会へ調査研究事業協力呼びかけ
(6)　管内の２つの中学校（小川中学校・港中学校）に、「調査研究事業」に関して、事前協議、経過報告、調査報告研修会等に関する協議

3. 活動内容

(1) この4年間取り組んできた「調査研究事業」を、定例研究会で継続検証活動

① 「地域ぐるみの居場所」検証事業（1 年目調査研究事業）
② 「ご近所福祉　その意識と実態調査」検証事業（2 年目調査研究事業）
③ 「“福祉”ってなに? 244 名の子どもたちに聞きました調査」検証事業（3 年目調査研究事業）
④ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」検証事業（4 年目調査研究事業）

(2)「地域課題解決と地域資源の発掘」検証活動

「地域資源を有効活用できるか」を、改めて、本研究会において検証することとした。
４月―全体把握　　　　　　　　５月－買い物・移動支援（企業の社会貢献時代）
７月―港地域の自治会単位の高齢化率・年少人口・生産人口の情報収集呼掛け
８月―「港地域づくり推進会の現状」「第１２町内会の現状」
９月―「焼津市内のミニディ・居場所の現状」　１０月―小川・港管内の児童・生徒の推移
１１月―障害児者事業所の現状　１２月―その後（５年後）の管内の介護事業所等の現状
１月―幼稚園・保育園の現状　　　２月―自治会単位　町内会・組の世帯規模数
３月―公園整備状況等を検証した。

(3) 会員レポート研修の取り組み

２年目を迎えた、今年度も、「会員レポート」を継続して取り組んだ。
「会員を知る」から、一歩見えてきたことは、「語れる環境なくして、問題解決の一歩はない」。
人前で、こんなことを話しても、話が「共有」しない限り、進展はしない。　こうした、一年間

の取り組みから、検証できていることは、制度で「公的機関・専門家による相談」をいろいろと個別に対応する時代を迎え、今一度「地域の教育力」「地域で問題解決できる地域力」「世話焼きさん・おせっかい屋さんの復活」もほしいと感じる２年目であった。１２回開催。

・第１回（５月）「所変われば、自治会・町内会の名称は違う　　住民の意識変革で地域が輝く」
・第２回（６月）「なかなか、普段の生活において、“死”　について話すことは出来ない　語れる環境の中で話してみたい」
・第３回（７月）「　ワーカーズコープ主催―“医師　中村哲　仕事・働くこと”　の映画を観て感じたこと」
・第４回（８月）「地域を知る、仲間づくり、楽しい時間をモットーに　私の地域活動実践」
・第５回（９月）「地域に日頃から関心を持ち、関わっている立場から、地域（地域づくり）は、一体だれが担うのか」
・第６回(10 月)「地域密着型介護事業所と地域との共生の現状と、チームオレンジコーディネーター―の委嘱を受けて感じること」
・第７回(11 月)「今、改めて“居場所”を考える」
・第８回(12 月)「娘との今まで、現在、そして、これから」
・第９回(１月)　「防災訓練がもたらす恩恵」
・第 10 回(３月)「かれこれ、自治会広報誌が誕生して１０年　いかに、地域を“見せる化・見える化”していくか」

(4) 中学生対象「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」検証事業

本会は、2019 年度結成以来,「専門性と市民性の融合」,「地域総合型学習」,「地域課題把握」の3 つの活動基調を基に「実践検証」「学習検証」「調査検証」の具体的な活動を展開してきた。

特に，この 4 年間,「調査研究活動」を重要な活動として、下記の取り組みをしてきた。

- ➢ 2019 年度：地域ぐるみの居場所検証（大人全般対象　55 団体把握）
- ➢ 2020 年度：居場所を取り巻く“ご近所福祉”検証（大人全般対象　345 名回答）
- ➢ 2021 年度：子どもから大人社会への提言（小学生 4～6 年生対象　244 名回答）
- ➢ 2022 年度：コロナ禍下における高齢者を取り巻く地域社会の現状と，コロナ明けの地域のささえあいの仕組みづくり検証」(高齢者対象　315 名回答)

5 年目の今年度は,「地域ニーズ把握から、“福祉文化としての地域のご近所を描く”」の本会活動テーマをもとに、中学生が地域社会に関心を抱き、積極的に地域参加をし、近い将来地域の担い手として期待をする中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる、これからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で、「私にとって“ご近所”とは中学生の意識と実態調査」を実施した。

＊協働団体　　静岡福祉文化を考える会
＊協　　力
焼津市立小川中学校　焼津市立港中学校　小川地区コミュニティ推進会　港地域づくり推進会　さわやかクラブ連合会やいづ　焼津市民生委員児童委員協議会
＊調査対象　管内の中学生（1～3 年生）を対象に，約 200 名の回収を目標にしたが、予想を大きく上回る４７６名からの回答をいただいた。
＊調査依頼／配布方法　各学校との協議により，生徒の自発的な取り組みによる協力で実施
＊調査項目

(1)基本属性　　(4)地域社会・地域活動に関すること
(2)生活状況　　(5)地域社会における福祉実体験に関すること
(3)家庭・家族に関すること　　(6)福祉社会への期待・提言（自由意見）

＊調査の展開

(1)調査実施要項・調査票検討　　2023 年 07 月～2023 年 08 月 10 日
・各学校関係者との協議,「本会定例研究会」,「共創社会実現研究会（調査部会)」を中心に検討した。
(2)調査実施要項・調査票完成　…　2023 年 08 月 20 日
(3)調査依頼（実施期間)　…　2023 年 08 月 25 日～2023 年 09 月 30 日
・回収まとめ…2023 年 09 月 30 日
(4)入力期間　…　2023 年 10 月 01 日～2023 年 10 月 30 日
(5)分析・考察　…　2023 年 10 月 30 日～2023 年 12 月 01 日
(6)調査報告書完成　…　2024 年 01 月 20 日
(7)公表・報告　…　2024 年 02 月 03 日
・公開型調査報告研修会，関係機関・団体等の各種研修会に情報提供
・本会通信経過報告及び考察概要掲載

(5) 「共創社会実現研究会（調査部会）」の設置・開催

＊「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」を実施するにあたり、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議(調査個票作成、調査集計・分析、調査結果考察、

調査報告書編集、調査公表検討等）の議論を深めるとともに、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題や、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言するための議論をする目的で設置した。

＊構　　成

専門性と市民性を融合した住民主体を基本に、本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画による構成をもって運営した。

＊協　　力　本会及び静岡福祉文化を考える会から情報提供してきた関係領域及び地域実践者

＊設置期間と研究会開催日

①設置期間　　本事業活動期間（令和５年７月１日より令和６年３月31日まで）

②開催時期　　本事業活動期間（令和５年７月１日より令和６年３月31日まで）に１０回開催

回	開催日時・会場	研究協議内容（概要）
第１回	7月　８日（土）18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識、課題整理
第２回	7月 15日（土）18:30 北川原公会堂	調査実施計画協議（調査実施要項・調査個票）
第３回	8月 19日（土）18:30 北川原公会堂	調査票配布検討、調査実施上の課題、調査集計作業
第４回	9月　9日（土）18:30 北川原公会堂	調査回収状況、調査集計作業、協働の課題
第５回	10月 14日（土）18:30 北川原公会堂	調査集計作業及び考察作業（意識と実態と提言）
第６回	11月 11日（土）18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察①
第７回	12月 16日（土）18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察②
第８回	1月１３日（土）18:30 北川原公会堂	調査報告書ページ仕立て作業、入稿、報告研修会計画
第９回	2月　３日（土）10:00 石津コミセン	調査報告書完成、調査結果の検証、調査報告研修
第10回	2月２４日（土）18:30 北川原公会堂	研究会総括（成果）　県社協への報告確認

(6)「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査報告書」の作成と配布

＊これからの地域づくりに向けて、地域社会に関心を抱き、近い将来、地域の担い手を期待する管内の中学生対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる地域社会づくりに、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、地域社会の活性化と、地域づくりの再構築を検証する目的で、「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」を管内の焼津市立小川中学校及び港中学校、２校の全面的なご支援とご協力、「地縁団体」「志縁団体」のご理解をいただき調査研究事業に取り組んできた。中学生からいただいた尊い意見を考察し、今日の地域環境の課題を改善・解決し「共創社会」をめざして、広く、管内外の地域社会に提言することを目的に「調査報告書」を作成した。

＊調 査 報 告 書 作成過程

(1)起案時期　令和５年９月に、　７月に設置した「共創社会実現研究会（調査部会）」の「第４回調査部会」にて「調査報告書作成企画書」（案）を協議決定

(2)編集期間　令和５年１２月１日～令和６年１月１０日
回収した「調査個票」を順次会員によりデータ入力をするとともに、「クロス集計考察」をし、「調査報告書企画書」に基づき編集作業に取り組んだ。

(3)印刷期間　令和６年　１月１０日～令和６年１月２５日

(4)配布期間　令和６年　１月２５日～１月２８日　＊助成事業報告

(5)事業総括　令和６年　３月「本会定例研究会」及び「第１０回共創社会実現研究会（調査部会）」にて総括

＊配布領域区分

No.	配　　布　　先	配布部数
1	研修会参加者	１６
2	焼津福祉文化共創研究会会員	１０
3	協働団体：静岡福祉文化を考える会	2
4	関連団体：日本福祉文化学会	1
5	焼津市社会福祉協議会	1
6	焼津市Ｖ連絡協議会	1
7	２中学校（小川中学校、港中学校）	2
8	２小学校（小川小学校、港小学校）・県立青少年の家	3

9	マスコミ各社	2
10	管内２公民館（小川公民館・港公民館　地域活動拠点事務局）	2
11	焼津市民生委員児童委員協議会	1
12	コミュニティ組織（５自治会）	5
13	焼津市関係行政課（市長、教育委員会）	2
14	静岡県社会福祉協議会	1
15	さわやかクラブ連合会やいづ	1
合　計		５０

(7)「協働団体との意見交換会」の開催: 延べ4回

本事業を円滑に取り組むために，意見交換を中心に取り組んだ。

(8)「中学生の“ご近所”その意識と実態調査結果報告研修会」開催

研修テーマ：地域を変える　中学生の“ご近所福祉”への提言とは

本会は、2019 年度結成以来、「専門性と市民性の融合」「地域総合型学習」「地域課題把握」の３つの活動基調を基に「実践検証」「学習検証」「調査検証」の具体的な活動を展開してきた。この４年間、「調査研究活動」を重要な活動として、下記の取り組みをし、その都度調査結果を「公開型調査報告研修会」として、地域の課題を市民に対して問題提起をしてきた。

＊２０１９年度：地域ぐるみの居場所検証（大人全般対象　５５団体把握）
＊２０２０年度：居場所を取り巻く“ご近所福祉”検証（大人全般対象　３４５名回答）
＊２０２１年度：子どもから大人社会への提言（小学生４～６年生対象　244 名回答）
＊２０２２年度：長引く厳しいコロナ禍下、地域（ご近所）の支え合いの仕組みづくり検証」
（高齢者対象　３１５名回答）

５年目の今年度は、地域社会に関心を抱き、近い将来、地域の担い手として期待をする中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加の必要性を呼びかけるとともに、世代間交流できる、これからの地域づくりに向けて、大人社会に提言する目的で、「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」を実施した。　この調査結果を地域市民に報告するとともに、これからの地域づくりを、世代を超えて語り合う目的で開催した。

＊主　　催　焼津福祉文化共創研究会　　＊協働団体　静岡福祉文化を考える会
＊協　　力　焼津市立小川中学校　焼津市立港中学校　焼津市民生委員児童委員協議会
港地域づくり推進会　小川地区コミュニティ推進会　さわやかクラブ連合会やいづ
＊着眼項目
(1)協働による,地域活動を検証する場
(2)中学生の“ご近所”の意識と実態を理解し合う場
(3)地域の課題発掘の「調査活動」５年間のプロセスを学ぶ場
(4)小地域における地域の支え合いの仕組みの“アイディア”を出し合う場
(5)いかに,ご近所を「見える化」「わかる化」するかを学び合う場
＊開催日時　令和６年２月 3 日（土）　１３：３０～１６：００
＊開催会場　焼津市石津　「焼津市石津コミュニティ防災センター」1階展示室
＊参加者　３０名
＊主なプログラム
・基調報告①「協働による、地域活動のプロセス　５年の歩み」
・調査報告「中学生の“ご近所”その意識と実態調査」結果から見えたもの
・円卓トーク「さあみんなで、安心して暮らし合う地域づくりを語りましょう。」

(9)　広報啓発活動

①　「日本福祉文化学会」HP を主体に，「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクによる本会ブログにより，広く活動を通じた問題提起を発信。
②　焼津福祉文化共創研究会通信の発行（原則，毎月 1 回発行，A4 版，両面印刷）

ＰＣメール送信先	配布及び郵送
1. 静岡県行政各課（地域福祉課/静岡県民生委員児童委員関連部署地域振興課）	1. 会員（１０）
2. 焼津市行政各課（地域福祉課・市民協働課・広報課・地域包括ケア推進課）	2. 焼津市ボランテイア連絡協議会加盟団体（１７）
3. 静岡県・焼津市各社会福祉協議会	3. 静岡福祉文化を考える会役員（２０）
4. 静岡県コミュ二ティづくり推進協議会	4. 港地域づくり推進会
5. 公益財団法人さわやか福祉財団	5. 港第１４自治会（１７）
6. 公益財団法人愛恵福祉支援財団	6. 港第２３自治会（１９）
7. 公益財団法人あしたの日本を創る協会	7. 小川小学校
8. ふじのくに未来財団	8. 小川中学校
9. 静岡福祉文化を考える会役員	9. 港小学校
10. 管内福祉施設連絡会（１３介護事業所）	10. 港中学校
11. 管内外活動グループ・個人（１０）	11. 県立焼津青少年の家
12 管内中学校（２）	12. 小川地区コミュニティ推進会
13. マスコミ各社	13. さわやかクラブ連合会やいづ
14. 県内ＮＰＯ法人（２）	14. 小川公民館
15. 港地域づくり推進会(港第１４自治会長)	15. 港公民館
	計　９０枚

③　マスコミへの積極的な情報提供
④「本会紹介パネル」を作成し、港公民館まつりの自治会活動展示コーナーに展示

(10)　関係機関・団体との連携

①　静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
②　「地方発　福祉文化の創造」の実践を基に、静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有と活動の協働
- 各種事業の取り組みについての情報提供
- 各種事業の実践活動の共有

③　関係機関・団体，大学・専門学校及び管内学校教育・社会教育領域への情報提供
④　焼津市Ｖ連絡協議会との連携
- 定例総会出席
- 定期Ｖ連代表者会議出席と情報提供（通信配布），問題提起による活動活性化の提言

⑤　ふじのくに未来財団への情報提供
⑥　静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供
⑦　管内福祉施設連絡会(介護事業所)との連携と情報共有（通信配布）
⑧　港地域づくり推進会（事務局: 港公民館）及び管内自治会（町内会）への情報提供
⑨　小川地区コミュニティ推進会（事務局: 小川公民館）
⑩　公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
⑪　公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
⑫　公益財団法人愛恵福祉支援財団への情報提供
⑬　その他，必要に応じて関係機関・団体に情報提供

4.活動を振り返る（成果と課題）

(1)　本会は、今年度、節目となる５年目の活動に取り組んだ。小さな活動（課題を掘り起こす）をいかに大きな活動（地域社会に課題提起）に展開できるか、工夫をしながら、そして、地域づくりに向けた「協働活動」のあり方を模索しながら実践し、地域社会に発信してきた。

(2)　特に、中心的な活動として取り組んできた中で、

＊１年目は、集める居場所ではなく、集まる居場所でありたいと議論しながら、地域社会において、今につないでいる「地域ぐるみの居場所検証」に取り組んだ。

＊２年目は、「ご近所福祉の検証」をした。

＊３年目は、にわかに、社会全体に子どもを取り巻く地域課題が浮き彫りになり、地域の子どもを地域で育むことが出来ているかを問う目的で、子どもたちから、地域の課題を発信する取り組みとして「子どもから地域社会への提言」をテーマに子ども対象調査に取り組んだ。学校教育（小学校）との連携、地域社会にある子供会組織への働き等に努めた。　本会の活動を通じて、これまでも、「教育と福祉の融合」について議論し、学校教育と社会教育との連携の在り方も課題として取り上げ、ささやかではあるが、管内の学校及び社会教育施設への情報提供に努めてきた。

＊４年目の活動は、「高齢者」の地域社会における見え隠れが課題として挙げられ、地域からの

支え合いで、積極的に社会参加できる地域環境を問う取り組みとして「コミュニティ組織の再構築の検証」に取り組んだ。５年目の今年度は、これまで、話題にしてこなかった「中学生」の地域社会における存在をこれからの地域づくりにいかに活かせるかを検証する目的で「地域づくりへの新たな提言検証」に取り組み、更に、学校教育領域(中学校)との連携と、コミュニティ組織（２つの中学校区を取り巻く地縁組織)への協力を働きかけて、引き続き、厳しいコロナ禍下、猛暑の中ではあったが、本会の活動を休止することなくここに、「プロセスを重視した福祉文化実践活動」が展開できた。

(3)　一般的に、こうした地域活動の「３要素」として、次のようなことが問われてきた。
これに対して、本会では、関係方面のご理解とご支援により、細く地道な活動が保障されてきたことは幸いであった。

①「もの」・・・活動拠点
常設的な活動拠点はないが、管内の地域資源として、地縁団体(町内会)の理解をいただき、活動出来る基盤は、なんとかこの５年間維持された。

②「ひと」・・・人脈・コーデイネート
集めるグループではなく、集まるグループ、地域を知り、地域の課題を学習していく、性差や世代を超えた意見交換が出来る、専門性と市民性を融合しながら、市民としての学び合いが出来る環境に努めてきた。

③「財源」
会費制を維持しながら、結成当初から、活動目的に応じて財源確保に努めてきた。

１年目　赤い羽根助成事業「地域ぐるみの居場所検証事業」(56,000 円)
　　　　静岡県コミュニティづくり推進協議会活動集団助成事業
　　　　「地域ぐるみの居場所調査報告書作成事業」(2019-2020 の２年間で 100,000 円)
２年目　赤い羽根助成事業「ご近所福祉検証事業」(100,000 円)
３年目　赤い羽根助成事業「小学生対象:福祉意識検証事業」(80.000 円)
４年目　公益財団法人さわやか福祉財団/地域助け合い基金助成事業」(200,000 円)
　　　　赤い羽根助成事業「みんなで福祉を創る講座事業」(48.000 円)
５年目　赤い羽根助成事業「中学生対象：ご近所検証事業」(80.000 円)

(4)「教育と福祉の融合」は、2021 年度に、小学生(小学４年生～６年生)対象に「福祉ってなに？244 名の子どもたちに聞きました調査事業」では、管内２つの小学校(小川小学校・港小学校)の協力と子ども会世話人の皆さんの協力により、対象児童数約２８０名のうち２４４名の児童からの回答（回答率約８７．１％）をいただいた。今年度は、中学生対象に実施した意識と実態調査事業は、対象生徒約５８３名のうち、４７６名の生徒から、尊い回答（回答率約８１．１％）をいただいた。　特に、中学生対象調査事業については、相当困難を予測していた。学校側との事前協議を重ねる中で、あくまでも中学生の主体的な調査協力をお願いした。その結果、本会が、掲げた回収目標を、大幅に上回った回答実績となった。
こうした調査事業は、決して、当初から、本会独自で成し遂げられるものではなく、全面的な管内の小・中学校のご理解ご支援とともに、コミュニティ組織(地縁組織＋志縁組織)のご理解により、これまでの調査事業の成果を生み出している。
現在、管内では、「コミュニティスクール事業」に取り組まれている中で、この調査の考察は、今後、地域社会のあるべき方向性を示すことが出来れば幸いである。

(5)「協働」による地域づくりについて，今後に向けて、更に積極的に「地縁組織」に働きかけていき，加えて、関連福祉団体が、「志縁組織」の取り組みを認識し、歩み寄ることを期待したい。そのためにも、本会の活動の「見える化」,「わかる化」の努力が求められる。

(6)　本会の日頃の活動を常に広く，県内外や管内外に、積極的に情報発信する努力した。
①協働団体:静岡福祉文化を考える会を通じて、日本福祉文化学会等とブログに活動状況をアップし、「地方発　福祉文化の創造」を発信してきた。
②本会広報誌「焼津福祉文化共創研究会通信」を、結成以来，現在まで通算 55 号発行し、毎月 90 部発行し、配布してきた。

(7)　今一度、本会結成の原点に戻る活動の必要性から、今年度「地域資源の把握と地域課題解決」を活動の一つに取り上げ、改めて、地域を知ることに努めた。
「管内の世帯状況」「管内の小学校・中学校の児童・生徒数」「管内の居場所・サロン設置状況」「管内の高齢化率・年少人口比・生産人口比の現状」「管内の障害者支援事業所の現状」等を確認し合った。更に、「幼稚園・保育園設置状況」「管内の外国人居住状況と地域交流の現状」「管内のさわやかクラブ組織の状況」「子ども会組織状況」等を今後の地域づくりの課題としたい。

(8)　「語れる環境なくして、問題解決の一歩はない」と、定例研究会に組み入れた「会員レポート」は、２年間継続出来た。「会員を知る」ことから、今後は、ゲストを迎えた学びを試みたい。

(9)　これまでの本会の５年の活動から、多少見えてきたのが「小地域活動」のあり方、とりわけ、「ご近所福祉」をどのように捉えていくかである。「現代版　ご近所福祉の復活」を試みる化の大きな課題が浮き彫りになっている。　これまでの調査活動から考察を整理する課題がある。

【焼津福祉文化共創研究会】 2023 年度活動計画

活動テーマ: 港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”

1. 本会の活動の原点とプロセス

本会の原点は，介護保険制度の導入により，「公助」ですべてが解決できるかのように社会が流されていたように感じられていた時期に，失われつつある「公助」の再構築こそ必要と，市民主体の地域づくりをめざすには，「地域を知ること」から始まると，2016 年度に既存の組織である「港地域づくり推進会」（港第 14・23 自治会組織）管内の住民に「港地域ささえあい講座」の開講を呼びかけた。

しかしながら，開催趣旨が十分に理解されず異論が飛び交う中で，開講につなげることができた。当初は，介護対象の「高齢者」を取り巻く地域問題を中心に展開したが，参加した市民からの要望を組み入れながら，「障害児・者を取り巻く課題」，「児童を取り巻く課題」等を加えながら 3 年間，「理論と実践の融合」をもとに，延べ 614 名の参加者とともに，「楽しいを創る地域の学び」を心がけながら講座に取り組んだ。住民主体の学びに徹した講座から，尊い「実践からの 10 の証」が浮き彫りになった。これらを研究協議する「市民活動団体」として，2019 年度に「焼津福祉文化共創研究会」を結成し，即「焼津市ボランティア連絡協議会」に 23 番目の団体として加盟した。

【3 年間開講した「港地域ささえあい講座」からの尊い「10 の証」】

(1) 語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態の仕組みづくり）
(2) 「地縁組織」（お互い様）と「志縁組織」（使命感）の融合による地域づくりの取り組み
(3) 「専門性」と「市民性」の融合（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と介護力 UP）
(4) 当事者組織化の支援
(5) 具体的な地域の生活支援策の把握
(6) 管内のささえあいの仕組みづくり
(7) 総合的地域支援組織の再構築（トータルコーディネート機能）
(8) 地域を「見える化」する広報啓発
(9) 制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
(10) ご近所福祉の復活

市民有志 14 名で結成した本会は，ここで 5 年目の活動になる。

「集める会」ではなく，「集まる会」を基本にして，現在 11 名の会員は，年度ごとの活動テーマをもとに，人脈とともに，活動の拠点を維持しながら，さらにはこの 4 年間，活動財源の開拓に努め，尊い「焼津市赤い羽根共同募金　地域福祉促進助成事業」，「静岡県コミュニティづくり推進協議会　コミュニティ活動集団助成事業」，そして「公益財団法人さわやか福祉財団　地域助け合い基金助成事業」により，地域の課題を中心に活動を展開し，下記の通り，年度ごとに，その年度の検証結果をもとに，地域住民に報告してきた。

■ 1 年目（2019 年度）

活動テーマ【港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】

約 5,000 世帯をもって構成されている「港地域づくり推進会」（港第 14・23 自治会）管内において，今日まで，地域や個々の人々のつながりの中で，気兼ねなく集まり，会話を交わし，ふれあい交流し，普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ 55 の既存の各種団体・グループを把握し，「集める居場所から集まる居場所」を課題提起した。

■ 2 年目（2020 年度）

活動テーマ【港地域のご近所を切り拓くﾊﾟｰﾄ 2ー協働による地域課題解決を探る】

1 年目に取りまとめた結果をもとに，さらに把握に努めるとともに，管内関係団体や住民に機会があるごとに情報を提供し，改めてこうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し，積極的に地域参加する機会を呼掛け，「ご近所福祉　その意識と実態調査」に取り組み，地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

■ 3 年目（2021 年度）
活動テーマ【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】

これまでの 2 年間にわたり考察・実践してきた活動のプロセスから改めて，港地域の現状を踏まえ地域を家庭化し，世代を超えて誰もが地域づくりに関われるご近所を“地域の居場所”としていく活動に取り組み，子どもを対象に管内関係団体・学校関係者の協力により，「福祉ってなに? 244 名の子どもたちにききました調査」に取り組み，尊い子どもたちからの意見を大人社会への提言としてまとめた。

■ 4 年目（2022 年度）
活動テーマ【わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る】

前半では,「みんなで創る福祉を学ぶ講座」を開講するとともに, 前年度の「子どもたちから，大人社会への提言」を，改めて地域住民と共有する学習の機会を持った。

長引く厳しいコロナ禍の中で,「高齢者」を取り巻く地域環境を危惧し，さらに具体的な滑動テーマを「地域共生社会をめざす仕組み検証事業　高齢者とともに，地域共生社会を拓く～ホッとする地域づくりは誰が担うか～」を掲げて,「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組み，管内の 315 名の高齢者から尊い意見をいただき，地域社会に向けて,「ホッとする地域づくり」を問題提起した。

中学校区を対象に取り組んでいる本会と，県域を対象に活動している「静岡福祉文化を考える会」と協働で「地域共生社会調査研究部会」を設置し，地域共生社会をめざす仕組みを検証した。

2. 5 年目の活動テーマの具体化に向けた「8 つの着眼項目」

(1) 5 年目の活動テーマの具体化とは

今年度掲げた活動テーマ「港地域のニーズ把握から“福祉文化としてのご近所を描く”」の意味するところは，改めてこれまでの 4 年間を振り返ると,「地域ぐるみの居場所の検証」,「ご近所の支え合いの検証」,「子どもを取り巻く地域を検証」,「高齢者を取り巻く地域の検証」と，全体的に取りまとめると「地域を知る」,「地域の現状の把握と課題発見」に取り組んできたことが確認される。

5 年目の節目である今年度の活動は，これまでの 4 年間の活動から浮き彫りになった「地域の現状及び課題」を整理するとともに，次の段階として，住んで良かったと思える地域づくりの第一歩として，地域を描く。また住民一人ひとりが，いかにして地域づくりに関わることが大切か，そしてこれまで浮き彫りにした課題を，地域の資源を発掘して，住民主体で解決していくプロセスを理論と実践により取り組むことを「活動テーマ」に置き換える。

これらの活動を展開するにあたり，本会の「3 つの活動基調」に基づく。

【焼津福祉文化共創研究会の 3 つの活動基調】

(1) さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが，専門分野と世代を超えて交流を図る。
(2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく, 広く市民に開かれた活動をめざす。
(3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし，つねに市民生活に密着した活動をめざす。

具体的には，日常の生活を通して，世代や領域を超えた地域住民と向き合う機会を意図的に作りながら，相互理解を深めることや,「地縁組織」の現状の把握と,「志縁組織」の活動の発掘に努める。

3 年目に浮上してきた「学校教育と社会教育」,「行政と市民」（専門性と市民性）の「融合」について，さらに一歩踏み込んだ議論を深めていく。本会の地域活動の在り方を広く管内外に情報発信し，管内で問題解決を完結することなく，地域活動への問題提起を心がけていく。市民主体による地域づくりの学習方法を開拓していく。これまで活用してきた，地域学習教材としての「若者発　ご近所福祉かるた」を有効活用する。

(2) 活動の着眼項目

① 世代や領域を超えて「身近な生活環境でのコミュニケーション力発揮の工夫」,「語れる環境」,「地域総合型学習」の醸成に努める。
② 常にこれまでの地域課題の整理に努め，地域社会に向けて「課題提起」する場をつくる。
③ 「地縁組織」と「志縁組織」の「協働による地域づくり」に努める。
④ 地域課題解決に向けた「行政と市民の協働」の在り方を，日常生活を通じて働きかけていく。
⑤ 「地域資源の発掘」に向けた,「専門性と市民性の融合」による「見える化」,「わかる化」に努める。
⑥ 活動の維持のための「活動財源確保」に努める。
⑦ 「若者の地域参加」と「高齢者の社会的自立(地域参加)」による「地域づくり」への試みを発信。
⑧ 地域をトータルにコーディネートする機能を検証する。

3. 具体的な活動内容

(1) 会議等

① 役員会の開催

(a) 実務型役員会運営に徹し，一丸となって，活動の進捗状況管理と検証に努める。
(b) 定例研究会開催日の前に，活動計画に基づく運営について，協議の場を持つ。
(c) 様々な地域実践活動から,「地方発　福祉文化の創造」を問題提起する。

② 定例研究会の開催

(a) 原則，毎月第 2 土曜日，18:30〜21:00 を定例開催日とする（別添活動計画表参照)。
(b) 各種活動の状況に応じて，臨時研究会をもって，円滑な運営に努める。

③ 事業関連部会設置と開催

(a) 本会活動の活性化と円滑な展開のため，事業別部会を設置して運営する。
(b) これまでの 4 年間の活動の取り組みから,「調査研究部会」,「広報部会」,「研修部会」を必要に応じて設置。
(c) 各部会で議論した内容は，本会の活動の成果につなげるよう努める。

(2) 調査研究事業

① 「地域ぐるみの居場所」検証事業（1 年目活動継続事業）

2019 年度実施の検証事業の継続的取り組みとして，55 の団体・グループをさらに掘り下げ，項目白紙欄の補充等も含め，管内における「地域ぐるみの居場所」の把握に取り組む。「紹介集」の更なる充実と共に,「居場所の意義」を推進する努力をする。

② 「ご近所福祉　その意識と実態調査」検証事業（2 年目活動継続事業）

2020 年度実施の調査結果及び考察を,「静岡福祉文化を考える会」との協働により，さらに議論を深めて，地域の実情把握による課題解決に向けた取り組みをする。

③ 「“福祉”ってなに? 244 名の子どもたちに聞きました調査」検証事業（3 年目活動継続事業）

2021 年度実施の調査結果及び考察を基に，学校教育や地域行事等において，引続き「若者発　ご近所福祉かるた」の有効活用による活用事例集の作成を検討する。

④ 「地域課題解決と地域資源の発掘」「中学生対象ご近所意識と実態調査」検証事業（新規事業）

地域課題解決に向けた,「地域資源の発掘」と、「中学生対象ご近所意識と実態」を調査し、これからの地域づくりを検証する。

⑤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」検証事業（4 年目活動継続事業）

高齢者からの尊い意見をもとに，これからの地域づくりへの提言内容をもとに，具体化するための意見交換をしていく。

(3) 研修事業

① 公開型研修会として「ご近所福祉検証研修会」の開催（継続事業）
- ➢ これまで3年間取り組んだ「地域ぐるみの居場所検証」,「ご近所福祉その意識と実態調査事業」,「子どもから大人社会への提言」,「高齢者からの地域づくりへの提言」等から浮き彫りになった課題を活動テーマに,「若者発　ご近所福祉かるた」を地域住民に福祉教育教材として有効活用に心がける。
- ➢ 助成事業支援団体（県コミ推協，焼津市社協等），県及び市行政関係方面に実施状況を発信する。
- ➢ 学校関係者に，積極的に「共生社会」実現に向けて，本会の活動を発信する。

② 地域をつなぐ協働研修会
- ➢ 管内福祉施設連絡会との「地域支援」,「生活支援」に関する協議研修会の開催。

③ 現場実践研修会
- ➢ 「若者発　ご近所福祉かるた」の活用による「近助」の在り方を学び合う機会を持つ。（学校教育領域）
- ➢ 地域コミュニティまたは，企業・福祉事業所・施設等における「近助」の在り方を議論しながら，地域ぐるみのささえあいと地域参加を議論。

④ 調査研究考察報告研修会
- ➢ 調査研究事業として取り組んだ結果を報告し，啓発研修の機会とする。

⑤ 会員による「地域との共生」をテーマとする発表の機会

(4) 広報事業

① 「日本福祉文化学会」HPを主体に,「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクによる本会ブログにより，広く活動を通じた問題提起を発信。
② 焼津福祉文化共創研究会通信の発行（原則，毎月1回発行，A4版，両面印刷）
③ マスコミへの積極的な情報提供

(5) 協働活動

① 管内福祉施設連絡会
② 静岡福祉文化を考える会
③ 焼津市V連絡協議会
④ 管内各種団体・グループ（地縁組織と志縁組織）
⑤ 管内学校教育及び社会教育領域

(6) 関係機関・団体との連携

① 静岡県社会福祉協議会，焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
② 「地方発　福祉文化の創造」の実践を基に，静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有と活動の協働
- ➢ 各種事業の取り組みについての情報提供
- ➢ 各種事業の実践活動の共有

③ 関係機関・団体，大学・専門学校及び管内学校教育・社会教育領域への情報提供
④ 焼津市V連絡協議会との連携
- ➢ 定例総会出席
- ➢ 定期V連代表者会議出席と情報提供（通信配布），問題提起による活動活性化の提言

⑤ ふじのくに未来財団への情報提供
⑥ 静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供
⑦ 管内福祉施設連絡会，地域包括支援センターとの連携と情報共有（通信配布）
⑧ 港地域づくり推進会（事務局: 港公民館）及び管内自治会（町内会）への情報提供
- ➢ 通信送信
- ➢ 各種活動状況報告

⑨ 港地区民生委員児童委員協議会への情報提供
⑩ 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
⑪ 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
⑫ その他，必要に応じて関係機関・団体に情報提供

●2023年度 赤い羽根みんなのしあわせ助成事業
焼津福祉文化共創研究会「私にとって"ご近所"とは 中学生の意識と実態検証事業」

「共創社会実現研究会」設置要綱

１．設置目的

今日、地域コミュニティへの参画の希薄化とともに、家族機能やご近所のささえあいは、制度や施策等公助ありきの意図的支援が当たり前のような社会環境になりつつある。

加えて、長引く、厳しいコロナ禍下において、ますます、地域コミュニティのつながりやご近所のささえあいが弱くなっている。こうした制約された社会環境の中で、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、とかく、地域活動から疎遠となりがちな中学生を対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、若者の地域参加を呼びかけ、世代間交流を通じて地域づくりの再構築について検証する目的で「私にとって"ご近所"とは その意識と実態調査」を実施する。

この調査を実施するにあたり、地域社会の現状認識、計画に基づく円滑な調査の展開協議(調査個票作成、調査集計・分析、調査結果考察、調査報告書編集、調査公表検討等)の議論を深めるとともに、調査結果をもとに、地域の教育力、次世代の地域の担い手の育成の課題や、若い世代の積極的な地域参加できる地域環境を醸成し、世代を超えた地域ぐるみの支え合いにより、地域共生社会づくりのあり方を大人社会に提言するための議論をする目的で設置する。

２．構　　成

専門性と市民性を融合した住民主体を基本に、本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画による構成をもって運営する。

３．協 力　これまで、本会及び静岡福祉文化を考える会から情報提供してきた関係領域及び地域実践者

４．設置期間と研究会開催日

(1)設置期間　　本事業活動期間(令和5年7月1日より令和6年3月31日まで)

(2)開催時期

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	7月　8日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識、課題整理
第2回	7月　15日(土)18:30 北川原公会堂	調査実施計画協議(調査実施要項・調査個票)
第3回	8月　19日(土)18:30 北川原公会堂	・調査票配布検討、調査実施上の課題反響、調査集計作業
第4回	9月　9日(土)18:30 北川原公会堂	調査回収状況、調査集計作業、協働の課題
第5回	10月14日(土)18:30 北川原公会堂	調査集計作業及び考察作業(意識と実態と提言)
第6回	11月11日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察①
第7回	12月16日(土)18:30 北川原公会堂	調査から見えた意識と実態と地域づくりの課題考察②
第8回	1月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査報告書ページ仕立て作業、入稿、報告研修会計画
第9回	2月　3日(土)10:00 石津コミセン	調査報告書完成、調査結果の検証、調査報告研修
第10回	2月24日(土)18:30 北川原公会堂	研究会総括(成果)　県社協への報告確認

５．研究会の運営・連絡先

(1)本研究会の運営は、「焼津福祉文化共創研究会」と「静岡福祉文化を考える会」が協働で実施する。

(2)本研究会の連絡先を下記に置く。

〒425-0041 焼津市石津 751-1 焼津福祉文化共創研究会 代 表 平 田 厚
電話＆FAX 054-624-1924　　携帯 090-4861-4547

●2023年度　赤い羽根共同募金助成事業
焼津福祉文化共創研究会　調査研究事業

「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」実施要項

1.　調査の目的

本会は，2019年度結成以来，「専門性と市民性の融合」，「地域総合型学習」，「地域課題把握」の3つの活動基調を基に「実践検証」，「学習検証」，「調査検証」の具体的な活動を展開してきた。

特に，この4年間，「調査研究活動」を重要な活動として，下記の取り組みをしてきた。

- 2019年度: 地域ぐるみの居場所検証（大人全般対象　55団体把握）
- 2020年度: 居場所を取り巻く“ご近所福祉”検証（大人全般対象　345名回答）
- 2021年度: 子どもから大人社会への提言（小学生4〜6年生対象　244名回答）
- 2022年度: コロナ禍下における高齢者を取り巻く地域社会の現状と，コロナ明けの地域のささえあいの仕組みづくり検証」（高齢者対象　315名回答）

5年目の今年度は,「地域のニーズ把握から,“福祉文化としての地域のご近所を描く”」の本会活動テーマをもとに，これまで地域社会では，中学生の地域参加を大いに期待しながらも，地域コミュニティの希薄化，家庭・家族機能やご近所福祉（支え合い）の多様化とともに，その基盤が不透明化，加えて，厳しいコロナ禍下にあって，一方では，制度や公助による意図的な支援が当たり前な社会環境の中で，住民主体の地域の支え合いや，若者との日常的な交流環境には至っていない。

ようやく，ここにきて，地域社会に明るい兆しが見えてきた時期に，地域社会に関心を抱き，近い将来地域の担い手として期待をする中学生を対象に，身近な地域に対する意識と実態を把握し，若者の地域参加の必要性を呼びかけるとともに，世代間交流できる，これからの地域づくりに向けて，大人社会に提言する目的で本調査を実施する。

2.　実施主体　　焼津福祉文化共創研究会

3.　協働団体　　静岡福祉文化を考える会

4.　協　　力

焼津市立小川中学校　焼津市立港中学校　小川地区コミュニティ推進会　港地域づくり推進会
さわやかクラブ連合会やいづ　焼津市民生委員児童委員協議会

5.　調査対象　　管内の中学生（1〜3年生）を対象に，約200名の回収を目標に実施

6.　調査依頼／配布方法　　各学校との協議により，生徒の自発的な取り組みによる協力で実施

7.　調査項目

＊　各学校関係者の指導助言をもとに「共創社会実現研究会」において協議し，調査項目（6項目，約35の設問をA3版両面）をまとめる。

(1)　基本属性
(2)　生活状況
(3)　家庭・家族に関すること
(4)　地域社会・地域活動に関すること
(5)　地域社会における福祉実体験に関すること
(6)　福祉社会への期待・提言（自由意見）

8.　調査の展開

(1)　調査実施要項・調査票（項目）検討　…　2023年07月〜2023年08月上旬
　＊　各学校関係者との協議，「本会定例研究会」，「共創社会実現研究会（調査部会）」を中心に検討
(2)　調査実施要項・調査票完成　…　2023年08月20日
(3)　調査依頼（実施期間）　…　2023年08月25日〜2023年09月30日
　＊　回収まとめ…2023年09月30日
(4)　入力期間　…　2023年10月01日〜2023年10月30日
(5)　分析・考察　…　2023年10月30日〜2023年12月01日
(6)　調査報告書完成　…　2024年01月30日
(7)　公表・報告　…　2024年02月中旬
　＊　公開型調査報告研修会(2/3)，関係機関・団体等の各種研修会に情報提供
　＊　本会通信経過報告及び考察概要掲載

9.　問合せ先・取りまとめ先

〒425-0041　焼津市石津751-1　静岡福祉文化を考える会　代表　平田　厚
TEL & FAX: 054-624-1924　携帯: 090-4861-4547　Email: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

●　この事業は,「赤い羽根共同募金」の助成を受けて実施しています。

「私にとって"ご近所"とは　中学生の意識と実態調査」にご協力ください

「焼津福祉文化共創研究会」は，さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に携わる人と市民がいっしょに，地域の抱えている生活全般の諸問題を考え，その改善のために努力していく目的で，2019年度に活動を始めて，5年目を迎えます。これまでに，大人を対象に「地域の居場所の検証」，「ご近所の支え合い」，小学生（4年生～6年生）を対象に「福祉ってなに? 244名の子どもたちの意見の検証」そして高齢者を対象に「安心した地域づくりの検証」に取り組んできました。

今年度は，小川・港中学校区の1年生～3年生の皆さんに，これからの地域づくりに向けて，皆さんの日常生活のこと，家庭・家族のこと，地域社会（自治会・町内会，ご近所）や地域活動のこと，身近な地域における福祉実体験のこと，地域社会に期待すること等の調査をお願いいたします。

皆さんから頂きました大切なご意見は，「安全で安心した地域づくり」に活かしてまいります。

どうぞよろしくお願いします。

■　**回答に当たり，**
- **各調査の設問に，特に指定がなければ，該当する番号1つに○をつけてください。**
- **各調査の設問に，指定がある場合は，指定の範囲内の選択数でお答えください。**
- **設問の回答が難しい場合は，次の設問に進んでください。**
- **「その他(　　　)」を選んだ場合は，(　　　　)に，具体的に記入して下さい。**

●　**この調査は，「赤い羽根共同募金」からの助成を受けています。**

2023年9月1日　　　　　焼津福祉文化共創研究会

設問01.　あなたのことについて，お答えください。
問01.　性別:　①男性　②女性
問02.　学年:　①1年生　②2年生　③3年生
問03.　あなたの家族についてお答えください。
①祖父母と一緒に暮らしている　②親と子どもだけで暮らしている
③その他（　　　　　　　　　　　）
問04.　あなたは，あなたを含めて，何人兄弟姉妹ですか。
①1人　②2人　③3人　④4人以上

設問02.　あなたは，今，趣味や特技がありますか。
①ある　②ない

設問03.　設問02.で「①ある」と答えた人に聞きます。あなたの「趣味や特技」を地域活動に活かそうと思いますか。
■　「私の趣味や特技」→（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
①大いに思う　②機会があれば活かそうと思う　③あまり思わない　④まったく思わない
⑤わからない

設問04.　あなたは，今の生活に満足していますか。
①大いに満足している　②満足している　③やや不満足である　④大いに不満足である
⑤わからない

設問05.　あなたには，今悩んでいることや心配なこと，困っていることはありますか。
主なものを3つまでお答えください。
①家族・家庭のこと　②兄弟姉妹のこと　③学校の勉強のこと　④友達関係のこと　⑤進学のこと
⑥将来のこと　⑦自分自身のこと（外見・身長・体重・性格・健康等）　⑧その他（　　　　　　　）
⑨困っていない

- 1 -

設問06.　あなたには，自分のことで困ったときは主に，誰に話したり相談したりしますか。
主なものを3つまでお答えください。
①友人　②父親　③母親　④学校の先生　⑤祖父母　⑥親戚の人　⑦兄弟姉妹
⑧その他の人（　　　　　　　　　　　）　⑨誰にも相談しない　⑩困っていない

設問07.　あなたには，「ホッとする，安心した居場所」はありますか。
①ある　②ない　③わからない

設問08.　設問07.で「①ある」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。
①自分の部屋　②家庭　③部活やサークル　④学校　⑤友達といる場所　⑥学習塾　⑦近所の家
⑧公共施設（公民館・図書館等）　⑨SNS　⑩その他（　　　　　　　　　　）

設問09.　あなたには，心を開いて話せる友人は，何人くらいいますか。
①1人～2人　②3人～4人　③5人以上　④いない

設問10.　あなたは，友だちが困っていたり，悩んでいたりしたらどうしますか。
①話を聞く　②別の友だちや大人などに相談する　③何もしない　④その他（　　　　　　）
⑤わからない

設問11.　あなたは，家族と話をしますか。
①よく話をする　②たまに話をする　③ほとんど話をしない

設問12.　設問11.で「①よく話をする」，「②たまに話をする」と答えた人に聞きます。どんな話をしますか。
主なものを3つまでお答えください。
①学校であったこと　②テレビ番組や雑誌などのこと　③趣味や遊びのこと　④社会の出来事
⑤親や祖父母のこと　⑥家族のこと　⑦家族の健康・介護等のこと　⑧近所の出来事
⑨自分の悩み　⑩将来のこと（進路）　⑪友人・知人のこと　⑫SNS　⑬その他（　　　　　　）

設問13.　設問11.で「③ほとんど話をしない」と答えた人に聞きます。主なものを3つまでお答えください。
①勉強が忙しくて，家族と話す時間が無い　②話したくない　③何を話していいのかわからない
④習いごと（部活）が忙しくて話す時間が無い　⑤その他（　　　　　　　　　　）

設問14.　あなたは，家の手伝いをしますか。
①ほぼ毎日手伝っている　②ときどき手伝っている　③言われた時だけ手伝う
④ほとんど手伝わない

設問15.　あなたは，毎日家族と楽しく過ごしていますか。
①楽しく過ごしている　②まあまあ楽しく過ごしている
③どちらかといえば楽しく過ごしていない　④楽しくない　⑤どちらともいえない

設問16.　あなたは，自分の住んでいる地域の「自治会・町内会・組」の名称を知っていますか。
①　知っている
（※わかる範囲で回答して下さい。　＿＿＿自治会＿＿＿町内会＿＿＿組）
②　知らない

設問17.　あなたは，自分の住んでいる地域の人々との交流について，どのようにお考えですか。
①地域の人々との交流は大切である　②地域の人々との交流はどちらかといえば大切である
③あまり大切だとは思わない　④まったく大切だとは思わない

- 2 -

設問18. あなたの地域は，「高齢者等一人でも安心して暮らせる地域である」と思いますか。
①強く思っている ②少し思っている ③あまり思ってはいない ④まったく思っていない
⑤わからない

設問19. あなたは，地域でどのようなことを心掛けていますか。主なものを3つまでお答えください。
①電車やバスの中で席を譲る ②点字ブロックの上に自転車を置かない
③体の不自由な人に道路を譲る ④困っている人に声をかける
⑤自分から進んであいさつをする ⑥わからない ⑦特に何もしない
⑧その他（ ）

設問20. あなたは，他人のために何かをしたいと思いますか。
①そう思う ②そう思わない ③どちらともいえない ④わからない

設問21. あなたは，近所の人に挨拶をしていますか。
①自分から進んでしている ②相手がしたときはする ③しない ④その他（ ）

設問22. あなたは，地域（自治会・町内会）が行うイベントによく参加していますか。
①よく参加している ②ある程度している ③あまり参加していない
④まったく参加していない

設問23. 設問22.で「①よく参加している」，「②ある程度している」と答えた人に聞きます。
主なものを3つまでお答えください。
①環境・美化活動 ②資源回収活動 ③青少年活動（子ども会支援等） ④地域のスポーツ大会
⑤地域のお祭り ⑥防災訓練 ⑦福祉イベントの手伝い（居場所） ⑧研修会・講座の手伝い
⑨学習支援 ⑩その他（ ）

設問24. 設問22.で「③あまり参加していない」，「④まったく参加していない」と答えた人に聞きます。
主なものを2つまでお答えください。
①時間が無い ②興味がわかない ③身近な情報がない ④参加のきっかけがない
⑤参加したいと思わない ⑥自分にはあわない ⑦一緒に参加できる仲間がいない
⑧その他（ ）

設問25. あなたが住んでいる地域は，良い地域だと思いますか。
①とても良い ②良い ③あまり良くない ④よくない

設問26. 設問25.で「①とても良い」，「②良い」と答えた人に聞きます。
どんな点が良いか，主なものを3つまでお答えください。
①自然が多い ②ご近所の付き合いがよい ③犯罪が少ない ④交通事故が少ない ⑤静かな地域
⑥地域の行事が多い ⑦交通の便が良い ⑧公園等がある ⑨その他（ ）

設問27. 設問25.で「③あまり良くない」，「④よくない」と答えた人に聞きます。
どんな点が良くないか，主なものを3つまでお答えください。
①自然が少ない ②近所の人と交流がない ③犯罪が多い ④交通事故が多い ⑤騒音がうるさい
⑥地域の行事が少ない ⑦交通の便が悪い ⑧公園等がない
⑨その他（ ）

設問28. あなたは，地域（自治会・町内会等）の行事の参加への呼掛けがあれば参加しますか。
①ぜひ参加したい ②出来る範囲で参加したい ③参加したくない ④わからない

設問29. あなたは，身近な地域の情報をどこから得ていますか。主なものを3つまでお答えください。
①家族 ②友だち ③ラジオ・テレビ ④インターネット ⑤新聞 ⑥市広報誌 ⑦回覧板
⑧学校 ⑨公民館だより ⑩スーパー・商店等の掲示板 ⑪自治会・町内会発行広報誌 ⑫口コミ
⑬チラシ ⑭その他（ ）

設問30. あなたは，身近な地域社会の日常的な生活の中で，高齢者や障がいのある人とのふれあい交流やボランティア活動をしたことがありますか（学校教育以外で）。
① ある →どんな交流・ボランティア活動ですか（ ）
② ない

設問31. あなたは，高齢者の方や障がい者の方が，身近な地域で生活していく上で，必要と思われる支援・サービスについて，主なものを3つまでお答えください。
①見守り・声かけ（安否確認） ②移動支援 ③買い物支援 ④配食 ⑤子育て支援 ⑥ゴミ出し
⑦調理 ⑧定期的なふれあいサロン（居場所） ⑨掃除（草取り） ⑩災害時の手助け
⑪話し相手 ⑫趣味・特技の援助 ⑬簡単な介助・介護 ⑭洗濯 ⑮ペットの世話 ⑯お墓の掃除
⑰簡単な修理 ⑱その他（ ）

設問32. あなたが，今後参加してみたい地域活動をお答えください。
①まちづくり（コミュニティ）に関する活動 ②地域安全・安心に関する活動
③青少年健全育成活動 ④文化・芸術・スポーツに関する活動 ⑤生涯学習に関する活動
⑥高齢者福祉に関する活動 ⑦障害福祉に関する活動 ⑧児童福祉に関する活動
⑨地域福祉に関する活動 ⑩保健医療に関する活動 ⑪国際理解・交流に関する活動
⑫環境保全・自然保護に関する活動 ⑬男女共同参画に関する活動
⑭防災（災害）等に関する活動 ⑮特にないがきっかけがあれば参加したい
⑯参加したくない（関心もない） ⑰その他（ ）

設問33. あなたの，地域参加活動に対するイメージは，どのようなものですか。
主なものを3つまでお答え下さい。
①時間に余裕がある人が行う ②思いやりがあるもの ③おせっかいなもの ④偽善的
⑤自らを成長させる ⑥楽しい ⑦自ら進んで行う ⑧責任が重い ⑨生きがいになる
⑩社会にとって必要 ⑪人手をおぎなう ⑫まちづくり ⑬仲間づくり ⑭わからない

設問34. あなたは，「赤い羽根共同募金」のことを知っていますか。
①内容を理解している ②内容を調べたことがある ③言葉だけは知っている ④知らない

設問35. ともに助け合う地域づくりに向けての，積極的な地域参加や，これからの地域社会への期待・提言（自由意見）について，箇条書きでお答えください。

【ご協力ありがとうございました】

焼津福祉文化共創研究会規約

第1章　総則

第１条（名　称）この会は、焼津福祉文化共創研究会と称します。

第２条（事務所）この会の事務所（連絡先）は「〒425-0044 焼津市石津向町 15-17 百の木ディサービス内（054-623-3665）」に置くこととします。

第2章　目的・事業・活動基調

第3条（目　的）この会は、さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考えその改善のために努力していくことを目的とします。

第4条（事業）この会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業をおこないます。

① 情報交換活動
② 啓発・広報活動
③ 人的交流
④ 研究会・講演会・セミナーなどの開催
⑤ その他、この会の目的を達成するために必要な事業

第5条（活動基調）この会の活動は、つぎのような基調を守っていくこととします。

① さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ります。
② 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざします。
③ 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざします。

第3章　会　員

第6条（会員の資格）この会の目的に賛同し協力をする個人。
原則として国籍・年齢・職業等を問いません。

第7条（入会）会員になろうとする人は、所定の申し込み用紙によって手続きをすることとします。

第8条（会費）会員は、規約により会費を納入しなければなりません。
2.既納の会費は返済しません。

第９条（退会）会員は、いつでも役員会に通告し、退会することができます。
2.会費を1年以上滞納した人は、委員会において退会したものとしてみなします。

第4章　機　関

第 10 条（役員）この会の役員は、代表１名、副代表1名、事務局長１名、監事とします。

第 11 条（役員の選任）代表、副代表、事務局長、監事は、会員の中から互選し、会員全体会の承認を受けます。

第 12 条（役員の任務）代表は、この会を代表して会務を総括します。

2.副代表は代表を補佐し、代表に支障が生じた場合には、
の職務を代行します。
3.委員は、事業・研究・広報・会計・事務局事務などの会務
を執行します。

第 13 条（役員の補充）役員が任期の途中で退任した場合には、委員会で補欠を選任することができます。

第 14 条（会員全体会）代表は、年 1 回は、会員の全体会を招集しなければなりません。
2.代表は、委員会が必要と認めたとき、または、会員の 3 分の 1 以上の請求があったときは、会員全体会を招集しなければなりません。

第 15 条（委員会）代表は、年4回程度、委員会を招集しなければなりません。

第 16 条（議　決）会員全体会の議事は、出席会員の過半数をもって決することとします。

第5章　会　計

第 17 条（経費）この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてます。

第 18 条（会費）この会の会費は、「社会人　年間 1,000 円」、「大学生以下年間 500 円」とし、原則として 1 回払いとします。

第 19 条（決算）この会の決算は、委員会の議決を経たあと、会員全体会の承認で決定します。

第 20 条（会計年度）この会の会計年度は毎年 4 月１日から3月３１日をもって終わるものとします。

第6章　規約の改正

第 21 条（規約改正）この規約の改正は、会員全体会において出席会員の3分の2以上の賛成をえなければなりません。

附　則　平成 31 年 4 月 1 日施行

令和５年度　焼津福祉文化共創研究会　会員　　順不同

平田　厚　原崎洋一　望月隆仁　原崎幸子　飯嶋論以子

河野惠介　大澤雅晴　安倍孝至　橋本和子　橋本雄介

事務局：〒425-44　焼津市石津向町　15-17
デイサービス　百の木　石津内
TEL　054-623-3665　　FAX　054-656-3731

中学生と「若者発　ご近所福祉かるた」で学ぶ“ご近所福祉”コーナー

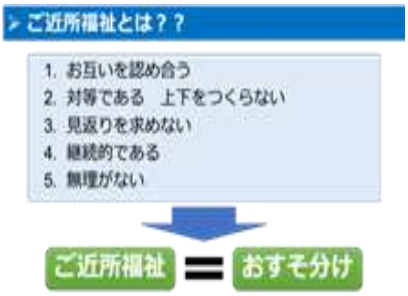
この「コーナー」は，本会協働団体:「静岡福祉文化を考える会」が「2015･2021 年度赤い羽根共同募金助成事業」により，若者の意見をもとに、“ご近所”のささえあいを学ぶ住民福祉教育教材として「若者発　ご近所福祉かるた」を製作しました内容を紹介します。「絵札」は、漫画家　法月理栄様が作画，「読み札」は、若者が、長寿者から学んだ“ご近所”を表現しました。それぞれの「かるた」には、「ｷｰﾜｰﾄﾞ」を強調して「解説」をしています。

今年度取り組みました「私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査」結果としてまとめました、この「調査報告書」に、これからの課題解決に向けて，有効に活用していただくように掲載いたしました。大いに、参考にしてください。

「若者発　ご近所福祉かるた利用の手引き」も作成しました。

●問い合わせは、下記までお願いします。

〒425-0041 焼津市石津　751-1
焼津福祉文化共創研究会　平田厚　℡･fax 054-624-1924



☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉” を学ぶ　①

「おすそ分け」は、単なる物だけではありません。
相手を思いやる心を添えた「おすそ分け」を心掛けましょう。
対等で、見返りを求めず、無理のない継続的信頼関係。

あ　ありがとう　優しい気持ちの　おすそ分け

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉” を学ぶ　②

今、世代を超えた地域づくりに**「居るだけのボランティア」**は欠かせません。若者も長寿者も、そろって地域に姿を見せているだけで、みんなの心が“ホッコリ”します。

い　居るだけで　温かいなあ　このまちは

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉” を学ぶ　③

運動会等地域の行事には、老若男女、地域住民がたくさん集まります。こうした伝統行事で**「地域ぐるみの居場所づくり」**を継続していきましょう。そして、声を掛けあいましょう。

う　運動会　ご近所みんなで　応援だ

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で “ご近所福祉” を学ぶ　④

いつも通るこの場所で、ご近所さんと出会ったときは、軽い会釈を交わしましょう。「お互いの気持ち」が通じ合います。
それだけで、**「ご近所さんとの信頼関係」**が生まれてきます。

え　会釈して　通り過ぎれば　顔なじみ

☆**中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で**

“ご近所福祉” を学ぶ ⑤

昔は、地域のあちこちに世話やきさん（おせっかいやさん）がいました。ご近所の皆さん一人ひとりと地域をつなぐ**「世話やきさん」**の復活を今こそ期待したいものです。

お　おせっかいと　思われようとも　世話をやく

☆**中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で**

“ご近所福祉” を学ぶ ⑥

災害は、いつやってくるかわかりません。日頃の生活の中で、家族みんなで防災について、話し合い深め、**「日頃の防災意識」**を高めるように努力をしていきましょう。

か　家族とも　話しておこう　避難みち

☆**中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で**

“ご近所福祉” を学ぶ ⑦

いつでも、どこでも、誰でも、ボランティア活動のチャンスがあります。**日頃から、身近な地域から「ボランティア活動」**のきっかけを見つける努力こそ大切です。 レッツ トライ ボランティア活動！

き　きっかけを　見つけて広げる　ボランティア

☆**中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で**

“ご近所福祉” を学ぶ ⑧

日頃から、ご近所みんなが、挨拶し合い声を掛けあっていきましょう。そして、積極的に、安心・安全な地域づくりを心掛け**「ご近所力で防犯（安全）強化」**に努めましょう。

く　暗い道　みんなで見守る　光る目で

☆**中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で**

“ご近所福祉” を学ぶ ⑨

一人より二人、二人より三人と、日頃からみんなで声を掛けあい、ご近所さん同士で集まる機会をつくりましょう。
そして、**「健康づくりで 地域の輪」**をさらに広げよう。

け　健康を　見守る優しさ　支え合い

☆**中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で**

“ご近所福祉” を学ぶ ⑩

日頃のご近所同士のお付き合いは、世代や領域を超えて、気軽に語れる環境づくりに努めましょう。 一人一人の歩み寄りで、これまでの尊い実体験からの**「子育て支援」**で悩みが解消できます。

こ　子育ては　語れる先輩　探すこと

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ⑪

地域には、いろいろと悩みを持った人や孤独な人がいます。明るく、元気で長生きする秘訣は、身近なご近所さんと、日頃から**「仲間づくり」**を心掛けましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ⑫

これまでの、いろいろな災害における教訓から「ご近所さん」は、とても頼りになります。普段から**「隣組」**との関わりをもったお付き合いを心掛けていきましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ⑬

地域づくりは、決して、役員さん（自治会長さん、町内会長さん、組長さん等）だけにおまかせではできません。本当の地域づくりは、日頃から、**「住民一人ひとりの参画」**こそ大切です。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ⑭

若者の言い分、大人の言い分をしっかりと聴き合い（傾聴）、日頃から、**「世代間交流」**に心掛けましょう。 そして、お互いに歩み寄り、相互理解に努めましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ⑮

さりげなく、お互いに、そばにいてくれるだけでいい**「居るだけのボランティア」**。家庭で、そして、ご近所で、日頃から「癒される人間関係づくり」を心掛けていきましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ⑯

少子超高齢社会の今だからこそ、地域住民一人一人が、お互いに歩み寄り、アイディア（知恵）を出し合って、みんなで**「地域福祉」**を推進していきましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ⑰

私たちの地域の伝統的な祭りや行事、食文化などは、次世代に、しっかりと伝えていかければなりません。身近な地域の**「地域文化」**の発見と発展をみんなで努力していきましょう。

ち
地域文化
祭りや食べ物
根付いてる

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ⑱

昔から、ずーと今日まで、最も私たちの身近な生活情報伝達手段の**「回覧板」**。家族一人一人が内容を理解したうえで、お隣さんには、必ず一声かけて、速やかに回しましょう。

つ
つなげてく
手から手へと
回覧板

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ⑲

子どもは、家族や地域社会を構成する立派な一員です。
「地域の子どもを地域で育む」地域環境づくりに、地域ぐるみで、日頃から努力していきましょう。

て
手伝いは
子どもの心
育ててく

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ⑳

何か１つは、他人に誇れる趣味・特技を誰もが持ち合わせています。自分自身を豊かにする趣味・特技を大いに地域で活かせるよう努力し、**「地域デビュー」**で、地域の輪を広げましょう。

と
得意わざ
活かして参加
地域の行事

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㉑

日頃から、ご近所さんとの会話を通じて、語れる・相談できる地域環境づくりに心掛けていきましょう。
そして、困った時には、**「三人よれば文殊の知恵」**でいきましょう。

な
悩んだら
文殊の知恵で
安心地域

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㉒

穏やかで、笑顔のあふれるつながりが、良い人間関係を継続させます。日頃のご近所同士の**「さりげないおつき合い」**で、さらに、より良いご近所の関係づくりを心掛けましょう。

に
にっこりと
笑顔いっぱい
おつき合い

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ㉓

集まるサロンは、対等で、本音で語り合えて、いつも笑顔がいっぱい。**「集めるから集まるサロン」**こそ「真の地域ぐるみの居場所」です。地域で、いつでも交流できる場をつくりましょう。

ぬ
ぬくもりは
サロンの仲間と
語り合い

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ㉔

助け合いの輪は、地域の隅々まで広げなければなりません。日頃から、世代や領域を超えて、みんなで**「地域の福祉力」**を高める地域活動の実践をしていきましょう。

ね
根付いてる
地域の隅々
助け合い

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ㉕

住み慣れた地域で、思いやりの心やお互い様の気持ちを広げたいものです。 日頃から、みんなで**「地域ぐるみの福祉教育」**を心掛けていきましょう。

の
伸ばそうよ
思いやりの芽
福祉の芽

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ㉖

ボランティア活動を始めるには、ちょっとした勇気が必要です。さあ、思い切って**「はじめの一歩」**で、私発のボランティア活動が始まります。そして、住みよい地域にしていきましょう。

は
初めの一歩
勇気を出して
地域デビュー

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ㉗

子どもの安全・安心をいかに確保していくか、今や、社会全体の問題となっています。さあ、身近な地域から、地域ぐるみで**「子どもの見守り・声かけ」**に取り組みましょう。

ひ
日暮れ時
帰る子どもに
一声を

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で
“ご近所福祉” を学ぶ ㉘

ふれあいの濃さは、時間の長さではありません。
日々の生活から**「さりげない日常会話（家庭機能）」**で「家庭力」を大いに高めていけるようにしましょう。

ふ
ふれあいは
親子の会話
さりげなく

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ　㉙

「ハイ」という返事だけでは、相手にすべてが伝わりません。
思いやりの気持ちも添えて、日頃から**「感謝の心」**を忘れないようにしましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ　㉚

我が子だけでなく、近所の子どもたちも、常に見守りをしたいものです。
日頃から、誰にでも、近所の子にも声を掛けて**「地域の子どもを地域で育む」**福祉力の向上を目指しましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ　㉛

長寿の秘訣は、日頃から、ご近所さんとの交流に努めていくことが大切です。自分から進んで**「コミュニケーション力」**UP に心掛けていきましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ　㉜

いろいろな人が暮らし合って、当たり前のご近所です。
日頃からのお付き合いの中から**「一声かけて安心し合える地域づくり」**を心掛けていきましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ　㉝

相手からの挨拶を待つことなく、こちらから、さりげない言葉掛けは微笑ましいものです。
まず、私から**「声かけ」**出来るように心掛けましょう。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ　㉞

“目は、口ほどに物を言う”と、昔から言われています。
「ふれあい」は、優しい目から、心から。
さあ、実践しましょう**「アイコンタクト」**。

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㉟

私たちの地域社会には、様々な地域課題があります。地域のみんなで**「地域課題発見」**に努め、一人一人が発想や視点を変えて、アイディアを出し合うことで解決につながります。「地域の現状を把握」して、ピンチをチャンスにかえましょう。

も
問題点
たくさんあるから
チャンスあり

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊱

昔は,子どもの周りに「怒るおじさん」(やかましい大人)がいたものです。 でも、その「怒るおじさん」(やかましい大人)も、立派な**「地域の教育力」**をもっていました。

や
やかましい
大人の注意で
振り返り

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊲

思いやりの行為は、した人もされた人も、お互いに気持ちが良いものです。「してよし、されてよし」。
いつでも、どこでも**「小さな親切」**で明るい地域をつくりましょう。

ゆ
譲り合い
してもされても
笑み浮かぶ

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊳

日頃から、ご近所の悲しみや喜びを、いつでも、どこでも共有できる地域でありたいものです。
こうした、**「支え合う地域」**を日頃から、みんなで心掛けましょう。

よ
喜びを
みんなで分け合う
地域社会

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊴

地域の一人一人が力を合わせ、身近な地域活動を継続すると、それぞれが自慢のご近所が実現します。
地域参加は、私にとっての**「生き甲斐づくり」**にもなります。

ら
ライフワーク
自慢のまちに
創り変え

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊵

安心・安全な街は、清潔な地域環境から生まれます。
「環境美化」は、私たち一人ひとりが、日頃から、正しいゴミの分別を徹底して、ゴミ出しをしましょう。

り
リサイクル
ゴミ出し袋も
気をつかい

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊶

老若男女、地域の誰もが楽しめる祭りが地域文化の発展につながります。住民一人ひとりの努力で、これまでの**「地域行事」**をさらに継続して、町おこしに努めましょう。

る
ルンルンと
地域行事に
胸躍る

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊷

地域には、長寿者の方、障がい児・者の方々やいろいろなハンデを持つ人がいます。 日頃の生活の中で、報告・連絡・相談時の言葉や態度はしっかりと**「相手を理解」**して向き合いましょう。

れ
連絡は
伝える相手で
言葉選び

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊸

「亀の甲より年の功」、長寿者に学ぶことは、日頃の生活のいろいろな場面であります。
「長寿者の社会参加」で、地域力の向上に努めましょう。

ろ
老人を
長寿者と呼び
知恵を借り

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊹

今こそ、若者が持っている特技や趣味を大いに発揮できるように、大人社会が、若者の地域デビューを呼び掛けましょう。地域ぐるみで**「若者の居場所」**づくりを目指し、「若者の地域参加」を積極的に働きかけていきましょう。

わ
若者が
未来の地域を
創ってく

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊺

若者が、長寿者から学んで生まれた読み札を基に誕生した**「若者発　ご近所福祉かるた」**。絵札とともに、大いにコミュニケーションを深め合いながら、「ほっとする地域」を学ぼう。

を
ご近所を
福祉でつなぐ
かるた会

☆中学生と「 若者発 ご近所福祉かるた」で

“ご近所福祉” を学ぶ ㊻

日頃から、ご近所さん同士が、声掛けやふれ合うことで、親しみが出来、大いに信頼関係が深まります。
そこに、**「ご近所福祉」**が根付いてきます。

ん
いたわりで
人の輪づくり
結ぶ縁

これからの“福祉”を考えるネットサイト

日本福祉文化学会 QR コード

港地域ささえあい講座 QR コード

静岡福祉文化を考える会 QR コード

焼津福祉文化共創研究会 QR コード

「若者発ご近所福祉かるた」
企画・制作: 静岡福祉文化を考える会　協力: 焼津福祉文化共創研究会

2023 年度
焼津福祉文化共創研究会５周年記念　調査研究事業
私にとって“ご近所”とは　中学生の意識と実態調査報告書

■　発　　行 焼津福祉文化共創研究会
〒425-0044 焼津市石津向町 15-17
デイサービス百の木石津内　焼津福祉文化共創研究会事務局
TEL: 054-623-3665　FAX: 054-656-3731

■　協　　力 静岡福祉文化を考える会
■　発 行 日 2024（令和６）年２月２４日
■　発 行 所 株式会社　セイコー社
〒425-0091 焼津市八幡三丁目　5-17
TEL: 054-626-5960　FAX: 054-626-5970

2024.2.24　50 部発行